

東京都国分寺市

恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅷ

— 国分寺市公共下水道面整備工事に伴う調査 —

1997. 3

国分寺市遺跡調査会

序

国分寺市内の縄文時代遺跡は、野川流域に沿った通称「ハケ」と呼ばれる崖線上の武蔵野台地に集中しています。武蔵野台地は、「恋ヶ窪谷」「さんや谷」「殿ヶ谷戸谷」「本多谷」などの「谷戸」により分割されており、遺跡はこうした谷に面した台地の縁辺部に発見され、崖線下には多くの湧水があります。

これら遺跡群の発見は古く、中でも本町遺跡は、明治26年、井上喜久次・島居龍藏によって発見され、井上による『東京人類学会雑誌』への紹介に続き、大野延太郎と島居の『武蔵国北多摩郡国分寺村石器時代遺跡』と題した報告が、同27年から28年にわたって同誌に掲載されています。大野・島居らはこの報文中、石器時代の遺物が後世の擾乱のないままに包含されている地層を「遺物包含層」、間壁や耕作などで遺物が地表に表れている場所を「遺物散列地」と名づけましたが、「遺物包含層」という用語は今日でも用いられています。

このたび実施した市公共下水道工事に伴う調査は、古くより発見されている市内の遺跡内に下水管を埋設するために壊される遺構や、遺物包含層より出土する土器等を記録・収集することを目的とした緊急調査です。

本調査報告にまとめておりますように、恋ヶ窪遺跡においては遺跡内の西側と北側の調査を行い、もっとも北側に位置する住居跡を把握するなど、縄文時代中期の集落跡の分布範囲が明らかになりました。また、歴史時代の遺構として、旧国鉄中央学園跡地で検出され、保存整備されることとなった「東山道武蔵路」とみられる道路状遺構の延長が本遺跡の西側を通過しており、その状況は学会からも注目されるものと思います。

恋ヶ窪東遺跡・花沢西遺跡・本町遺跡では、発見された遺構は少ないものの、縄文時代中期集落跡についての分布状況をつかむ手掛かりとなる資料が蓄積されたものと考えられます。

ここに調査成果を報告書として公にする運びとなりましたことは、ひとえに調査団長はじめ調査にかかわられた各位のご尽力のたまもので、心から御礼申し上げます。ご尽力の果実である本報告書が広く埋蔵文化財の保護普及に役立つとともに、調査により得られた多くの資料が国分寺市の古代文化や歴史の解明にさらなる知見を供することができれば幸いです。

末尾ではありますが、調査の趣旨を理解され多大なご協力とご援助をいただいた国分寺市都市整備部下水道課の方々へ厚く謝意を表します。

平成9年3月25日

調査会長 藤 間 恭 助

例 言

1. 本書は、東京都国分寺市西恋ヶ窪1丁目、東恋ヶ窪1丁目、南町3丁目、本町2・4丁目に所在する恋ヶ窪遺跡、花沢西遺跡、本町遺跡、恋ヶ窪東遺跡において昭和52年以来実施されている調査のうち、国分寺市公共下水道面整備工事に伴う調査の成果をまとめたものである。調査にかかわる費用は、国分寺市都市整備部下水道課が負担した。
 2. 調査は、昭和58年11月29日から平成5年9月27日まで行い、整理および報告書作成は平成9年3月25日まで国分寺市遺跡調査会恋ヶ窪事務所および西国分寺事務所で行った。
 3. 発掘調査は、広瀬昭弘と上村昌男が専従した。
 4. 本書の執筆・編集は、吉田 格・永塚光一・大川 清・坂詰秀一の監修のもとに上村昌男が担当した。
 5. 発掘調査から報告書の作成に至る過程で、次の方々から御教示、御協力をいただいた。
(敬称略、順不同)
- 早川 泉、河内公夫、新井健次、塚原二郎、中山真治、秋山道生、山崎和巳、砂田佳弘
6. 発掘および整理参加者 (敬称略、五十音順)

発掘作業

秋池勝利、新井哲人、市蘭勝志、大沼典剛、塩田光司、品田圭二、
進藤岳史、関 美男、竹内正則、那知上 清、畑山 豊

整理作業

石田美恵子、井村みゆき、内田勝己、遠藤 佐、木村初江、小林たづ子、
志摩明子、助川剛榮、塚田典枝、内藤靖子、中村宜弘、橋岡ゆう子、
原 俊二、広瀬みち子、深瀬恵津子、藤崎 努、菅川洋一、翠川泰弘、
村井ユキ子、村山 資子

凡 例

本 文

1. 国分寺市内の武蔵国分寺跡を除いた遺跡は、頭に「K」を冠し次に遺跡の番号と調査次数を記入する。本文中に於いて用いられた遺跡番号は次の通りである。

K 2 恋ヶ窪遺跡 K 8 花沢西遺跡 K 28 本町遺跡
K 57 恋ヶ窪東遺跡

また、「K2-36」は恋ヶ窪遺跡の36次調査を、「K28-3」は本町遺跡の3次調査を意味する。

2. 遺構は、各遺跡の各遺構毎にはほぼ発見順に連続番号を付し、下記の遺構記号を冠して表示する。本文中においては、「SI99」住居跡・「SK145」土坑の様に記入する。その番号は各遺跡全体における登録番号であり、本調査地区のみで完結しない。また、遺構表示の中の「J」は縄文時代の遺構であることを意味する。

SI 竪穴住居跡 SU 屋外埋塞 SS 集石
SK 土坑 SD 溝跡

3. 遺物の記述は全て一覧表によった。表記方法は下記の通りである。

- ① 出土遺物の番号は図面番号を用いた。例えば「15-1」とあれば「図面15-1」を指す。
② 出土位置の内、「SI104」は104号住居跡、「SK155」は155号土坑、「包含層」は遺物包含層を示す。
③ 計測値の内、記号なしは完形数値、()は復原数値、()は残存数値、—は計測不可を表す。

図面・図版

1. 遺構

- ① 遺構配置図表示の数字は、下記の設定基準に基づく。
- a. 国分寺市の基準点に基づく国家座表第9系による。(-30,000、-30,000を原点とする。)
- b. 南北軸は2m毎にアルファベット3文字の組合せで表示する。例-33,300は「DGA」
第1列は1000m毎にA・B・C・D・E・Fとする。
第2列は50m毎にA・B・C………S・Tとする。
第3列は2m毎にA・B・C………X・Yとする。
- c. 東西軸は2m毎に-30,000を0として数字で表示する。例-32,500は「1250」
- d. 区画(グリッド)の呼称は2m×2mの最小区画のみに与える。
その呼称は当該グリッドの北側東西ラインと東側南北ラインの表示を組み合わせたものによる。
例「DGA, 1250」
- e. 区画をまたがる範囲は次のように呼称する。

例 [DGA・DGB, 1250], [DHQ-DHS, 1242-1244]

f. K 8・28・57遺跡については、調査実施時に発掘の基準線が確立されていなかったため方位のみを示すこととする。

- ② 断面図表示の数字は水系レベルで、海拔高を示す。
- ③ スクリーントーンの指示は次の通りである。



- ④ 縮尺は次の通り統一した。

調査地全体図 1/1500 調査地点全体図 1/200
住居跡 1/60 炉 1/60 屋外埋喪 1/30 集石 1/60
土坑 1/60 溝跡 1/60

2. 遺物

- ① スクリーントーンの指示は次の通りである。



- ② 写真図版の内、出土遺物の番号は図面番号と対照にした。例えば「20-1」とあれば「図面20-1」のことを示す。

- ③ 縮尺は次の通り統一した。

図面 土器 1/3・1/6 土製品 1/2・1/3・1/6 石器 2/3・1/3
図版 土器 1/3・1/6・1/8 土製品 1/1・2/3・1/3
石器 1/1・1/3・1/4

本文目次

序	
例言	
凡例	
I 調査に至る経過	1
II 調査地区の概観	4
1. 調査地区の位置・立地	4
2. 層序	5
III 発掘経過	8
IV 調査地の概要	12
1. K2-36・40次調査	12
(1) 検出遺構 (2) 出土遺物 (3) 小結	
2. K8-4・6、K28-3、K57-2・3次調査	47
(1) 検出遺構 (2) 出土遺物 (3) 小結	
V 結語	53
参考文献	55
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図	恋ヶ窪遺跡と周辺の遺跡 (1/25000)	6
第2図	基本層序 (1/20)	7
第3図	公共下水道埋設工事位置図	10

表 目 次

第1表	調査工程表	11
第2表	K2-36・40 土器一覧表	30
第15表	"	43
第16表	K8-4・6、K28-3、K57-2 土器・石器一覧表	50

図 面 目 次

図面1	K2-36・40 調査地全体図	図面19	K2-36 SI99J 住居跡出土土器
図面2	K2-36 調査地点全体図(1)	図面20	K2-36 SI100・107・108J 住居跡出土土器
図面3	K2-36 調査地点全体図(2)	図面21	K2-36 SI108・109・111J 住居跡出土土器
図面4	K2-36 調査地点全体図(3)	図面22	K2-36 SI112J 住居跡出土土器
図面5	K2-40 調査地点全体図(4)	図面23	K2-36 SI113J 住居跡出土土器
図面6	K2-36 SI52・97・104~108J 住居跡	図面24	K2-36 SI113J 住居跡出土土器
図面7	K2-36 SI99・100・109・111J 住居跡	図面25	K2-36 SI113・114J 住居跡出土土器
図面8	K2-36 SI112~116J 住居跡	図面26	K2-36 SI114・115・117・118J 住居跡出土土器
図面9	K2-36 SI117a・117b~120・122J 住居跡	図面27	K2-36 SI118・119J 住居跡出土土器
図面10	K2-36 SI121・123a・123b・123c・126J 住居跡	図面28	K2-36 SI119~122J 住居跡出土土器
図面11	K2-36 SI124・125・127~129J 住居跡	図面29	K2-36 SI123J 住居跡出土土器
図面12	K2-36・40 SI130~132・135・141J 住居跡	図面30	K2-36 SI123・124J 住居跡出土土器
図面13	K2-36 SS22集石、SK145・154・155J 土坑 K2-40 SI137・139・142・143J 住居跡、SK156 土坑	図面31	K2-36 SI124J 住居跡出土土器
図面14	K2-36・40 SD2・S1溝跡	図面32	K2-36 SI124J 住居跡出土土器
図面15	K8-4・6 調査地点全体図 SU4層外埋藏、SS2~4集石 K57-2・3 調査地点全体図 SI2J 住居跡、SK2J 土坑	図面33	K2-36 SI124・125J 住居跡出土土器
図面16	K28-3 調査地点全体図 SI13J 住居跡、SU1~4層外埋藏	図面34	K2-36 SI125・128・129J 住居跡出土土器
図面17	K2-36 SI52・99J 住居跡出土土器	図面35	K2-36 SI130・131J 住居跡出土土器
図面18	K2-36 SI99J 住居跡出土土器	図面36	K2-36・40 SI132・135・137J 住居跡出土土器
		図面37	K2-36 SK145・155J 土坑出土土器 K2-40 SI139・141~143J 住居跡出土土器
		図面38	K2-36・40 SK145J 土坑出土土器、土製品
		図面39	K2-36 土製品、土製円板

図面40 K8-4・6 SU4野外埋蔵、SS3集石出土石器
K57-2 SI2J 住居跡出土石器
図面41 K28-3 SI13J 住居跡、SU1-4層外埋蔵出土
石器
図面42 K2-36 SI52・99・108J 住居跡出土石器
図面43 K2-36 SI100・103・112J 住居跡出土石器
図面44 K2-36 SI113・114・116J 住居跡出土石器
図面45 K2-36 SI117・118J 住居跡出土石器
図面46 K2-36 SI119-121J 住居跡出土石器

図面47 K2-36 SI121・123J 住居跡出土石器
図面48 K2-36 SI124・127J 住居跡出土石器
図面49 K2-36 SI125・126・128-130J 住居跡出土石
器
図面50 K2-36 SI131・135J 住居跡、SK145-154J 土
坑、遺構外出土石器
K2-40 SI137J 住居跡出土石器
図面51 K2-40 SK156J 土坑出土石器
K57-2 SI2J 住居跡出土石器

図版 目 次

図版 1 K2・8遺跡

1. K2遺跡遺景 (南から)
2. K8遺跡遺景 (西から)

図版 2 K28遺跡、K2-36

1. K28遺跡遺景 (南から)
2. 発掘作業風景 測量
3. 発掘作業風景 遺物取上げ
4. 発掘作業風景 遺構掘削
5. 発掘作業風景 実測

図版 3 K2-36

1. SI52J 住居跡全景 (東から)
2. SI52J 住居跡土層断面 (南から)
3. SI99J 住居跡全景 (北から)
4. SI99J 住居跡土層断面 (北西から)
5. SI99J 住居跡埋蔵 (南から)
6. SI96J 住居跡炉跡 (西から)
7. SI100J 住居跡全景 (北から)
8. SI100J 住居跡土層断面 (北西から)

図版 4 K2-36

1. SI104J 住居跡全景 (東から)
2. SI104J 住居跡土層断面 (東から)
3. SI105J 住居跡全景 (北から)
4. SI105J 住居跡土層断面 (東から)
5. SI106J 住居跡全景 (南から)
6. SI106J 住居跡土層断面 (東から)
7. SI107J 住居跡全景 (東から)
8. SI107J 住居跡土層断面 (北から)

図版 5 K2-36

1. SI108J 住居跡全景 (南から)
2. SI108J 住居跡埋蔵 (西から)
3. SI108J 住居跡土層断面 (西から)
4. SI108J 住居跡土層断面 (西から)
5. SI109J 住居跡全景 (南から)

6. SI106J 住居跡遺物出土状態 (南から)
7. SI112J 住居跡全景 (東から)
8. SI112J 住居跡炉跡 (西から)

図版 6 K2-36

1. SI113J 住居跡全景 (北から)
2. SI113J 住居跡炉跡 (北から)
3. SI113J 住居跡遺物出土状態 (東から)
4. SI114J 住居跡全景 (南から)
5. SI114J 住居跡炉跡 (西から)
6. SI115J 住居跡全景 (北から)
7. SI115J 住居跡土層断面 (東から)

図版 7 K2-36

1. SI116J 住居跡全景 (東から)
2. SI116J 住居跡土層断面 (東から)
3. SI117a・bJ 住居跡全景 (東から)
4. SI117bJ 住居跡土層断面 (北から)
5. SI118J 住居跡全景 (西から)
6. SI118J 住居跡炉跡 (北から)
7. SI120J 住居跡全景 (東から)
8. SI120J 住居跡炉跡 (北から)

図版 8 K2-36

1. SI119J 住居跡全景 (西から)
2. SI119J 住居跡炉跡 (北から)
3. SI119J 住居跡炉跡発掘 (北から)
4. SI121J 住居跡全景 (西から)
5. SI121J 住居跡土層断面 (南から)
6. SI121J 住居跡土層断面 (南から)
7. SI122J 住居跡全景 (南から)
8. SI122J 住居跡土層断面 (東から)

図版 9 K2-36

1. SI123a・b・cJ 住居跡全景 (東北から)
2. SI123a・b・cJ 住居跡土層断面 (東南から)

3. SI124J 住居跡全景 (東から)
4. SI124J 住居跡炉跡 (南から)
5. SI124J 住居跡埋藏出土状態 (北から)
6. SI125J 住居跡全景 (南から)
7. SI126J 住居跡全景 (北から)
8. SI126J 住居跡土層断面 (西から)
- 図版10 K2-36
1. SI127J 住居跡全景 (東から)
2. SI127J 住居跡土層断面 (南から)
3. SI128J 住居跡埋藏出土状態 (北から)
4. SI128J 住居跡埋藏 (北から)
5. SI128J 住居跡全景 (東から)
6. SI128J 住居跡土層断面 (南から)
7. SI129J 住居跡全景 (東から)
8. SI129J 住居跡土層断面 (南から)
- 図版11 K2-36・40
1. SI130・131J 住居跡全景 (東から)
2. SI131J 住居跡全景 (西から)
3. SI130J 住居跡土層断面 (北から)
4. SI130J 住居跡土層断面 (南から)
5. SI131J 住居跡土層断面 (北から)
6. SI131J 住居跡土層断面 (南から)
7. SI132J 住居跡全景 (北から)
8. SI132J 住居跡土層断面 (東から)
- 図版12 K2-36・40
1. SI135J 住居跡全景 (西から)
2. SI135J 住居跡全景 (東から)
3. SI135J 住居跡土層断面 (南から)
4. SI135J 住居跡土層断面 (南から)
5. SI137J 住居跡全景 (東から)
6. SI139J 住居跡全景 (南から)
7. SI139J 住居跡土層断面 (西から)
8. SI139J 住居跡土層断面 (西から)
- 図版13 K2-36・40
1. SI141J 住居跡全景 (北から)
2. SI141J 住居跡炉跡 (南から)
3. SI141J 住居跡炉跡土層断面 (東から)
4. SI142J 住居跡全景 (南から)
5. SI143J 住居跡全景 (東から)
6. SI143J 住居跡土層断面 (南西から)
7. SS22集石全景 (西から)
8. SS22集石土層断面 (西から)
- 図版14 K2-36
1. SK145J 土城全景 (西から)
2. SK145J 土城土層断面 (北から)
3. SI135J 住居跡内 SK153J 土坑全景 (南から)
4. SI135J 住居跡内 SK153J 土坑土層断面 (南から)
5. SK154J 土城全景 (東から)
6. SK154J 土城土層断面 (北から)
7. SK155J 土城全景 (東から)
8. SK155J 土城土層断面 (南から)
- 図版15 K2-36・40, K8-4
1. SD2溝跡全景 (東から)
2. SD2溝跡土層断面 (南から)
3. SD5溝跡全景 (東から)
4. SD5溝跡土層断面 (北から)
5. SK156土城全景 (東から)
6. SK156土城土層断面 (北から)
7. SU4屋外埋藏 (東から)
8. SS2集石全景 (東から)
- 図版16 K8-6, K28-3
1. SS3集石全景 (東から)
2. SS4集石全景 (東から)
3. SI13J 住居跡全景 (東から)
4. SI13J 住居跡炉跡 (北から)
5. SI14J 住居跡全景 (西から)
6. SU1屋外埋藏 (東から)
7. SU2屋外埋藏 (東から)
- 図版17 K28-3, K57-2・3
1. SU3屋外埋藏 (東から)
2. SU4屋外埋藏 (北から)
3. SK2J 土城全景 (南から)
4. SI2J 住居跡全景 (南西から)
5. SI2J 住居跡遺物出土状態 (南西から)
6. SI2J 住居跡土層断面 (東から)
7. SI2J 住居跡炉跡 (北から)
8. SI2J 住居跡炉跡土層断面 (北から)
- 図版18 K2-36
- SI52・99J 住居跡出土土器
- 図版19 K2-36
- SI99J 住居跡出土土器
- 図版20 K2-36
- SI99・100・107・108J 住居跡出土土器
- 図版21 K2-36
- SI108・109・111・112J 住居跡出土土器
- 図版22 K2-36
- SI112・113J 住居跡出土土器
- 図版23 K2-36

SI113・114J 住居跡出土石器
圖版24 K2-36
SI114・115・117~119J 住居跡出土石器
圖版25 K2-36
SI119~123J 住居跡出土石器
圖版26 K2-36
SI123・124J 住居跡出土石器
圖版27 K2-36
SI124J 住居跡出土石器
圖版28 K2-36
SI124・125J 住居跡出土石器
圖版29 K2-36
SI125・128~130J 住居跡出土石器
圖版30 K2-36・40
SI131・132・135・137J 住居跡出土石器
圖版31 K2-36
SK145・155J 土坑出土石器、土製品
K2-40
SI139・141~143J 住居跡出土石器
圖版32 K2-36
土製品、土製円板

圖版33 K28-3
SI13J 住居跡、SU1~4層外埋藏出土石器
圖版34 K8-4・6
SU4層外埋藏、SS3集石出土石器
K57-2
SI2J 住居跡出土石器
圖版35 K2-36
SI52・99・100・108・109・112・113J 住居跡出土石器
圖版36 K2-36
SI113・114・116~121J 住居跡出土石器
圖版37 K2-36
SI121・123~125・127J 住居跡出土石器
圖版38 K2-36
SI125・126・128~131・135J 住居跡、SK145・154J 土坑、遺構外出土石器
K2-40
SI137J 住居跡出土石器
K57-2
SI2J 住居跡出土石器

I 調査に至る経過

武蔵国分寺跡周辺地域において、昭和49年度より公共下水道埋設工事に伴う発掘調査を実施している。こうした道路下における工事に伴う発掘調査は多くの問題点があげられ、市都市整備部下水道課と調査方法について再三にわたり協議を重ねてきた。

当初の発掘調査方法は、下水道の本管や枝管工事を実施している最中に立会いを行い、遺構が検出されると工事を中断して本調査を行っていた。この方法によると、下水道工事の期間が決まっている中での調査となるため調査に制限を受けたり、遺構の発見が突発的なため調査に即応出来ないなどの問題点があげられた。こうした問題についての改善策として、工事の工期を十分とり試掘調査や本調査を実施することや、遺構が密集している地域については、工事の設計変更を行うことで対処してきた。

今回報告する花沢西遺跡や本町遺跡・恋ヶ窪東遺跡は、遺跡内における遺構の分布状況が明確でないため、工事中に立会い調査を実施し遺構が検出された部分について本調査を行う方法が取られた。

恋ヶ窪遺跡の中部地区32号工事については、市都市整備部下水道課と協議の結果これまで武蔵国分寺跡周辺地域で実施している調査方法がとられた。その方法は、下水道管理設備所全域について試掘調査を実施し発掘調査計画（期間及び費用）を作成し、下水道課と協議して本調査を進めるというものである。以下、調査方法について記述する。

- ①本管工事と別に試掘調査を行う。
- ②試掘調査の結果に基づき、遺構の保存のための計画変更を要請し、変更の出来ないものについて本調査を実施する。
- ③試掘調査で検出された遺構の中で工事の掘削幅より広がる遺構については、狭い範囲の中では遺構全体を把握できないことや作業に支障を来す場合があることなどから、歩行者の通路を確保し調査地点をできるだけ拡張して発掘を行う。
- ④下水道工事に伴う水道管・ガス管などの移設工事や、宅地内のマスの設置箇所についても調査が必要であるため調査地点を拡張して発掘を行う。
- ⑤交通量の多い幹線道路では、発掘地点を分割して調査を行う。
- ⑥調査期間中は地域住民に広報を行い、車両の迂回路を設定したり案内板を設置して安全対策を厳重に行う。
- ⑦道路上の発掘作業であるため、道路の掘削や復旧作業・保安設備といった土木作業と発掘作業を合わせて土木業者に委託する。
- ⑧下水道本管工事は、各々の路線の調査が終了したのちに行う。

このように下水道工事と発掘調査が分離したことによって、これまでに挙げられてきた問題

点の多くは改善されたといえる。また、道路上の調査であるため発掘調査の技術だけではなく、一般の土木工事に関する知識も必要であり、この部分を専門の業者に委託することによって安全面においても向上が図られた。

尚、現地における試掘調査や本調査は昭和58年11月29日～平成5年9月27日まで行い、多数の遺構・遺物が発見され、恋ヶ窪遺跡では36・40次調査、花沢西遺跡では4・6次調査、本町遺跡では3次調査、恋ヶ窪東遺跡では2・3次調査で登録されている。

国分寺市遺跡調査会組織

(平成9年3月現在)

————— 役員および監事 —————			
会 長	藤 間 泰 助	国分寺市文化財保護審議会委員長	
副 会 長	吉 田 悟	国分寺市文化財保護審議会委員	
理 事	水 峯 光 一	国学院大学教授	
理 事	坂 詰 秀 一	立正大学教授	
理 事	大 川 清	国士館大学名誉教授	
理 事	木 多 良 雄	国分寺市長	
理 事	内 野 孝 治	国分寺市教育委員会委員長	
理 事	野 村 武 郎	国分寺市教育委員会教育長	
理 事	星 野 亮 雅	国分寺市社会教育委員の会議議長	
理 事	本 多 資 太 郎	国分寺市文化財保護審議会副委員長	
理 事	古 岡 豊	国分寺市文化財保護審議会委員	
理 事	柴 崎 正 次	東京都教育庁生涯学習部副参事 (埋蔵文化財担当)	
理 事	山 崎 宏	国分寺市教育委員会社会教育部長	
監 事	榎 戸 潔	国分寺市社会教育委員の会議副議長	
監 事	可 見 通 宏	東京都教育庁生涯学習部文化課課長補佐 兼埋蔵文化財調整係長	

————— 事 務 局 —————			
事務局長	岡 村 豊	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課長	
事務局員	宇 都 宮 精 一	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課庶務係長	
事務局員	内 藤 達 也	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課庶務係員	
事務局員	藤 倉 しのぶ	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課庶務係員	
事務総括	松 澤 修	国分寺市遺跡調査会	

事務総括 宮保正美 国分寺市遺跡調査会

————— 調査団 —————

調査団長	吉田 格	国分寺市文化財保護審議会委員
主任調査員	有吉 重蔵	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課文化財保護係長
調査員	福田 信夫	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課文化財保護係員
調査員	上村 昌男	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課文化財保護係員
調査員	上敷領 久	国分寺市教育委員会社会教育部文化財課文化財保護係員
調査員	岩崎 玲子	国分寺市教育委員会社会教育部嘱託遺跡調査員
調査員	木下 さおり	国分寺市遺跡調査会
調査員	吉田 好孝	日本窯業史研究所
調査員	吉岡 秀範	日本窯業史研究所
調査員	中山 哲也	日本窯業史研究所

II 調査地区の概観

1. 調査地区の位置・立地

本調査を実施した地点は、恋ヶ窪遺跡と花沢西・本町・恋ヶ窪東遺跡であり、各々の遺跡の立地について説明する。

恋ヶ窪遺跡は、国分寺市西恋ヶ窪1丁目と東恋ヶ窪1丁目日立中央研究所構内の一部に所在し、眼下に野川の源泉を見下ろす武蔵野台地上に位置する。野川流域には縄文時代中期の遺跡が数多く発見されているが、本遺跡はその中でも代表的な遺跡で、勝坂式期や加曾利E式期の住居跡が多数発見されている。遺跡は、北側を除く三方向を野川の開析谷に囲まれた舌状台地の南西側に広がっており、同台地の南東部には羽根沢遺跡が立地している。本遺跡は東西600m・南北400mの広さをもち、標高は約76mで崖線下の低地部分との比高差は12m前後である。台地を刻む谷は、南側から西に延びる恋ヶ窪谷と東側から北へ延びるさんや谷の二つの谷で、南東部で合わさり湧水を集めて野川となり南流する。恋ヶ窪谷は比較的幅広のU字状の谷で、その傾斜は緩やかである。さんや谷は台地の東側では急傾斜で幅の狭いV字状を呈するが、北側に廻ると浅いU字状の谷となり台地の奥まで連なる。これらの谷筋には埋没・枯渇したものを含めると10箇所前後の湧水地点が確認され、集落を営むに優れた地形であったことがうかがわれる。

花沢西遺跡は、国分寺市本町4丁目と南町3丁目に所在する旧石器時代・縄文時代の遺跡で、恋ヶ窪谷とさんや谷が交わる野川左岸の武蔵野台地南西縁に立地している。比高差12mの国分寺崖線下には湧水があり、さらに周辺にも湧水地が認められる。遺跡はJR中央線によって二分され、北側には恋ヶ窪東遺跡が隣接し、谷を挟んだ野川の右岸には恋ヶ窪南遺跡がある。

本町遺跡はJR中央線国分寺駅東側の本町2丁目と南町2丁目に所在し、野川の開析谷である本多谷と殿ヶ谷戸谷によって囲まれた武蔵野台地の東南縁に立地している。遺跡の東側を刻む本多谷は南東から北に延び、遺跡付近では狭く急崖をなしている。いっぽう、南から西側に延びている殿ヶ谷戸谷は、幅が広く傾斜も緩やかである。この二つの谷に挟まれて、台地は舌状を呈している。近接している遺跡としては、東側にNO.29遺跡、殿ヶ谷戸谷を挟んだ南側に花沢東・殿ヶ谷戸遺跡、北側にNO.6遺跡がある。本遺跡の発見は古く、明治27年に大野延太郎・鳥居龍蔵により「武蔵国北多摩郡国分寺村石器時代遺跡」という論文が「東京人類学会雑誌」に掲載されており、遺物がどのような所から発見されるかを詳細に観察し、「遺物包含層」「遺物散列地」等の定義づけを行っている。

恋ヶ窪東遺跡は、国分寺市本町4丁目と日立中央研究所内の一部である東恋ヶ窪1丁目から東恋ヶ窪2丁目にかけて所在する。遺跡の西側には南北に延びるさんや谷があり、眼下に野川

の源泉を見下ろす武蔵野台地上に位置する。近接した遺跡としてさんや谷の対岸には羽根沢遺跡、南側には花沢西遺跡が立地している。

2. 層 序

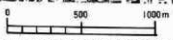
今回の公共下水道工事に伴う調査は武蔵野台地上に位置し、基本層序は各々の調査地における土層の断面図を使用した。

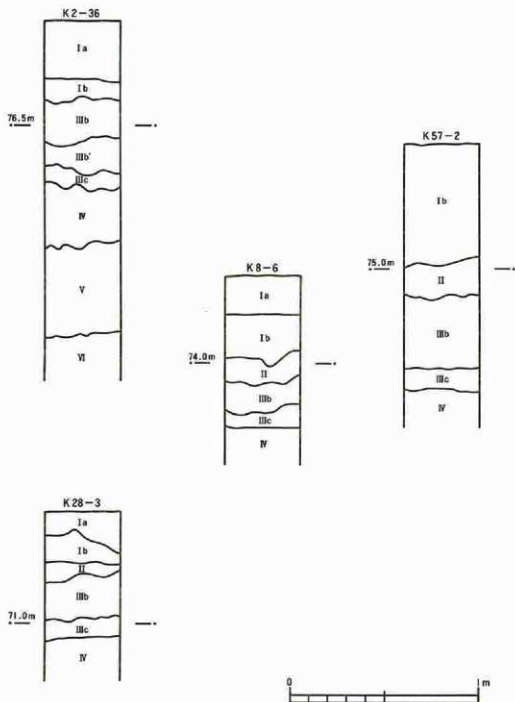
- | | |
|----------------|--|
| I a 層 盛土 | 各々の調査地にて検出される。道路下の調査であるため、地表面はアスファルトでその下は礫やロームブロックがまじった攪乱の層である。 |
| I b 層 表土耕作土 | 各々の調査地で検出される。暗褐色で乾燥するとバサつき崩れる。下部はII層の黒褐色土がまじる部分がある。 |
| II 層 黒褐色土 | K2-36・40次調査地を除く他の調査地で検出される。粒子が粗くボソボソした感じで粘性がない。歴史時代の遺構内に堆積している土層に酷似している。 |
| III b 層 暗茶褐色土 | 下部に行くほど茶褐色が強くなる。歴史時代の遺構確認面であり、また縄文時代の遺物包含層で、土器や石器・礫等が多く出土する。 |
| III b' 層 暗茶褐色土 | III b 層の土層に大粒の赤色スコリア粒子がまじった土層で、顕著に確認されるのはK 2 遺跡である。本層も縄文時代の遺物包含層であり、さらに多くの土器や石器等を出土する。 |
| III c 層 茶褐色土 | ローム漸移層である。縄文時代の遺構は、該層の上面にて検出が容易になる。 |
| IV 層 黄褐色土 | 立川ローム層のソフトロームである。 |

以上のような土層の堆積が各調査地で観察された。これらの土層のIII層とIV層において、縄文時代の遺構・遺物が検出され出土している。傾向としては、K2-36・40次調査地ではIII層がbとb'の2層に区分され、本土層の中位から遺構が掘り込まれていることが確認されている。



第1図 恋ヶ窪遺跡と周辺の遺跡





第 2 圖 基本層序

III 発掘経過

恋ヶ窪遺跡が所在する西恋ヶ窪1丁目地内の公共下水道面整備工事は、昭和60年度から着手された。これまでに、武蔵国分寺跡周辺においても公共下水道面整備工事に伴う発掘調査を行っている。調査の手順等はその方法に従い、対象地域の試掘調査を実施し調査計画を作成して、発見されている各々の遺構について本調査を行っていった。

当初は開削で調査地点にバリケードによる保安を行い作業を進めることが出来たが、途中から所轄警察所の指導によって調査地に覆工板（土木工事に使用する100～500kgの鉄板）を設置し、夜間は道路を開放する方法がとられた。その結果、発掘調査作業の工程の中で土木作業を行う割合が多くなり、土木作業に熟練し尚且つ発掘作業が出来る作業員が必要になった。

今回の調査では道路上の発掘作業を行う場合、道路占用許可申請の条件にしたがって土木工事と発掘作業を一括で業務委託し、調査会は監督・指導に当たっている。

本町遺跡や花沢西・恋ヶ窪東遺跡の公共下水道面整備工事の調査は、工事中の立会い調査で遺構が発見されたため発掘調査を実施した。その工程は、まず道路を掘削する際に遺構確認面まで掘り下げた状態で一度立会いを行い、遺構が検出されない場合は工事を続行し下水道管を埋設する。遺構が検出された場合は、工事を中断し発掘調査に移行するか、一時埋め戻して後日改めて調査を行う方法がとられた。

このような工程で立会い（試掘）調査・本調査を実施したが、道路上の発掘調査のため調査範囲に制限をうけたり、工事の工期が決まっているため十分な調査期間がとれない等の障害が多かった。また、遺構が検出された工事路線は発掘作業のために下水道工事作業が中断されたり、やむを得ず工期の延長がなされた場合もある。さらに、調査に対処するだけの調査会作業員や発掘機材が確保できない、調査員が発掘現場と立会い調査の掛け持ちを行わなければならない等の問題もあげられた。

以下、各遺跡における調査の概略を記することとする。

K28-3次調査

立会い調査期間	昭和58年11月29日～同年12月2日	実働日数3日間
本調査期間	昭和59年2月20日～同年2月21日	実働日数2日間
調査面積	1地点 18.0㎡	

K8-4次調査

本調査期間	昭和59年7月18日～同年7月20日	実働日数3日間
本調査面積	1地点 20.0㎡	

K57-2次調査

立会い調査期間	昭和60年1月9日～同年1月12日	実働日数4日間
本調査期間	昭和60年2月6日～同年2月8日	実働日数3日間
調査面積	5地点 174.6㎡	

K57-3次調査

本調査期間	昭和60年7月18日～同年11月25日	実働日数8日間
本調査面積	5地点 277.0㎡	

K8-6次調査

立会い調査期間	昭和60年10月9日～同年11月12日	実働日数10日間
本調査期間	昭和60年11月25日～同年12月9日	実働日数6日間
調査面積	2地点 89.0㎡	

K2-36次調査

試掘調査期間	平成2年6月4日～同年8月7日	実働日数21日間
本調査期間	平成2年6月23日～3年3月31日	実働日数196日間
本調査面積	15地点 114.01㎡	
本調査期間	平成3年4月23日～4年3月31日	実働日数179日間
本調査面積	19地点 333.9㎡	
本調査期間	平成4年4月7日～同年12月25日	実働日数152日間
本調査面積	12地点 173.3㎡	

K2-40次調査

試掘調査期間	平成3年10月17日～同年11月12日	実働日数13日間
試掘調査面積	538.17㎡	
本調査期間	平成5年1月5日～同年3月31日	実働日数42日間
本調査面積	5地点 89.5㎡	
本調査期間	平成5年4月5日～同年9月27日	実働日数108日間
本調査面積	16地点 187.58㎡	

各調査地点の位置ならびに進行状況については、第3図と第1表にまとめてあるので参照されたい。



第3図 公共下水道埋設工事位置図

IV 調査地の概要

1. K2-36・40次調査

窓ヶ窪遺跡の集落居住域北西地域の道路部分に下水道管を埋設するため発掘調査を実施した。調査地が下水道管埋設部分に限られる上に、既存施設による擾乱を受けているため遺構の一部しか確認出来なかった。遺構は縄文時代中期の住居跡や土坑が主で、他に歴史時代の道路状遺構などが検出されている。

(1) 検出遺構

SI 52J 住居跡（図面6 図版3）

〈位置〉グリッドの(DFH・DFI, 1273~1276)に所在する。〈規模〉東西4.6m、南北1.6m以上で確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土が主体に堆積する。〈柱穴〉径0.2~0.7mで深さ80cm前後の主柱穴3個と20~40cmの柱穴5個が確認された。〈出土遺物〉勝坂Ⅱ・Ⅲ式の土器片と打製石斧が多く出土している。〈時期〉勝坂式期の住居跡と考えられる。

SI 97J 住居跡（図面6）

〈位置〉グリッドの(DFI, 1272)に所在する。〈規模〉東西1.1m以上、南北1.1m以上で確認面からの掘り込みは30cmを計る。〈覆土〉茶褐色土が主体に堆積する。〈出土遺物〉勝坂式土器の小破片が出土する。〈時期〉勝坂式期の住居跡と考えられる。

SI 99J 住居跡（図面7 図版3）

〈位置〉グリッドの(DET~DEW, 1279~1281)に所在する。〈規模〉東西1.0m以上、南北8.0mで確認面からの掘り込みは20cmを計る。また、南壁から内側1.6mに周溝があることより拡張が行われたものと考えられる。〈覆土〉暗茶黒褐色土の土層が主体に堆積する。〈炉〉石囲炉で、炉跡の下から径0.8m深さ60cmの柱穴が確認される。〈埋襲〉南側壁から2.4mの位置に勝坂Ⅲ式の深鉢（図面17-11）が埋設されている。〈柱穴〉径0.2~0.5m前後で深さ20cmの柱穴が18個が確認された。〈出土遺物〉覆土の1層から土器・石器が多く出土する。〈時期〉勝坂Ⅲ式期の住居跡である。

SI 100J 住居跡（図面7 図版3）

〈位置〉グリッドの(DEX~DFA, 1280~1281)に所在する。〈規模〉東西0.9m、南北4.7m以上で確認面からの掘り込みは60cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で炭化物が多く含まれる土層が堆積

する。〈柱穴〉径0.6-0.8mで深さ60cmの主柱穴が3個と径0.3m、深さ20cmの柱穴が6個確認される。〈出土遺物〉覆土の2層から加曾利E式の土器片が出土する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。SI111J住居跡と重複し本住居跡が新しい。

SI 104J 住居跡 (図面6 図版4)

〈位置〉グリッドの(DDW・DDX,1300)に所在する。〈規模〉東西0.3m以上、南北2.3mで確認面からの掘り込みは30cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土を主体とする土層が堆積する。〈柱穴〉径0.3mで深さ10-20cmの柱穴が4個確認される。〈出土遺物〉加曾利E式土器の小破片が出土する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。

SI 105J 住居跡 (図面6 図版4)

〈位置〉グリッドの(DDY-DEB,1300)に所在する。〈規模〉東西0.2m以上、南北5.55mで確認面からの掘り込みは38cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土を主体とする土層が堆積する。〈柱穴〉径0.2mで深さ10cmの柱穴が2個確認される。〈出土遺物〉加曾利E式土器の小破片が少量出土する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。

SI 106J 住居跡 (図面6 図版4)

〈位置〉グリッドの(DEC-DEE,1300)に所在する。〈規模〉東西0.38m以上、南北4.95m以上で確認面からの掘り込みは24cmを計る。〈覆土〉茶褐色土を主体とする土層が堆積する。〈柱穴〉径0.6mで深さ15cmの柱穴が4個確認される。〈出土遺物〉加曾利E式土器の小破片が少量出土する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。

SI 107J 住居跡 (図面6 図版4)

〈位置〉グリッドの(DDX,1285-1287)に所在する。〈規模〉東西3.8m、南北0.4m以上で確認面からの掘り込みは20cmを計る。〈覆土〉暗黒茶褐色土を主体とした土層が堆積する。〈柱穴〉径0.6mで深さ10-60cmの柱穴が3個確認される。〈出土遺物〉加曾利E式の土器片が出土する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。

SI 108J 住居跡 (図面6 図版5)

〈位置〉グリッドの(DEC-DEF,1290・1291)に所在する。〈規模〉東西2.0m以上、南北5.6mで確認面からの掘り込みは20cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で炭化物が混じる土層が堆積する。〈埋設〉南壁より内側約0.7mに曾利系の加曾利E式土器(図面20-7)が埋設される。〈柱穴〉径0.65mで深さ30cmの柱穴が3個と径0.4mで深さ20cmの柱穴3個が確認される。〈出土遺物〉

加曾利E式第IV～V段階の土器片を多く出土する。〈時期〉加曾利E式期IV段階と並行する曾利系の住居跡である。

SI 109J 住居跡 (図面7 図版5)

〈位置〉グリッドの(DFC～DFE,1281・1282)に所在する。〈規模〉東西0.9m以上、南北5.8mで確認面からの掘り込みは24cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土が主体に堆積する。〈柱穴〉径0.4～0.7mで深さ30～40cmの柱穴が7個確認される。〈出土遺物〉加曾利E式の土器片が出土する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。

SI 111J 住居跡 (図面7)

〈位置〉グリッドの(DEY～DFB,1281)に所在する。〈規模〉東西1.0m以上、南北2.2m以上で確認面からの掘り込みは30cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土が主体に堆積する。〈柱穴〉径0.8～1.2mで深さ20cmを計る大きい落ち込み2個と、径0.3～0.4mで深さ40cmの柱穴4個が確認される。〈出土遺物〉勝坂式土器の小破片が出土している。〈時期〉勝坂式期の住居跡と考えられる。SI100J住居跡と重複しており本住居跡の方が古い。

SI 112J 住居跡 (図面8 図版5)

〈位置〉グリッドの(DEG,1286～1289)に所在する。〈規模〉東西5.2m、南北0.8m以上で確認面からの掘り込みは50cmを計る。〈覆土〉暗黒茶褐色土が堆積し炭化物が含まれる。〈炉〉径0.7mで深さ20cmの落ち込みの北側に勝坂Ⅲ式(図面22-5)の土器が埋設された埋燗炉である。〈柱穴〉径0.4～0.6mで深さ40cmの柱穴が2個確認される。〈出土遺物〉覆土の1層から土器片が多く出土し勝坂Ⅲ式の物が多い。〈時期〉勝坂Ⅲ式期の住居跡である。

SI 113J 住居跡 (図面8 図版6)

〈位置〉グリッドの(DEH～DEK,1290・1291)に所在する。〈規模〉東西1.6m以上、南北6.5mで確認面からの掘り込みは60cmを計る。また、南壁の内側に周溝1本が確認されており拡張を行なったものと思われる。〈覆土〉暗黒茶褐色土が主体に堆積しており炭化物が含まれる。〈炉〉長径1.0m、短径0.7mで深さ30cmの地床である。炉跡内には焼土が多量に堆積している。〈柱穴〉径0.3～0.6mで深さ50cmの柱穴が6個確認される。〈出土遺物〉覆土の1・2層から加曾利E式IV・V段階の土器片が多く出土している。その他に、蛇紋岩製の磨製石斧(図面44-5)などが出土している。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。

SI 114J 住居跡 (図面8 図版6)

〈位置〉グリッドの(DEL・DEM,1290・1291)に所在する。〈規模〉東西1.5m以上、南北3.0mで確認面からの掘り込みは22cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土が主体で、炭化物が混じった土層が堆積する。〈炉〉径0.7mで深さ5cmの落ち込みに焼土ブロックが堆積した部分があり地床炉と考えられる。〈柱穴〉径0.2~0.4mで深さ30cmを計る柱穴が2個確認される。〈出土遺物〉覆土の1層から勝坂式土器と加曾利E式土器の破片が出土する。〈時期〉勝坂式期の住居跡と考えられる。

SI 115J 住居跡 (図面 8 図版 6)

〈位置〉グリッドの(DEN・DEO,1290・1291)に所在する。〈規模〉東西1.4m以上、南北2.2m以上で確認面からの掘り込みは20cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土を主体にした土層が堆積する。〈出土遺物〉土器の小破片が出土する。〈時期〉SI114J 住居跡と重複しており本住居跡が古い。従って、勝坂式期の住居跡と考えられる。

SI 116J 住居跡 (図面 8 図版 7)

〈位置〉グリッドの(DEM・DEN,1283・1284)に所在する。〈規模〉東西2.7m以上、南北0.8m以上で確認面からの掘り込みは15cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土を主体にした土層が堆積する。〈柱穴〉径0.5mで深さ30cmの柱穴1個が確認される。〈出土遺物〉加曾利E式土器の小破片と石器が出土する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。

SI 117a・bJ 住居跡 (図面 9 図版 7)

〈位置〉グリッドの(DEM・DEN,1285・1286)に所在する。〈規模〉SI117aJは東西3.4m以上、南北1.4m以上で確認面からの掘り込みは20cmを計る。SI117bJは東西2.2m、南北0.35m以上で確認面からの掘り込みは18cmを計る。〈覆土〉SI117aJは、1~3層で暗茶褐色土が主体に堆積する。SI117bJは、④~⑥層で茶褐色土が主体に堆積する。〈柱穴〉径0.35mで深さ20cmの柱穴が1個確認される。〈出土遺物〉a住居跡から勝坂式土器の小破片と打製石斧が、柱穴内から石錐が出土する。b住居跡から遺物は出土していない。〈時期〉a住居跡は勝坂式期の住居跡と考えられる。重複して古いb住居跡も該期の住居跡であろう。

SI 118J 住居跡 (図面 9 図版 7)

〈位置〉グリッドの(DEN・DEP,1287~1289)に所在する。〈規模〉東西4.6m、南北1.7m以上で確認面からの掘り込みは40cmを計る。また、住居跡東壁の内側に周溝が2本検出されており、拡張が行われた可能性がある。〈覆土〉暗茶褐色土が主体に堆積し炭化物等も混じる土層が堆積する。〈炉〉径0.6mで深さ30cmの掘り込みに深鉢形土器(図面26-6)を設置し、周りに礫をお

いた石圍埋甕炉である。〈柱穴〉径0.3～0.6m深さ40～60cmの柱穴が4個確認される。〈出土遺物〉炉体土器、覆土中の土器とともに加曾利E式第II段階の土器である。その他、打製石斧や石皿等の石器類が出土している。〈時期〉加曾利E式期第II段階の住居跡である。

SI 119J 住居跡 (図面9 図版8)

〈位置〉グリッドの(DEF・DEG,1301～1303)に所在する。〈規模〉東西4.6m以上、南北1.7m以上で確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉暗黒褐色土が主体で炭化物が混じる土層が堆積する。〈炉〉径0.7mで深さ18cmの掘り込みに深鉢形土器と土器の底部(図面27-3・4)を設置し周りに礫をおいた石圍埋甕炉である。また、炉跡上面に深鉢形土器(図面27-5)が横位に出土する。〈柱穴〉径0.6m深さ40～60cmの柱穴が2個と径0.2m深さ20cmの柱穴4個が確認される。〈出土遺物〉炉体土器、覆土中の土器とともに勝坂Ⅲ式の土器である。石器類は石錐、石匙、打製石斧、磨製石斧、叩き石などが出土している。〈時期〉勝坂Ⅲ式期の住居跡である。

SI 120J 住居跡 (図面9 図版7)

〈位置〉グリッドの(DEF・DEG,1297～1300)に所在する。〈規模〉東西4.4m以上、南北1.6m以上で確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉暗黒茶褐色土で炭化物が混じる土層が堆積しており、炉跡周辺にはより多くの炭化物が混じる。〈炉〉径0.6mで深さ30cmの掘り込みに焼土ブロックが堆積する地床炉である。〈柱穴〉径0.5m前後で深さ50cmの柱穴が7個と径0.25m深さ20cmの柱穴3個が確認される。〈出土遺物〉炉跡内より加曾利E式V段階深鉢形土器(図面28-5)と浅鉢形土器(図面28-6)が出土している。〈時期〉加曾利E式V段階と並行する曾利系の住居跡である。

SI 121J 住居跡 (図面10 図版8)

〈位置〉グリッドの(DEF・DEG,1294～1297)に所在する。〈規模〉東西5.35m、南北1.4m以上で確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で炭化物多く含まれる土層が堆積する。〈柱穴〉径0.5mで深さ40cm前後の柱穴2個と径0.4mで深さ15～30cmの柱穴10個と径0.2mで深さ10～20cmの柱穴が4個確認された。〈出土遺物〉加曾利E式第IV段階と曾利系の土器片、石錐、打製石斧が出土する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。

SI 122J 住居跡 (図面9 図版8)

〈位置〉グリッドの(DEG・DEH,1300)に所在する。〈規模〉東西0.2m以上、南北2.2mで確認面からの掘り込みは20cmを計る。〈覆土〉茶褐色土ブロックが多く含まれた土層が堆積する。〈柱穴〉径0.2mで深さ15cmの柱穴1個が確認された。〈出土遺物〉加曾利E式Ⅲ段階の土器片が出土

する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。

SI 123a・b・cJ 住居跡 (図面10 図版9)

〈位置〉グリッドの(DEQ-DES, 1292-1295)に所在する。〈規模〉SI123aJは、東西5.0m、南北2.2m以上で確認面からの掘り込みは35cmを計る。SI123bJは、東西4.6m、南北2.2m以上で、確認面からの掘り込みは38cmを計る。SI123cJは、東西1.6m以上、南北1.0m以上で、確認面からの掘り込みは38cmを計る。〈覆土〉a 住居跡⑤-⑬層で、暗茶褐色土に炭化物のまじる土層が堆積する。b 住居跡(13)・(14)層で、暗茶褐色土にロームブロックが含まれる土層が周溝内に堆積する。c 住居跡1-4層で、暗茶褐色土に炭化物が少量まじる土層が堆積し、茶黄褐色土でロームブロックが混じる土層によって貼床が行われている。〈炉〉b 住居跡に径0.6m深さ20cmを計る地床炉が確認される。〈柱穴〉a 住居跡は径0.4-0.6mで深さ60cm前後の柱穴5個確認された。b 住居跡は0.2mで深さ30cm前後の柱穴5個確認された。c 住居跡は径0.1-0.3mで深さ20cm前後の柱穴5個が確認された。〈出土遺物〉b 住居跡炉跡内から勝坂Ⅲ式の深鉢形土器(図面29-2)が出土している。その他の土器としては勝坂Ⅱ式の深鉢形土器、加曾利E式Ⅱ-VI段階の土器片、後期の称名寺式土器片等がある。石器類としては打製石斧が多く石鏃、磨製石斧、石匙、磨石などが出土している。〈時期〉b 住居跡は勝坂Ⅲ式期の住居跡である。3つの住居跡の新旧関係は土層断面より旧 SI123aJ → SI123bJ → SK123cJ 新の順である。従って、a 住居跡は勝坂式期、c 住居跡は加曾利E式期と考えられる。

SI 124J 住居跡 (図面11 図版9)

〈位置〉グリッドの(DES-DEV, 1297-1299)に所在する。〈規模〉東西4.5m、南北1.8m以上で確認面からの掘り込みは40cmを計る住居跡と、その内側に東西4.0m、南北1.8m以上で、確認面からの掘り込みが45cmを計る住居跡がある。〈覆土〉1-8層が内側の住居跡で暗茶黒褐色土に炭化物や焼土粒子が含まれる土層が堆積している。⑨-⑬層が外側の住居跡で茶褐色土ブロックがまじる土層が堆積している。土層断面に壁の立上りが認められることから縮小して内側住居跡が築かれたものと考えられる。〈炉〉内側住居跡には径1.1mで深さ20cmの石囲炉がある。〈埋裏〉内側住居跡の東側周溝に接して曾利系の深鉢形土器(図面31-3)が埋設されている。〈柱穴〉径0.2-0.4mで深さ40cm前後の柱穴8個が確認された。〈出土遺物〉内側住居跡の炉跡内から加曾利E式第VI段階の深鉢形土器(図面30-11)、加曾利E式第Ⅲ-V段階の個体土器や破片が出土している。石器類としては打製石斧の出土量が多い。〈時期〉内側の住居跡は加曾利E式期第V-VI段階の住居跡で、外側の住居跡は加曾利E式期第Ⅲ-IV段階のものと考えられる。

SI 125J 住居跡 (図面11 図版9)

〈位置〉グリッドの(DEU-DEW,1300-1302)に所在する。

〈規模〉東西4.4m、南北2.4m以上で確認面からの掘り込みは50cmを計る住居跡と、その内側に東西3.8m、南北1.8m以上で確認面からの掘り込みが45cmを計る住居跡がある。〈覆土〉1～5層が内側の住居跡で暗茶黒褐色土に炭化物や焼土粒子が含まれる土層が堆積している。⑥～⑧層が外側の住居跡で茶褐色土ブロックや炭化物がまじる暗茶褐色土が堆積している。土層断面に壁の立上りが認められることから縮小して内側の住居跡が築かれたものと考えられる。〈柱穴〉径0.3mで深さ60cm前後の柱穴2個が確認された。〈出土遺物〉勝坂Ⅲ式の土器片や打製石斧が出土している。〈時期〉勝坂式期の住居跡と考えられる。

SI 126J 住居跡 (図面10 図版9)

〈位置〉グリッドの(DEM-DEO,1300)に所在する。〈規模〉東西0.3m以上、南北6.0mで確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土を主体とした土層が堆積する。〈柱穴〉径0.35mで深さ20～50cm前後の柱穴4個が確認された。〈出土遺物〉加曾利E式土器の小破片と打製石斧が出土している。〈時期〉加曾利E式期の住居跡と考えられる。

SI 127J 住居跡 (図面11 図版10)

〈位置〉グリッドの(DFE-DFF,1292-1294)に所在する。〈規模〉東西4.0m、南北1.8m以上で確認面からの掘り込みは60cmを計る。西壁の内側約1.0mに周溝が確認されることから拡張が行われた可能性がある。〈覆土〉茶黄褐色土で炭化物が混じる土層が堆積する。〈柱穴〉径0.4mで深さ30cm程度の柱穴3個が確認された。〈時期〉SI128Jと重複し本住居跡が古い。SI128Jが加曾利E式期第Ⅲ段階の住居跡であるためそれ以前の勝坂式期の住居跡と考えられる。

SI 128J 住居跡 (図面11 図版10)

〈位置〉グリッドの(DFE-DFF,1292-1295)に所在する。〈規模〉東西4.9m、南北1.8m以上で確認面からの掘り込みは30cmを計る。〈覆土〉暗黒茶褐色土で炭化物が混じる土層が堆積する。〈炉〉径0.7mで深さ20cmの石圍がで、炉石は長さ40cmで幅20cmの大型な礫が2個設置されている。〈埋甕〉東壁内側に加曾利E式第Ⅲ段階の深鉢形土器(図面34-5)が設置されている。〈柱穴〉径0.5mで深さ20cmの柱穴1個が確認された。〈出土遺物〉埋甕の他に加曾利E式の土器片や打製石斧が出土している。〈時期〉加曾利E式期第Ⅲ段階の住居跡である。SI127Jと重複しており新旧関係は、旧SI127J→SI128J新である。

SI 129J 住居跡 (図面11 図版10)

〈位置〉グリッドの(DFE,1295・1296)に所在する。〈規模〉東西3.2m以上、南北0.5m以上で

確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉暗茶黒褐色土で炭化物が混じる土層が堆積している。〈埋裏〉加曾利E式第Ⅲ段階の深鉢形土器(図面34-6)と無文の浅鉢形土器(図面34-8)が埋設されている。〈柱穴〉径0.3mで深さ20~60cmの柱穴5個が確認された。〈出土遺物〉埋裏2個体の他に加曾利E式第Ⅳ~Ⅴ段階の土器と打製石斧が出土している。〈時期〉加曾利E式期第Ⅲ段階の住居跡である。

SI 130J 住居跡 (図面12 図版11)

〈位置〉グリッドの(DFE・DFF,1296~1298)に所在する。〈規模〉東西3.6m、南北1.4m以上。確認面からの掘り込みは30cmを計る。〈覆土〉茶褐色ブロックが多く含まれる土層が堆積する。〈柱穴〉径0.3mで深さ50cmの柱穴1個が確認された。〈出土遺物〉加曾利E式第Ⅴ段階の土器片と打製石斧が出土する。〈時期〉SI129・131Jと重複しており新旧関係は、旧SI130J→SI129J→SI131J新である。SI129Jの時期が加曾利E式期第Ⅲ段階であることから、本住居跡はそれより古い時期の住居跡と考えられる。

SI 131J 住居跡 (図面12 図版11)

〈位置〉グリッドの(DFE・DFF,1297~1300)に所在する。〈規模〉東西5.8m、南北1.6m以上で確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土を主体とした土層が堆積する。〈炉〉径0.7mで深さ30cmで焼土ブロックが多く堆積する地床炉である。〈柱穴〉径0.2~0.4mで深さ30~60cmの柱穴5個が確認された。〈出土遺物〉加曾利E式第Ⅳ・Ⅴ段階の土器片と曾利系の土器片が多く出土した。石器類は打製石斧や石皿等が出土している。〈時期〉SI130Jと重複し新旧関係は、旧SI130J→SI131J新である。従って、加曾利E式期の住居跡であると考えられる。

SI 132J 住居跡 (図面12 図版11)

〈位置〉グリッドの(DGR・DGT,1325~1326)に所在する。〈規模〉東西1.4m以上、南北5.5mで確認面からの掘り込みは25cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で焼土粒子が含まれる土層が主体に堆積している。〈柱穴〉径0.6mで深さ80cm前後の主柱穴3個と径0.2mで深さ20cmの浅い柱穴が1個確認された。〈出土遺物〉勝坂Ⅲ式の土器片と曾利系の土器片が出土している。〈時期〉勝坂式期の住居跡と考えられる。

SI 135J 住居跡 SK153J 土坑 (図面12 図版12・14)

〈位置〉グリッドの(DFF・DFG,1287~1289)に所在する。〈規模〉東西4.2m、南北0.7m以上で確認面からの掘り込みは30cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で炭化物が混じる土層が堆積してい

る。〈柱穴〉径0.6mで深さ40cm前後の柱穴3個が確認された。〈出土遺物〉加曾利E式第Ⅲ～Ⅴ段階の土器片が出土している。〈土坑〉住居跡の西壁に接して「フラスコ状」のSK153J土坑が掘られている。規模は、上面幅1.0m、底面幅1.3mで床面からの掘込みは80cmを計る。覆土は、汚れた茶褐色土ブロックやロームブロックが多く含まれる土層が堆積しており埋め戻された可能性がある。〈出土遺物〉加曾利E式第Ⅲ段階の土器片が出土する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡・土坑と考えられる。

SI 137J 住居跡 (図面13 図版12)

〈位置〉グリッドの(DFC・DFD,1309・1310)に所在する。〈規模〉東西2.85m以上、南北1.2m以上で確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で炭化物が少量混じる土層が主体に堆積している。〈柱穴〉径0.2～0.4mで深さ30cm前後の柱穴4個と周溝に接して径1.0mで深さ20cmの浅い落ち込みが確認された。〈出土遺物〉勝坂式土器と加曾利E式土器の破片が出土している。〈時期〉勝坂式期の住居跡と考えられる。

SI 139J 住居跡 (図面13 図版12)

〈位置〉グリッドの(DFI～DFK,1310・1311)に所在する。〈規模〉東西1.0m以上、南北4.4mで確認面からの掘り込みは30cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で炭化物が少量混じる土層が主体に堆積している。〈柱穴〉径0.5mで深さ30cmの主柱穴1個と径0.3～0.4m深さ30cmの柱穴が5個が確認された。〈出土遺物〉勝坂Ⅲ式の土器片が出土する。〈時期〉勝坂式期の住居跡と考えられる。

SI 141J 住居跡 (図面12 図版13)

〈位置〉グリッドの(DFT～DFV,1318-1319)に所在する。〈規模〉東西1.0m以上、南北2.6m以上で確認面からの掘り込みは5cmを計る。〈炉〉径0.8mで深さ20cmの地床炉である。〈柱穴〉径0.6mで深さ60cmの柱穴1個と径0.2mで20cmの柱穴が1個確認された。〈出土遺物〉炉跡内より勝坂式土器の破片が出土する。〈時期〉勝坂式期の住居跡である。

SI 142J 住居跡 (図面13 図版13)

〈位置〉グリッドの(DFI・DFJ,1311・1312)に所在する。〈規模〉東西3.0m以上、南北2.8m以上で確認面からの掘り込みは18cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土の単一土層が堆積する。〈柱穴〉径0.5mで深さ20～40cm前後の柱穴4本と径0.2mで深さ20cmの柱穴が5個確認された。〈出土遺物〉勝坂Ⅲ式の土器片が出土する。〈時期〉勝坂式期の住居跡と考えられる。

SI 143J 住居跡 (図面13 図版13)

〈位置〉グリッドの(DFA,1314-1316)に所在する。〈規模〉東西3.4m、南北1.5m以上で確認面からの掘り込みは20cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で焼土粒子や炭化物が混じる土層が堆積する。〈柱穴〉径0.2mで深さ30cm前後の柱穴2個が確認された。〈出土遺物〉勝坂Ⅲ式の土器片が出土する。〈時期〉勝坂式期の住居跡と考えられる。

SS22集石 (図面13 図版13)

〈位置〉グリッドの(DDE・DDF,1301)に所在する。〈規模〉礫が長径1.0m、短径0.8m、厚さ15cmの範囲に集中して認められる。集石の下には土坑があり長径1.0m、短径0.9m、深さ30cmを計る。〈覆土〉土坑内には黒褐色土で炭化物や焼土粒子が多量に含まれる土層が堆積する。〈時期〉不詳である。

SK145J 土坑 (図面13 図版14)

〈位置〉グリッドの(DEX・DEY,1303)に所在する。〈規模〉東西1.3m以上、南北1.0mで確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で炭化物が少量混じる土層が堆積する。〈出土遺物〉勝坂Ⅱ式の土器片と石器が出土する。〈時期〉勝坂Ⅱ式期の土坑と考えられる。

SK154J 土坑 (図面13 図版14)

〈位置〉グリッドの(DFE,1300)に所在する。〈規模〉東西1.3m、南北0.4m以上で確認面からの掘り込みは60cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土が主体に堆積する。〈出土遺物〉打製石斧が出土する。〈時期〉不詳である。

SK155J 土坑 (図面13 図版14)

〈位置〉グリッドの(DFD,1301)に所在する。〈規模〉東西1.4m、南北0.7m以上で確認面からの掘り込みは50cmを計る。〈覆土〉暗茶黒褐色土が主体に堆積する。〈出土遺物〉曾利系の土器片が出土している。〈時期〉加曾利E式期の遺構と考えられる。

小穴 (図面2～4)

〈位置〉調査地全域に検出され、総数は91個である。〈規模〉径0.3～0.4m前後、深さ30～90cmの円形や楕円形を呈する。〈出土遺物〉小穴から遺物は出土していない。〈時期〉周辺の住居跡が勝坂式期や加曾利E式期の遺構であることから該期の遺構と考えられる。

SD 2 溝跡 (図面14 図版15)

〈位置〉グリッドの(DCM,1318, DEP-DES,1320, DEV-DEX,1320, DFX~DGA,1321・1322)に所在する。4地点で調査が行われているが最も北側で調査されたものについて説明する。〈規模〉上面幅0.6m、底面幅0.3m、確認面からの深さ70cmを計る南北溝跡で、座標は底面のセンターでX-33,124.15 Y-32,636.75である。〈覆土〉溝の上面は茶褐色土ブロックを多く含む土層で、中位には黒色土が堆積しており、底面にはロームブロックの埋込が認められる。〈出土遺物〉遺物は出土していない。〈時期〉本溝跡は、SF 1道路状遺構の西側側溝に該当する歴史時代の遺構である。他の調査地点でSD16・17・18溝跡と重複し本溝跡の方が古い。

SD 5溝跡 (図面14 図版15)

〈位置〉グリッドの(DCL・DCM,1312, DEE・DEF,1314, DFA,1314・1315, DFO~DFQ,1315)に所在する。4地点で調査が行われているが最も北側で調査されたものについて説明する。〈規模〉上面幅1.1m、底面幅0.4m、確認面からの深さ70cmを計る南北溝跡で、座標は底面のセンターでX-33,124.0 Y-32,625.4である。〈覆土〉溝の上面は茶褐色土ブロックを多く含む土層で、中位には黒色土が堆積しており、底面にはロームブロックの埋込が認められる。〈出土遺物〉遺物は出土していない。〈時期〉本溝跡は、SF 1道路状遺構の東側側溝に該当する歴史時代の遺構である。

SK156土坑 (図面13 図版15)

〈位置〉グリッドの(DGI,1325)に所在する。〈規模〉東西1.1m、南北0.6m以上で確認面からの掘り込みは60cmを計る。〈覆土〉暗黒褐色土が主体に堆積する。〈出土遺物〉打製石斧が出土している。〈時期〉堆積している土層から歴史時代の土坑と考えられる。

K2-36・40遺構土層説明

S152]住居跡 図面6

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を含む。
2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。
3. 茶褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを含む。
4. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子に茶褐色土ブロックが多く混じる。
5. 茶褐色土 ローム・スコリア粒子に茶褐色土ブロックが混じる。
6. 茶褐色土 茶褐色土ブロックとローム粒子を含む。
7. 暗茶褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含む。
8. 茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックを含む。

S199]住居跡 図面7

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を少量含む。
2. 茶褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含む。

む。

3. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックとローム・スコリア粒子を含む。
4. 茶褐色土 焼土粒子・炭化物を多量に含む。
5. 茶褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを多く含む。
6. 暗茶褐色土 汚れたロームブロックを含む。
7. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
8. 暗茶褐色土 細かいローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。
9. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
10. 茶褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを多く含む炭化物が混じる。
11. 暗茶褐色土 大粒のローム・スコリア粒子を少量含む。
12. 暗茶褐色土 細かいローム・スコリア粒子を含む。
13. 暗茶褐色土 ロームブロックを少量含む。

14. 暗黒茶褐色土 ローム・スコリア・焼土粒子と炭化物を少量含む。
15. 茶暗褐色土 汚れた茶褐色土ブロックを少量含む。
16. 暗茶褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを多く含む。
- SI109J 住居跡 図面7
1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を含む。
 2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を多く含む炭化物が混じる。
 3. 暗茶黒褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。
 4. 黄暗褐色土 汚れたロームブロックを多く含む。
 5. 黄暗褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを含む。
 6. 黄褐色土 ロームブロックを含む。
 7. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
- SI104J 住居跡 図面6
1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロック・スコリア粒子を多く含む。
 2. 茶暗褐色土 汚れた茶褐色土ブロックを含む。
 3. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロック・スコリア粒子を含む。
 4. 暗茶褐色土 スコリア粒子を含む。
 5. 茶黄褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを含む。
- SI105J 住居跡 図面6
1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックとローム・スコリア粒子に炭化物が少量混じる。
 2. 暗茶黄褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを含む。
 3. 黄暗褐色土 ロームブロック・スコリア粒子を含む。
- SI106J 住居跡 図面6
1. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
 2. 茶黄褐色土 汚れたロームブロックを多く含む。
 3. 茶褐色土 茶褐色土ブロック・ローム粒子が混じる。
 4. 茶黄褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含む。
 5. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
- SI107J 住居跡 図面6
1. 暗黒茶褐色土 ローム・スコリア粒子に炭化物が少量混じる。
 2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックとローム・スコリア粒子が少量混じる。
 3. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。
 4. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
 5. 暗黒茶褐色土 スコリア粒子が混じる。
 6. 茶暗褐色土 ローム・茶褐色土ブロックが混じる。
- SI108J 住居跡 図面6
1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を含む。
 2. 茶暗褐色土 汚れた茶褐色土ブロックと炭化物が混じる。
 3. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
 4. 暗茶黒褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。
 5. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
 6. 茶黄褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを多く含む。
- SI109J 住居跡 図面7

1. 暗茶褐色土 大粒のローム・スコリア粒子を含む。
 2. 茶暗褐色土 汚れた茶褐色土ブロックを含む。
 3. 茶暗褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。
 4. 茶黄褐色土 スコリア粒子を含む汚れたロームブロックが混じる。
- SI111J 住居跡 図面7
- ①. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。
 - ②. 暗茶黒褐色土 ローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックを含む。
 - ③. 茶暗褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを含む。
 - ④. 茶黄褐色土 汚れたロームブロックを含む。
- SI112J 住居跡 図面8
1. 暗茶黒褐色土 ローム・スコリア・焼土粒子と炭化物を含む。
 2. 暗茶黒褐色土 大粒のローム・スコリア・焼土粒子と炭化物を含む。
 3. 茶褐色土 汚れた茶褐色土ブロックを含む。
 4. 茶暗褐色土 茶褐色土・ロームブロックを含む炭化物が混じる。
 5. 茶暗褐色土 焼土粒子を含む。
 6. 茶赤褐色土 大粒の焼土粒子を含む。
 7. 赤茶褐色土 焼土ブロックを多く含む炭化物が混じる。
- SI113J 住居跡 図面8
1. 暗黒茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を含む。
 2. 暗黒茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。
 3. 黒茶黄褐色土 大粒のローム・スコリア粒子と汚れたロームブロックを含む。
 4. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックとローム粒子を含む。
 5. 黄茶褐色土 ローム・赤褐色土ブロックを多く含む。
 6. 黄暗褐色土 汚れたロームブロック。
 7. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。
 8. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
- SI114J 住居跡 図面8
1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を含む。
 2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子とロームブロックが混じる。
 3. 茶黄褐色土 焼土粒子とロームブロックを含む。
- SI115J 住居跡 図面8
1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。
 2. 茶黄褐色土 ローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックを含む。
 3. 茶暗褐色土 ローム・スコリア粒子を多く含む。
 4. 茶暗褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを多く含む。
- SI116J 住居跡 図面8
1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を少量含む。
 2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックを含む。
 3. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を多く含む。
- SI117aJ 住居跡 図面9
1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を含む。

2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックを含む。

3. 茶暗黄褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含む。

SI117b] 住居跡 図面9

④. 暗茶黒褐色土 大粒のローム・スコリア粒子と炭化物を含む。

⑤. 茶暗褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含みスコリア粒子が混じる。

⑥. 暗茶黄褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含みローム・スコリア粒子が多く混じる。

SI118] 住居跡 図面9

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物が混じる。

2. 暗茶黒褐色土 大粒のローム・スコリア粒子と炭化物が混じる。

3. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を多く含む。

4. 暗茶黄褐色土 汚れたロームブロックを含む。

5. 暗茶褐色土 汚れたローム・茶褐色土ブロックを含む。

6. 黄茶褐色土 汚れたロームブロックとスコリア粒子を多く含む。

7. 黄暗褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを多く含む。

8. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。

9. 茶黄褐色土 茶褐色土・ロームブロックを含む。

SI119] 住居跡 図面9

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物が混じる。

2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を多く含む炭化物と焼土粒子が混じる。

3. 暗茶黄褐色土 茶褐色土・ロームブロックを含む。

4. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。

5. 暗黄褐色土 汚れたロームブロックを多く含む。

6. 暗茶褐色土 ロームブロックとスコリア・焼土粒子が混じる。

7. 黄茶褐色土 焼熱したロームブロックを多く含む。

SI120] 住居跡 図面9

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を少量含む。

2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。

3. 暗茶黄褐色土 ロームブロックを多く含む部分的に焼土粒子が混じる。

4. 暗茶褐色土 ローム粒子と炭化物が混じる。

5. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックと焼土粒子が混じる。

6. 暗黄褐色土 焼熱したロームブロックが混じる。

7. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を含む。

8. 暗黄茶褐色土 茶褐色土ブロックとスコリア粒子を含む。

9. 茶黄褐色土 細かいローム・スコリア粒子を多く含む。

10. 黄暗褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを多く含む。

11. 黄褐色土 ロームブロックを含む。

SI121] 住居跡 図面10

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を少量含む。

2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。

3. 茶暗褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含む。

4. 茶黄暗褐色土 茶褐色土・ロームブロックを多く含む。

5. 黄暗褐色土 汚れたロームブロックを含む。

SI122] 住居跡 図面9

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックとスコリア粒子を含む。

2. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックを含む。

3. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。

SI123a] 住居跡 図面10

⑤. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物が混じる。

⑥. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子とロームブロックが混じる。

⑦. 黄黄褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを多く含む。

⑧. 黄暗褐色土 汚れたロームブロックを多く含む。

⑨. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。

⑩. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を多く含む。

⑪. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子とロームブロックを多く含む。

⑫. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックを含む。

SI123b] 住居跡 図面10

08. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と汚れたロームブロックを含む。

09. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を少量含む。

SI123c] 住居跡 図面10

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含み炭化物が混じる。

2. 茶黄褐色土 ローム・スコリア粒子を含みロームブロックが混じる。

3. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。

4. 茶黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

SI124] 住居跡 図面11

1. 暗茶黒褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を含む。

2. 暗茶黒褐色土 大粒のローム・スコリア・焼土粒子が混じる。

3. 暗黄褐色土 細かいローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックが混じる。

4. 暗茶褐色土 細かいローム・スコリア粒子を多く含む。

5. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。

6. 暗茶赤褐色土 細かい焼土粒子を多く含む。

7. 赤茶褐色土 焼土ブロックを多く含む。

8. 赤黄褐色土 焼熱したロームブロックを含む。

⑨. 暗茶褐色土 大粒のローム・スコリア粒子が混じる。

⑩. 茶褐色土 茶褐色土ブロックが混じる。

①. 暗黒茶褐色土 細かいローム・スコリア粒子と炭化物が混じる。

②. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。

SI125J 住居跡 図面11

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。

2. 暗黒茶褐色土 ローム・スコリア粒子とロームブロックを多く含む。

3. 暗黒茶褐色土 ローム・スコリア粒子を少量含む黒色土ブロックが混じる。

4. 暗茶褐色土 得れたロームブロックを多く含む。

5. 茶褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを多く含む。

③. 暗茶褐色土 細かいローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。

④. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックが混じる。

⑤. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と得れたロームブロックを含む。

⑥. 茶褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを含む。

SI126J 住居跡 図面10

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。

2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックを含む。

3. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。

4. 茶褐色土 焼土粒子を含む。

5. 暗茶褐色土 黒色土ブロックが混じる。

6. 茶褐色土 得れた茶褐色土ブロックを含む。

7. 茶褐色土 汚れたロームブロックを含む。

8. 茶褐色土 ローム・スコリア・黒色土粒子を含む。

9. 茶褐色土 汚れた茶褐色土ブロックを含む。

SI127J 住居跡 図面11

①. 茶褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含み炭化物が混じる。

②. 黄暗褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含みスコリア粒子が混じる。

③. 暗茶褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含みスコリア粒子と炭化物が混じる。

④. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子とロームブロック・炭化物を含む。

SI128J 住居跡 図面11

1. 暗黒茶褐色土 細かいローム・スコリア粒子と炭化物を含む。

2. 暗黒茶褐色土 細かいローム・スコリア粒子を含む。

3. 暗黒茶褐色土 大粒のローム・スコリア粒子と炭化物を含む。

4. 暗茶褐色土 細かいローム・スコリア・焼土粒子を含む。

5. 茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックを含む。

6. 暗茶褐色土 大粒の焼土粒子と炭化物を含む。

7. 暗茶褐色土 焼土粒子と汚れた茶褐色土ブロックを含む。

8. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子が混じり炭化物を少量含む。

9. 暗茶褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含む。

SI129J 住居跡 図面11

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を含む。

2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。

3. 茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックを含みスコリア粒子と炭化物が少量混じる。

4. 茶褐色土 茶褐色土ブロックと炭化物を含む。

5. 茶褐色土 ロームブロックと炭化物を含む。

6. 黄茶褐色土 ロームブロックを多く含む。

7. 暗茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックを含みスコリア粒子が混じる。

8. 茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックを含む。

9. 茶褐色土 スコリア粒子と炭化物が混じる。

10. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。

11. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を多く含む。

12. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を多量に含む。

13. 暗茶褐色土 ローム粒子多く含むスコリア粒子が混じる。

14. 茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックを多く含む。

SI130J 住居跡 図面12

①. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。

②. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含むロームブロックが混じる。

③. 茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックを多く含む。

④. 黄暗茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックが少量混じる。

SI131J 住居跡 図面12

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子に茶褐色土ブロックを含む。

2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子に茶褐色土ブロックを多く含む。

3. 暗茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックを含む。

4. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックが混じる。

5. 茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックを多く含む。

6. 暗茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックが含まれスコリア粒子が混じる。

7. 黄暗茶褐色土 ローム・茶褐色土ブロックが少量混じる。

8. 黄暗褐色土 ロームブロックが多く含まれる。

9. 黄暗褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを多く含む。

10. 茶褐色土 ロームブロックが多く含まれスコリア粒子が混じる。

11. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子が混じる。

12. 暗茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックが混じる。

13. 茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。

SI132J 住居跡 図面12

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア・焼土粒子を含む。

2. 暗茶褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを多く含む。

3. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。

4. 茶褐色土 ロームブロックにスコリア粒子を含む。

5. 黄茶褐色土 ロームブロックを含む。
6. 暗茶褐色土 細かいローム・スコリア粒子を含む。
7. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子とロームブロックを含む。
8. 黄暗褐色土 ローム粒子・ブロックを多く含む。

SI135J 住居跡 図面12

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を含む。
2. 茶褐色土 茶褐色土ブロックとスコリア粒子・炭化物を含む。
3. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。
4. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックを含む。
5. 茶褐色土 茶褐色土・ロームブロックを含む。
6. 黄茶褐色土 汚れたロームブロックを含む。
7. 黄褐色土 汚れたローム・茶褐色土ブロックが混じる。

SI135J 住居跡内 SK153J 土坑 図面12

- ①. 茶褐色土 汚れた茶褐色土ブロックを多く含む。
- ②. 暗茶黄褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを多く含む。
- ③. 茶黄褐色土 汚れたロームブロックを多く含む炭化物が混じる。
- ④. 暗黄茶褐色土 汚れた茶褐色土ブロックとロームブロックが混じり合っている。
- ⑤. 茶暗黄褐色土 汚れたロームブロックとスコリア粒子・炭化物を含む。
- ⑥. 茶暗褐色土 汚れたロームブロックと炭化物が混じる。
- ⑦. 黄褐色土 汚れたロームブロックを多量に含む。

SI137J 住居跡 図面13

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を少量含む炭化物が混じる。
2. 暗茶褐色土 細かいローム・スコリア粒子を含み炭化物が混じる。
3. 茶褐色土 汚れた茶褐色土ブロックを含みスコリア粒子が混じる。
4. 茶褐色土 汚れた茶褐色土ブロックを多く含む。
5. 茶黄褐色土 汚れたロームブロックを多く含む。
6. 黄褐色土 ローム・茶褐色土ブロックが混じる。
7. 黄褐色土 汚れたロームブロックを多量に含む。
8. 暗茶黄褐色土 ローム・スコリア粒子を多く含むロームブロックが混じる。
9. 茶黄褐色土 ローム・スコリア粒子とロームブロックを多く含む。
10. 茶黄褐色土 汚れたロームブロックを多く含む。
11. 茶暗黄褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを多く含む。
12. 黄暗褐色土 ロームブロックを多く含む茶褐色土ブロックが混じる。
13. 黄褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを多量に含む。

SI138J 住居跡 図面13

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含み炭化物が少量混じる。

2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を多く含む。
3. 暗茶黄褐色土 汚れたロームブロックを多く含む。
4. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を少量含む。
5. 茶黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
6. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックを少量含む。
7. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックとスコリア粒子を含む。
8. 茶褐色土 ローム粒子と茶褐色土ブロックを含みスコリア粒子が少量混じる。

SI141J 住居跡 図面12

1. 茶赤褐色土 焼土粒子と茶褐色土ブロックを含む。
2. 暗茶赤褐色土 焼土粒子と茶褐色土ブロックを多く含む。
3. 赤茶褐色土 焼土粒子と被熱したロームブロックを含む。
4. 暗茶褐色土 焼土粒子を含む。

SI143J 住居跡 図面13

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア・焼土粒子と炭化物を含む。
2. 暗茶褐色土 汚れた茶褐色土ブロックを含む。
3. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックを含みローム粒子が混じる。
4. 茶暗黄褐色土 汚れた茶褐色土・ロームブロックを含む。

SS22集石 図面13

1. 黒褐色土 炭化物集中部分。
2. 黒褐色土 焼土粒子を少量含む。
3. 暗黒褐色土 焼土・スコリア粒子を含む。
4. 茶黄褐色土 ロームブロック・茶褐色土を含む。
5. 黄暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

SK145J 土坑 図面13

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子と炭化物を少量含む。
2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を多く含む。
3. 暗黒茶褐色土 黒色土とロームブロックを含む。
4. 茶黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

SK154J 土坑 図面13

1. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を少量含む。
2. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。
3. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
4. 茶暗褐色土 スコリア粒子と茶褐色土ブロックが混じる。
5. 黄茶褐色土 汚れたロームブロックを含む。

SK155J 土坑 図面13

1. 暗茶黒褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
3. 茶暗黄褐色土 汚れたロームブロックを多く含む。
4. 茶暗褐色土 ローム・スコリア粒子と茶褐色土ブロックを含む。
5. 暗茶黒褐色土 茶褐色土ブロックを多く含むスコリア粒子が混じる。
6. 茶黒褐色土 茶褐色土ブロックを多量に含む。

SD2講跡 図面14

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む部分的にローム粒子・ブロックが混じる。
2. 暗黒褐色土 黒色土を多く含む茶褐色土ブロックが混じる。
3. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
4. 黒褐色土 黒色土を多く含むローム粒子が混じる。
5. 黄暗褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを多量に含む。
6. 黄暗褐色土 汚れたロームブロックを含む。

SD5講跡 図面14

1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含むスコリア粒子が少量混じる。
2. 茶褐色土 明るい茶褐色土ブロックを多量に含む。
3. 茶褐色土 茶褐色土ブロック。
4. 高黒褐色土 黒色土と茶褐色土ブロックが混じる。
5. 黒褐色土 黒色土を多く含む茶褐色土ブロックとローム粒子が混じる。
6. 黒茶褐色土 黒色土と茶褐色土ブロックを多く含む。
7. 黒褐色土 黒色土を多く含む茶褐色土ブロックが少量混じる。

8. 黄暗褐色土 ローム・茶褐色土ブロックを多量に含む。

SD16講跡 図面14

- ①. 暗黒褐色土 ローム・スコリア粒子を少量含む。
- ②. 暗黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
- ③. 暗褐色土 茶褐色土ブロックを含む。

SD17講跡 図面14

1. 暗黒褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。
2. 暗黒褐色土 ローム・スコリア粒子を少量含む。
3. 暗黒褐色土 細かいローム・スコリア粒子を多く含む。

SD18講跡 図面14

1. 暗黒褐色土 ローム・スコリア粒子を少量含む。
2. 暗黒褐色土 ローム・スコリア粒子を多く含む。
3. 茶黄褐色土 ローム・スコリア粒子を多量に含む。

SK156土坑 図面13

1. 暗黒褐色土 ローム粒子を含む。
2. 暗黒褐色土 ローム粒子を多く含む。
3. 暗黒褐色土 茶褐色土ブロックを含む。
4. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
5. 暗黒褐色土 細かいローム粒子を含む。

(2) 出土遺物

今回の調査による出土遺物には、縄文時代の土器・石器・土製品等がある。総量はコンテナ97箱ほどで、それらの遺物の多くは住居跡や土坑から出土している。

遺物の記述はすべて一覧表によったが、分類の項目については以下の基準にのっとり表記した。なお、分類不可能な項目については - で表す。

縄文時代土器の分類

I群 草創期

II群 早期

III群 前期

IV群 中期初頭 五領ヶ台式土器

V群 中期前半 膠板式土器

文様・施文手法

- A. 角押文
- B. 抽象文
- C. バネル文
- D. バネル文刷れ
- E. 楕円横帯文
- F. 顔面肥手
- G. 円蓋土器
- H. 大型肥手、帯形文

時期 a. 膠板I式

b. 膠板II式

c. 膠板III式

VI群 中期後半 阿玉台式土器

VII群 中期後半 加曾利E式土器

文様・施文手法

- A. 口縁部に貼付隆帯で横S字状・クランク状突出
- B. 口縁部に貼付隆帯で渦巻文突出
- C. 口縁部に太い沈線と隆帯で渦巻文突出
- D. 口縁部の文様帯消失
- E. 透氣文

時期 a. 加曾利E式第I段階

b. 加曾利E式第II段階

c. 加曾利E式第III段階

d. 加曾利E式第IV段階

e. 加曾利E式第V段階

f. 加曾利E式第VI段階

g. 加曾利E式第VII段階

- VI群 中期後半 普列式土器
 IX群 後期 銘名寺式土器
 X群 晩期

縄文時代土製品の分類

土製円板

- | | | | |
|------|--------------|-------|---------------|
| 平面形態 | I 円形 | 周縁の接痕 | A. 全周に認められるもの |
| | II 不整形 | | B. 一部に認められるもの |
| | III 四辺形に近いもの | | C. 打ち割っただけのもの |

縄文時代石器の分類

打製石斧

- | | | | |
|------|-----------------------|-----------|-------------|
| 形状 | I 短冊型 | | |
| | II 短冊型 基部副縁に抉り込みをもつもの | | |
| | III 分銅型 / | | |
| | IV 楕型 | | |
| | V その他 打製石斧素材割片を含む | | |
| 刃の種類 | A. 凹刃 | a. 両凸刃 | 破損部位 1. 完形 |
| | B. 直刃 | b. 両平刃 | 2. 刃部付近欠 |
| | C. 偏刃 | c. 片平刃 | 3. 基部付近欠 |
| | D. 尖刃 | d. 片凸刃 | 4. 刃部・基部付近欠 |
| | | e. 弱凸強凸片刃 | 5. 脚部付近欠 |
| | | f. 弱凸強平片刃 | 6. 刃部付近斜位欠 |
| | | g. 弱平強平片刃 | |
| | | h. 弱平強凸片刃 | |
| | | i. 凸凹片刃 | |
| | | j. 長平短平片刃 | |

磨製石斧

- | | | |
|----|--------|----------------------|
| 形状 | I 乳棒状 | *刃部の種類・破損部位は打製石斧に準ずる |
| | II 定角式 | |
| | III 小型 | |

石 錐

- | | |
|----|--|
| 側縁 | I 両側縁が心持ち外側に向かって弧を描き尖頭部を形成する |
| | II 両側縁が若干内傾(器体)に向かって弧を描き尖頭部を形成する |
| | III 両側縁が若干傾きぎみに直線状を成し、それをつなぐ刃縁も直線状を呈する |
| 基縁 | a. 器体に向かってやや内彎し、脚部が若干認められる |
| | b. 器体に向かって内彎し、脚部が明確に作出される |
| | c. 器体に向かってやや尖角状に挿入し、脚部が若干認められる |
| | d. 器体に向かって尖角状に挿入し、脚部が明確に認められる |
| | e. 外側に向かって心持ち弧を描き、舌部を形成する |
| | f. 器体に向かって若干弧を描き、舌部を形成する |

破損部位

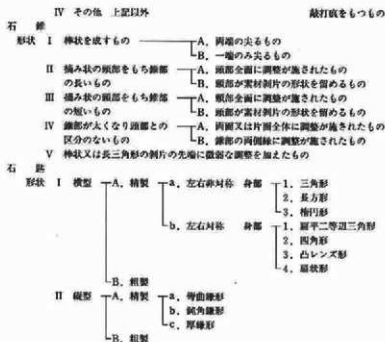
1. 完形
2. 基先欠
3. 基部欠
4. 脚部欠
5. 斜位欠

石 皿

- | | |
|----|--------------------------|
| 形状 | I 片面あるいは両面に磨滅による凹みを有するもの |
| | II 磨面を有する扁平碗 |
| | III 上記以外の形態で磨面をもつ大型碗 |

磨石・叩き石

- | | | |
|----|-------------------------|------------------|
| 形状 | I 平面形態が楕円形もしくは長円形を呈する | A. 磨面のみを有するもの |
| | II 細長の柱状を呈する | B. 敲打痕を併せもつもの |
| | III 全面が磨滅し、球形あるいは卵型を呈する | C. 上下端あるいは側縁の一部に |



以上のように出土遺物について分類を行った。分類するにあたり、土器は縄文時代の6期区分を使用し、さらに各々の期に該当する型式名を明記した。中でも、もっとも多く出土している勝坂式土器については縄文土器大観2「勝坂式土器様式」を、加曽利E式土器については持奈川考古10「東京・埼玉における縄文中期の編年試案」を用いている。また、土製品の中の土製円板は悉々窪遺跡調査報告IVの記述を踏襲した。石器については各々の器種に分け、悉々窪遺跡調査報告I～IV、考古論集「石斧論—横斧から縦斧へ—」、石器入門事典、縄文文化の研究7を参考に、形状・刃の種類等につき分類記述した。

第2表 K2-36 土器一覧表

図版	出土位置	口徑 器高 底徑cm	器形の類別・部位	文様構成	分期	備考
17-1 18	SI52J フタ土	(10.8)	深破 口縁把手	刻目・交互刺突文をもつ円形・曲線隆帯、沈線、3個の透孔	VHc	
17-2 18	SI52J フタ土	(11.0)	深破 口縁把手	竹管による爪形文をもつ隆帯、沈線、円形刺突文、蓮華文	VCb	
17-3 18	SI52J フタ土	(7.3)	深破 口縁把手	隆帯上に竹管による爪形文、刻目をもつ渦巻状隆帯、交互刺突文、透孔	VHc	
17-4 18	SI52J フタ土	(9.1)	浅破 口縁部	平截竹管押引文、波状沈線	VA b	
17-5 18	SI52J フタ土	(9.0)	深破 胴部 底部	竹管による爪形文をもつ隆帯、平隆起線、沈線	VCc	
17-6 18	SI52J フタ土	(8.7)	深破 胴部	竹管による爪形文をもつ隆帯、沈線、横位のRL縄文	VGc	
17-7 18	SI52J フタ土	(7.7)	深破 胴部	竹管による爪形文をもつ隆帯、沈線で横位区画文、交互刺突文	VEc	
17-8 18	SI52J フタ土	(6.3)	深破 胴部	横位のRL縄文、隆帯、キャタピラ文、平截竹管刺突による波状文	VB b	
17-9 18	SI99J フタ土	11.0 (16.2)	深 口縁部 胴部	刻目・交互刺突文をもつ隆帯で縦位区画、側面に刻目をもつ隆帯、沈線、三叉文で文様抽出	VGc	
17-10 18	SI99J フタ土	(17.3)	深 胴部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯で縦位区画、沈線、ペン先状工具刺突文	VGc	
17-11 18	SI99J 床土	(15.4)	深 胴部	竹管による爪形文・棒状工具押印痕文をもつ隆帯、沈線、三叉文、RL縄文の斜位区画	VDc	複製
17-12 18	SI99J フタ土	(12.7) (8.4)	深 胴部 底帯	刻目・円形刺突文をもつ隆帯、沈線	V-c	
18-1 19	SI99J フタ土	(37.0) (40.1)	深 口縁部 胴部	刻目をもつ隆帯で縦位区画、蛇行隆帯、円形隆帯、竹管押引文、平截竹管刺突文、三叉文、沈線	VDc	
18-2 19	SI99J フタ土	(22.4) (18.7)	深 口縁部 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、斜位のR縄文	V-c	
18-3 18	SI99J フタ土	(26.4) (9.4)	深 口縁部	隆帯で渦巻・区画文、集合沈線	VII B b	
18-4 18	SI99J フタ土	(17.5) (11.0)	深 胴部 底帯	縦位のL襟糸文、貼付隆帯、蛇行隆帯	VII B b	
18-5 18	SI99J フタ土	(18.9) (8.3)	深 口縁部	縦位のL襟糸文、隆帯で渦巻、区画文、沈線	VII B b	
18-6 19	SI99J フタ土	(10.1)	深破 胴部	刻目をもつ隆帯、竹管刺突文、沈線、Lの襟糸文	VGc	
18-7 19	SI99J フタ土	(12.0)	深破 胴部	斜位のRL縄文	V-c	
18-8 19	SI99J フタ土	(6.6)	深破 口縁把手	沈線	VII A a	
18-9 19	SI99J フタ土	(4.1)	深破 口縁部	隆帯、沈線、渦巻文	VII A a	
18-10 19	SI99J フタ土	(5.3)	深破 胴部	隆帯、沈線	VII A a	
18-11 19	SI99J フタ土	(4.8)	深破 胴部	集合沈線、貼付蛇行隆帯	VII B b	
18-12 19	SI99J フタ土	(4.8)	深破 胴部	縦位のL襟糸文、貼付隆帯	VII B b	
19-1 19	SI99J フタ土	(7.3)	深破 口縁部	集合沈線、貼付隆帯による区画	VII B b	
19-2 19	SI99J フタ土	(9.6)	深破 胴部	縦位のL襟糸文、貼付隆帯、蛇行隆帯	VII B b	

第3表 K2-36 土器一覧表

図面版	出土位置	口径 器高 底径cm	器形の種別・部位	文様構成	分類	備考
19-3 19	SI99 フタ土	(10.5)	深 破 頸部 胴部	頸部無文帯、縦位のL摺糸文、貼付隆帯	VIB b	
19-4 19	SI99 フタ土	(11.9)	深 破 胴部	横位のLR縄文、沈線、渦巻文	VIB c	
19-5 19	SI99 フタ土	(6.5)	深 破 胴部	縦位のL摺糸文、貼付隆帯	VIB b	
19-6 19	SI99 フタ土	(5.9)	深 破 胴部	縦位のL摺糸文、貼付隆帯	VIB b	
19-7 19	SI99 フタ土	(6.1)	深 破 胴部	縦位のL摺糸文、貼付隆帯と沈線で渦巻文	VIB b	
19-8 20	SI99 フタ土	(6.1)	浅 破 頸部	隆帯、集合沈線	VII-b	
19-9 20	SI99 フタ土	(4.8)	深 破 胴下部	竹管による縦糸線文	VII	
19-10 20	SI99 フタ土	(7.5)	浅 破 口縁部	縦位のL摺糸文、貼付隆帯・沈線で楕円・渦巻文	VII-b	
20-1 20	SI100 フタ土	(14.0)	浅 破 胴部	無文	V -	
20-2 20	SI100 フタ土	(6.9)	深 破 胴部	斜位のRL縄文、沈線	V-c	
20-3 20	SI100 フタ土	(9.3)	浅 破 口縁部	縦位のL摺糸文、貼付隆帯・沈線で区画・渦巻文	VII-b	
20-4 20	SI107 フタ土	(5.4)	深 破 口縁部	縦位のL摺糸文、沈線	VIB c	
20-5 20	SI107 フタ土	(6.2)	深 破 胴部	縦・斜位のRL縄文、沈線、磨消	VIC e	
20-6 20	SI107 フタ土	(4.4)	深 破 胴部	貼付蛇行隆帯、ハの字状沈線	VIB c	
20-7 20	SI108 床土	19.5 (14.7)	口縁部 胴部	貼付隆帯による渦巻つなぎ弧文、縦位の3本沈線、蛇行沈線、縞紗文	VII	埋篋
20-8 20	SI108 フタ土	(3.2)	深 破 口縁部	横位のRL縄文、沈線	VIB c	
20-9 20	SI108 フタ土	(4.8)	深 破 口縁部	横位のRL縄文、隆帯、沈線	VIB c	
20-10 20	SI108 フタ土	(3.3)	深 破 口縁部	貼付隆帯、沈線、渦巻文、集合沈線	VIB b	
20-11 20	SI108 フタ土	(3.5)	深 破 口縁部	縦位のL摺糸文、貼付隆帯、沈線	VIB b	
20-12 20	SI108 フタ土	(6.9)	深 破 口縁部	渦巻をもつ貼付隆帯で区画、縦位のRL縄文、沈線	VIB b	
20-13 20	SI108 フタ土	(4.5)	深 破 口縁部	隆帯、斜位のL摺糸文、沈線	VIB c	
20-14 20	SI108 フタ土	(2.7)	深 破 胴下部	縦位のRL縄文、沈線	VIB c	
21-1 20	SI108 フタ土	(5.5)	深 破 胴部	楕状工具糸線、3本沈線で弧線文	VIE d	
21-2 20	SI108 フタ土	(4.6)	深 破 口縁部	楕状工具糸線、沈線、弧線文	VIE d	
21-3 20	SI108 フタ土	(3.3)	深 破 口縁部	隆帯、沈線、楕状工具刺突文	VIC e	
21-4 20	SI108 フタ土	(9.5)	深 破 口縁部	太い沈線と隆帯で渦巻文、縄文	VIC e	
21-5 20	SI108 フタ土	(12.5)	深 破 胴部	縦位のRL縄文、縦位の2本沈線、磨消	VIC e	
21-6 20	SI108 フタ土	(6.7)	深 破 胴部	縦位のRL縄文、縦位の2本沈線、磨消	VIC e	
21-7 21	SI108 フタ土	(5.0)	深 破 口縁部	隆帯、太い沈線で5字状文	VIC e	
21-8 21	SI108 フタ土	(5.4)	深 破 胴部	縦位のRL縄文	VIED f	

第4表 K2-36 土器一覧表

図面版	出土位置	口縁部高さcm	器形の種別・部位	文様構成	分類	備考
21-9 21	SI108J フタ土	(3.0)	深 破 口縁部	半截竹管による条線で重文、貼付蛇行隆帯	VI	
21-10 21	SI108J フタ土	(5.7)	深 破 胴部	半截竹管による条線、貼付波状・蛇行隆帯	VI	
21-11 21	SI108J フタ土	(7.8)	深 破 口縁部	半截竹管による条線で重文、押し文をもつ貼付隆帯	VI	
21-12 21	SI109J フタ土	(14.6)	深 破 胴部	縦位のRL縄文、沈線、磨消	VII c	
21-13 21	SI111J フタ土	(2.3)	深 破 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線	V-c	
21-14 21	SI111J フタ土	(3.5)	深 破 胴部	交互刺突をもつ隆帯、斜位のRL縄文、沈線	V-c	
21-15 21	SI111J フタ土	(2.6)	深 破 口縁部	隆帯、縦位のL断糸文、沈線	VII B b	
22-1 21	SI112J フタ土	19.7 21.7 8.0	深 口縁部 胴部 底部	刻目をもつ隆帯で区画・屈曲文、半隆起縄文、集合沈線、刻目文	VC b	
22-2 21	SI112J フタ土	(23.5) 7.5	深 口縁部 胴部 底部	刻目をもつ隆帯で横円区画文、交互刺突文、沈線、三叉文、斜位のRL縄文	VE c	
22-3 21	SI112J フタ土	14.9 29.1 8.0	深 口縁部 胴部 底部	沈線で区画・抽象文、竹管による爪形文、ペン先状工具刺突文、集合沈線、三叉文	VG c	
22-4 21	SI112J フタ土	(20.2) (19.0)	深 口縁部 胴部	沈線で区画・抽象文、ペン先状工具刺突文、刻目文、三叉文、縦位のR断糸文	VG c	
22-5 21	SI112J 伊	(13.2)	深 胴部	竹管による爪形文をもつ隆帯、沈線、三叉文、刻目文、半截竹管による横状刺突文	VG c	炉体土器
22-6 21	SI112J フタ土	(5.6)	深 破 把手	刻目文・棒状工具刺突文をもつ隆帯、沈線	VH c	
22-7 21	SI112J フタ土	(7.6)	深 破 胴部	半隆起線で区画文、蓮華文	VC b	
22-8 21	SI112J フタ土	(9.3)	浅 破 口縁部	隆帯、竹管による爪形文、波状沈線	V c	
22-9 21	SI112J フタ土	(11.4)	深 破 口縁部	隆帯、沈線文、竹管による爪形文、ヘラ状工具刺突文	VG c	
22-10 21	SI112J フタ土	(10.0)	深 破 把手	竹管による爪形文をもつ隆帯、沈線、竹管状工具刺突文、透孔	VH c	
22-11 22	SI112J フタ土	(8.7)	深 破 口縁把手	半截竹管押圧文をもつ隆帯、沈線、費目	VG c	
22-12 22	SI112J フタ土	(9.8)	深 破 口縁把手	竹管による爪形文をもつ隆帯、沈線、竹管状工具押圧文	VI	
23-1 22	SI113J フタ土	(26.5) (11.0)	深 口縁部	貼付隆帯・沈線で渦巻・区画文、集合沈線、縦位のR断糸文、沈線	VII B b	
23-2 22	SI113J フタ土	(10.5) 8.0	深 胴部 底部	縦位のL断糸文、2本沈線、蛇行沈線	VII B c	
23-3 22	SI113J フタ土	(6.5) 9.0	深 胴部 底部	無文	VI-1	
23-4 22	SI113J フタ土	(29.0) (22.5)	深 口縁部 胴部	沈線と隆帯で区画文、縦位のRL縄文、沈線、磨消	VII C e	
23-5 22	SI113J フタ土	(37.5) 10.5	深 胴部 底部	縦位のR断糸文、沈線、貼付隆帯で渦巻・波状・蛇行文、刺突文をもつ貼付隆帯	VII	
23-6 22	SI113J フタ土	35.5 41.3 9.0	深 口縁部 胴部 底部	半截竹管による縦糸縄文、貼付蛇行隆帯	VII	

第5表 K2-36 土器一覧表

図 関	面 版	出 土 位 置	口 径 器 高 底径 cm	器 形 の 種 別・部 位	文 様 構 成	分 類	備 考
23-7	22	S1113J フク土	(29.0) (30.0)	深 口縁部 胴部	7・8本単位の櫛状工具による縦条線文	ⅧB	
23-8	22	S1113J フク土	(30.0) (16.5)	深 口縁部 胴部	貼付隆帯で渦巻・区画文、集合沈線、斜行沈線、縦位の3本沈線	ⅧB	
23-9	22	S1113J フク土	(4.8)	深 破 口縁部	貼付隆帯・沈線で渦巻・区画文、斜位のRL縄文	ⅧB b	
23-10	22	S1113J フク土	(4.7)	深 破 口縁部	貼付隆帯で渦巻・区画文、横位のLR縄文	ⅧB b	
24-1	22	S1113J フク土	(15.2)	深 破 口縁部	櫛状工具による縦条線文、3本沈線で弧線文	ⅧE d	
24-2	22	S1113J フク土	(6.5)	深 破 口縁部	半截竹管による縦条線文、3本沈線で弧線文	ⅧE d	
24-3	22	S1113J フク土	(5.4)	深 破 口縁部	縦位のL形糸文、沈線、竹管による爪形文、2本沈線で弧線文	ⅧE d	
24-4	23	S1113J フク土	(6.8)	深 破 口縁部	櫛状工具による縦条線文、沈線	ⅧE d	
24-5	23	S1113J フク土	(6.5)	深 破 口縁部	太い沈線と隆帯で渦巻文	ⅧC e	
24-6	23	S1113J フク土	(13.1)	深 破 胴部	縦位のRRL縄文、沈線、磨消	ⅧC e	
24-7	23	S1113J フク土	(11.0)	深 破 胴部	縦位のRL縄文、沈線、磨消	ⅧC e	
24-8	23	S1113J フク土	(7.8)	深 破 口縁部	貼付隆帯で渦巻・区画文、半截竹管による縦条線文	ⅧB	
24-9	23	S1113J フク土	(3.3)	深 破 胴部	半截竹管による糸線で重弧文、貼付隆帯	ⅧB	
24-10	23	S1113J フク土	(20.4)	深 破 口縁部	貼付隆帯で楕円区画文、半截竹管による縦条線文、斜線文	ⅧB	
25-1	23	S1113J フク土	(10.4)	深 破 口縁部	7本単位の櫛状工具による縦条線文、貼付隆帯	ⅧB	
25-2	23	S1113J フク土	(10.3)	深 破 胴部 胴部	8本単位の櫛状工具による縦条線文、貼付波状隆帯	ⅧB	
25-3	23	S1113J フク土	(12.0)	深 破 胴部	貼付隆帯、綾杉文	ⅧB	
25-4	23	S1113J フク土	(6.3)	深 破 口縁部	貼付隆帯、斜行沈線	ⅧB	
25-5	23	S1113J フク土	(4.7)	深 破 口縁部	貼付隆帯で円文・半円区画文、沈線、集合沈線	ⅧB	
25-6	23	S1113J フク土	(6.0)	深 破 胴部	縦位のL形糸文、貼付蛇行隆帯	ⅧB	
25-7	23	S1113J フク土	(7.8)	深 破 胴部	斜・縦位のRL縄文、半截起線、粘土粒貼付	ⅧB	
25-8	23	S1113J フク土	(9.5)	深 破 胴下部	半截竹管刺突文をもつ隆帯、斜行沈線	ⅧB	
25-9	23	S1114J フク土	(29.5) (19.8)	深 口縁部 胴部	縦位のL形糸文、沈線、円形竹管刺突文	ⅧE d	
25-10	23	S1114J フク土	(7.4)	深 破 口縁部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯、刻目をもつ隆帯で区画文、沈線	V-c	
25-11	23	S1114J フク土	(5.1)	深 破 口縁部	竹管による爪形文をもつ蛇行隆帯、隆帯、爪形文	V C b	
25-12	23	S1114J フク土	(5.7)	深 破 口縁部	矢羽根状刺突文・沈線をもつ隆帯で渦巻文、渦巻文、キョウビク文	V-b	
25-13	24	S1114J フク土	(7.9)	深 破 胴部	刻目・矢羽根状刺突文をもつ隆帯、沈線で渦巻文、刻目文	V D c	
26-1	24	S1114J フク土	(9.7)	深 破 胴部	縦位のRL縄文、2本沈線、蛇行沈線	ⅧB c	
26-2	24	S1114J フク土	(4.0)	深 破 口縁部	半截竹管による糸線で重弧文、貼付蛇行隆帯	ⅧB	

第6表 K2-36 土器一覧表

国 旗	出 土 位 置	口縁 高 底径cm	器形の類別・部位	文 様 構 成	分 類	備 考
26-3 24	SI114J フタ土	(5.4)	深 破 胴部	半截竹管による染織で斜行文、貼付波状隆帯	VII	
26-4 24	SI115J フタ土	(5.1)	深 破 胴部	沈線、貼付波状隆帯	VII	
26-5 24	SI117J フタ土	(7.7)	深 破 口縁部	刺目をもつ蛇行隆帯、沈線	V-c	
26-6 24	SI118J 片 ¹	(40.5) (28.0)	口縁部 胴部	横・縦位のL担糸文、貼付隆帯で区画文、貼付蛇行・2本隆帯、頸部無文帯	VII B b	炉体土器
26-7 24	SI118J フタ土	(15.7) (9.0)	口縁部 胴部	貼付隆帯で渦巻・楕円区画文、横位のLR縄文、沈線、頸部無文帯	VII B b	
26-8 24	SI118J フタ土	(41.0) (11.5)	深 破 口縁部	貼付隆帯で区画文、縦位のL担糸文、沈線、集合沈線	VII B b	
26-9 24	SI118J フタ土	(7.1)	深 破 口縁部	貼付隆帯で区画文、沈線、集合沈線	VII B b	
27-1 24	SI118J フタ土	(16.2)	深 破 胴部	縦位のL担糸文、貼付蛇行・2本隆帯	VII B b	
27-2 24	SI118J フタ土	(5.3)	深 破 胴下部	斜位のRL縄文	VII-	
27-3 24	SI119J 片 ¹	33.0 (16.5)	口縁部 胴部	刺目をもつ隆帯で楕円区画・渦巻文、集合沈線、半截竹管押圧痕、三叉文、刺目文、無文	VA c	炉体土器
27-4 24	SI119J 片 ¹	(3.2) 14.0	深 破 胴下部 底部		V-	
27-5 24	SI119J 片 ¹	25.5 (31.5)	口縁部 胴部	頸部に刺目をもつタガ状隆帯、刺目をもつ隆帯で抽象・懸垂文、玉泡き三叉文、沈線、透孔をもつ把手	VD c	
27-6 24	SI119J フタ土	(6.2)	深 破 口縁部	刺目をもつ隆帯で区画、沈線、キャタピラ文、波状沈線	VA b	
27-7 24	SI119J フタ土	(6.3)	深 破 口縁部	棒状工具押圧痕をもつ隆帯、横位のLRL縄文	V-	
27-8 25	SI119J フタ土	(16.2)	深 破 把手	隆帯、沈線、刺目をもつ隆帯、沈線、渦巻文	VH c	
28-1 25	SI119J フタ土	(9.0)	深 破 口縁部	竹管による爪形文をもつ隆帯、半隆起線文、ヘラ状工具押し文、ペン先状工具刺突文	VC b	
28-2 25	SI119J フタ土	(9.5)	深 破 胴部	竹管による爪形文をもつ隆帯、沈線、刺目文、半截竹管刺突文、三叉文	VC c	
28-3 25	SI119J フタ土	(10.3)	深 破 胴下部	縦位のRL縄文、竹管による爪形文をもつ隆帯、沈線	V-c	
28-4 25	SI119J フタ土	(6.5)	深 破 口縁部	貼付隆帯、沈線、渦巻文、横位のL担糸文	VII B b	
28-5 25	SI120J 片 ¹	21.8 26.2 7.0	口縁部 胴部 底部	沈線で楕円文、斜行沈線、渦巻文、蛇行沈線	VII	
28-6 25	SI120J 片 ¹	(26.4) (17.5) 6.5	口縁部 胴部 底部	無文	VII-	
28-7 25	SI121J フタ土	(18.5) (15.5)	口縁部 胴部	貼付隆帯で平円区画文・縦位区画文、沈線で渦巻文、綾杉文	VII	
28-8 25	SI121J フタ土	(4.7)	深 破 口縁部	貼付隆帯で渦巻文、横位のRL縄文、沈線	VII B b	
28-9 25	SI121J フタ土	(5.4)	深 破 口縁部	沈線、竹管状工具刺突文、沈線による弧線文	VII E d	
28-10 25	SI121J フタ土	(7.5)	深 破 口縁部	縄文、2本沈線で弧線文	VII E d	
28-11 25	SI121J フタ土	(6.8)	深 破 口縁部	沈線、竹管状工具刺突文、棒状工具による縦糸線文、沈線による弧線文	VII E d	

第7表 K2-36 土器一覧表

図面 図版	出土 位置	口径 器高 底径cm	器彩の種類・部位	文様構成	分類	備考
28-12 25	SI121J フタ土	(14.3)	深 破 胴部	貼付蛇行隆帯、波杉文	Ⅷ	
28-13 25	SI122J フタ土	(4.1)	深 破 胴部	縦位のL括糸文、沈線、蛇行沈線	ⅧB c	
29-1 25	SI123J フタ土	(16.7) (23.9) 8.0	深 口縁部 胴部 底部	斜向きをもつ隆帯、半横起帯で区画文、隆帯文、集合沈線	V C b	
29-2 25	SI123J 伊	(23.6)	深 胴部	縦位のRL縄文、隆帯	V G c	
29-3 26	SI123J フタ土	(21.0) (17.0)	深 口縁部 胴部	縦位のLR縄文、2段の3本沈線による弧線文、横位の3本沈線、蛇行沈線	ⅧE d	
29-4 26	SI123J フタ土	(40.5) (7.0)	深 口縁部	縦位のL括糸文、貼付隆帯で横S字状文、沈線	ⅧA a	
29-5 26	SI123J フタ土	(5.2) 9.0	深 胴下部 底部	縦位のRL縄文、沈線	ⅧB c	
29-6 26	SI123J フタ土	(10.5) 7.5	深 胴部 底部	柳状工具による縦糸線文、沈線	ⅧE d	
29-7 26	SI123J フタ土	(9.0)	深 破 口縁部	貼付隆帯で渦巻・区画文、透孔をもつ小突起、沈線、集合沈線	ⅧB b	
29-8 26	SI123J フタ土	(10.2)	深 破 口縁部 胴部	貼付隆帯で渦巻・区画文、縦位のRL縄文、胴部無文帯	ⅧB b	
29-9 26	SI123J フタ土	(6.0)	深 破 口縁部	縦位のRL縄文、貼付隆帯	ⅧB b	
29-10 26	SI123J フタ土	(10.1)	深 破 胴部	縦位のL括糸文、貼付隆帯で懸垂文	ⅧB b	
29-11 26	SI123J フタ土	(4.5)	深 破 口縁部	貼付隆帯で渦巻・区画文、縄文、沈線	ⅧB b	
29-12 26	SI123J フタ土	(4.5)	深 破 口縁部	沈線、竹管状工具刺突文、柳状工具による縦糸線文、2本沈線による弧線文	ⅧE d	
29-13 26	SI123J フタ土	(12.6)	深 破 口縁部	縦位のLR縄文、3本沈線による弧線文、逆U字状・蛇行沈線	ⅧE d	
30-1 26	SI123J フタ土	(10.1)	深 破 口縁部	半横竹管による糸線で重畳文・斜行文	Ⅷ	
30-2 26	SI123J フタ土	(8.7)	深 破 口縁部	貼付隆帯で半円区画文、つまみ状突起、沈線、斜行沈線	Ⅷ	
30-3 26	SI123J フタ土	(7.5)	深 破 口縁部	貼付蛇行隆帯、半横竹管による横・斜糸線文	Ⅷ	
30-4 26	SI123J フタ土	(3.4)	深 破 口縁部	半横竹管による糸線で重畳文、貼付隆帯・蛇行隆帯	Ⅷ	
30-5 26	SI123J フタ土	(5.1)	深 破 胴部	貼付隆帯、沈線で渦巻文	Ⅷ	
30-6 26	SI123J フタ土	(6.3)	深 破 胴部	貼付隆帯で逆U字文・くの字文	Ⅷ	
30-7 26	SI123J フタ土	(15.3)	深 破 胴部	2本沈線でJ字状文、横・斜位のRL縄文	IX	称名寺
30-8 26	SI124J フタ土	(23.7) (20.5)	深 口縁部 胴部	隆帯・沈線で渦巻・区画文、縦位のRL縄文、2本沈線、磨消	ⅧC e	
30-9 27	SI124J フタ土	(15.4)	深 胴部	縦位のRL縄文、2本沈線	ⅧC e	
30-10 27	SI124J フタ土	13.0 23.5 7.0	口縁部 胴部 底部	隆帯・沈線で楕円区画文、縦位のRL縄文、沈線による長方形区画文、磨消	VII e	
30-11 27	SI124J 伊	(22.0) (16.5)	深 口縁部 胴部	横・縦位の2本沈線、横・斜位のL縄文	ⅧD f	

第8表 K2-36 土器一覧表

図面 図版	出土 位置	口徑 器高 底径cm	器形の種別・部位	文様構成	分類	備考
30-12 27	SI124J フタ土	(3.2) (5.2)	深 胴下部 底部	無文	VII-1	
30-13 27	SI124J フタ土	(26.4) (10.0)	浅 口縁加 頸部	貼付隆帯で横内区画文、集合沈線	VII-e	
31-1 27	SI124J フタ土	(39.2) (15.2)	浅 口縁部 胴部	無文	VII-1	
31-2 27	SI124J フタ土	(33.0) (20.0)	浅 口縁部 胴部	縦位のRL縄文、横位の1本沈線	VII-1	
31-3 27	SI124J 床土	(28.2) (21.3)	深 口縁部 胴部	横・縦位の沈線、沈線による渦巻文・斜行 文	VII	埋没
31-4 27	SI124J フタ土	(20.7) (10.1)	深 口縁部 胴部	貼付隆帯で渦巻・区画文、集合沈線、縦位 の2本沈線、絞杉文	VII	
31-5 27	SI124J フタ土	(10.5) (6.5)	深 胴部 底部	縦位の2本沈線、斜行沈線	VII	
31-6 27	SI124J フタ土	(10.5) (8.5)	深 胴部 底部	貼付蛇行隆帯、縦位の2本沈線、斜行沈線、 底部は2本越え1本滞り1本返りの網代	VII	
31-7 27	SI124J フタ土	(10.0) (8.5)	深 胴部 底部	桶状工具による縦糸線、縦・横位の沈線、 底部は2本越え1本滞り1本返りの網代	VII	
31-8 27	SI124J フタ土	(7.2)	深 破 口縁部	桶状工具による縦糸線文、横位の2本沈線、 沈線による斜行文・曲線文	VII e d	
31-9 27	SI124J フタ土	(6.3)	深 破 口縁部	横位の沈線、竹管の交互刺突文、集合沈線、 3本沈線による波状文、渦巻文	VII e d	
31-10 27	SI124J フタ土	(7.7)	深 破 口縁部	貼付隆帯で渦巻・区画文、沈線、横・縦位 のRL縄文	VII b c	
31-11 28	SI124J フタ土	(10.1)	深 破 口縁部	太い沈線と隆帯で渦巻・横内区画文、横位 のRL縄文、縦位の2本沈線、磨消	VII c e	
31-12 27	SI124J フタ土	(6.3)	深 破 口縁部	貼付隆帯、沈線と隆帯で区画文、横位のRL 縄文	VII b e	
31-13 28	SI124J フタ土	(9.5)	深 破 口縁部	太い沈線、隆帯、渦巻文、縦位のL型糸 文、沈線による区画文、磨消	VII c e	
31-14 28	SI124J フタ土	(7.5)	深 破 胴部	縦位のRL縄文、縦位の3本沈線、蛇行沈線	VII b c	
32-1 28	SI124J フタ土	(13.1)	深 破 口縁部	太い沈線と隆帯で渦巻・横内区画文、横位 のLR縄文、縦位の2本沈線、磨消	VII c e	
32-2 28	SI124J フタ土	(10.0)	深 破 口縁部	隆帯と太い沈線で逆弧状区画文、横位の RL縄文、縦位の2本沈線、磨消	VII e e	
32-3 28	SI124J フタ土	(13.4)	深 破 胴部	横位のRL縄文、縦位の2本沈線、磨消	VII c e	
32-4 28	SI124J フタ土	(15.0)	深 破 胴部	横位のLR縄文、縦位の2本沈線、磨消	VII c e	
32-5 28	SI124J フタ土	(9.8)	深 破 口縁部	横・縦位のLR縄文	VII d f	
32-6 28	SI124J フタ土	(3.5)	深 破 口縁部	横位の1本沈線、沈線文	VII d f	
32-7 28	SI124J フタ土	(6.0)	深 破 口縁部	横位の2本沈線、縦・斜位の沈線文	VII	
33-1 28	SI124J B	(9.9)	深 破 口縁部 胴部	横位の2本沈線、斜行沈線	VII	
33-2 28	SI124J フタ土	(7.4)	深 破 口縁部	貼付隆帯で半円状区画文、集合沈線、沈線 文	VII	
33-3 28	SI124J フタ土	(13.6)	深 破 口縁部	貼付隆帯で内文・区画文、集合沈線、縦位 の3本沈線、斜行沈線	VII	

第9表 K2-36 土器一覧表

図面 図版	出土 位置	口縁 部高 底径cm	器形の種別・部位	文様構成	分類	備考
33-4 28	SI124J フタ土	(13.5)	深 破 胴部	貼付隆帯で長方形区画文、線彩文	VII	
33-5 28	SI125J フタ土	(9.5) 9.2	深 破 胴部 底部	縦位のL帯系文	VII-b	
33-6 29	SI125J フタ土	(9.3)	深 破 把手	竹管による爪彫文、刻目文、沈線、三叉文	VHc	
33-7 29	SI125J フタ土	(8.7)	深 破 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、蓮華文、竹管による爪彫文	VDc	33-8・9 と同一
33-8 29	SI125J フタ土	(14.0)	深 破 胴部	矢羽根状刻文・刻目文をもつ隆帯で区画、沈線、蓮華文、竹管による爪彫文	VDc	33-7・9 と同一
33-9 29	SI125J フタ土	(12.3)	深 破 口縁部	矢羽根状刻文・刻目文をもつ隆帯で区画、沈線、蓮華文、竹管による爪彫文、集合沈線	VDc	33-7・8 と同一
34-1 29	SI125J フタ土	(8.9)	深 破 胴部	刻目をもつ隆帯、竹管による押引で蓮華文	V-C	
34-2 29	SI125J フタ土	(11.6)	深 破 胴下部	斜位のRL縄文	V-C	
34-3 29	SI125J フタ土	(10.8)	深 破 胴部	竹管による縦条線文、刻目をもつ貼付隆帯で曲線文	VII	
34-4 29	SI125J フタ土	(9.2)	深 破 胴下部	竹管による縦条線文、縦位の貼付隆帯	VII	
34-5 29	SI128J 床上	(29.5) (17.3)	口縁部 胴部	横・縦位のL帯系文、貼付隆帯で連弧状区画文、横位の貼付隆帯	VIEc	複製
34-6 29	SI129J 床上	(25.5) (21.5)	口縁部 胴部	横・斜位のL縄文、横・縦位の貼付隆帯	VIIc	複製
34-7 29	SI129J フタ土	(21.7) (21.5)	口縁部 胴部	縦位のRL縄文、横・縦位の2本沈線、斜行沈線、口縁部無文	VII-c	
34-8 29	SI129J 床上	(8.8)	浅 破 胴部	無文	VII-1	複製
34-9 29	SI129J フタ土	(8.3)	深 破 口縁部	太い沈線と隆帯で渦巻・楕円区画文、横位のRL縄文	VIIc e	
35-1 29	SI130J フタ土	(4.6)	深 破 口縁部	沈線と隆帯で楕円区画文、縄文、渦巻をもつ小突起	VIIc e	
35-2 29	SI130J フタ土	(7.4)	深 破 口縁部	太い沈線と隆帯で渦巻・楕円区画文、渦巻をもつ小突起、縦位のLR縄文、沈線で区画文、磨消	VIIc e	
35-3 29	SI130J フタ土	(7.7)	深 破 胴部	太い沈線と隆帯で渦巻・区画文、櫛状工具による縦条線、縦位の2本沈線、磨消	VIIc e	
35-4 29	SI130J フタ土	(5.0)	深 破 胴部	半截竹管による斜行条線、粘土貼付、竹管による爪彫文をもつ貼付隆帯	VII	
35-5 30	SI131J フタ土	(13.3) 8.7	浅 破 胴部 底部	横・斜位のRL縄文	VII-1	
35-6 30	SI131J フタ土	(23.3) (16.7)	口縁部 胴部	沈線で渦巻・楕円文と長方形文、斜行沈線	VII	
35-7 30	SI131J フタ土	(17.1)	深 破 口縁部	縦位のLR縄文、3本沈線で弧線文、横位の沈線	VIE d	
35-8 30	SI131J フタ土	(6.8)	深 破 口縁部	隆帯と沈線で区画文、横位のRLR縄文、円形刻文	VIIc e	
35-9 30	SI131J フタ土	(6.6)	深 破 口縁部	半截竹管による条線で斜行文	VII	
35-10 30	SI131J フタ土	(14.9)	深 破 口縁部	貼付隆帯、沈線で区画文、斜行沈線、円形刻文	VII	
35-11 30	SI131J フタ土	(9.6)	深 破 口縁部	貼付波状隆帯	VII	
35-12 30	SI131J フタ土	(7.1)	深 破 口縁部	貼付隆帯、沈線で区画文・円文、集合沈線	VII	

第10表 K2-36・40 土器一覽表

図面 図版	出土 位置	口径 器高 底径cm	器形の類別・部位	文様構成	分類	備考
36-1 30	SI132J フタ土	(6.5)	深 胴部	縦位のL括糸文、縦位の貼付隆帯、貼付蛇行隆帯	Ⅷ	
36-2 30	SI132J フタ土	(7.4)	深 破 口縁部	太い沈線で渦巻、方形文	V-c	
36-3 30	SI135J フタ土	(5.1)	深 破 口縁部	沈線と隆帯で渦巻・楕円区画文、横位のRL縷文、円形刺突文	ⅦC c	
36-4 30	SI135J 土坑	(7.7)	深 破 胴部	縦位のRL縷文、沈線で渦巻・区画文	ⅦC c	SK153J
36-5 30	SI135J フタ土	(13.2)	深 破 胴部	縦位のLRL縷文、縦位の2本沈線、磨削	ⅦC e	
36-6 30	SI137J フタ土	(6.2)	浅 破 胴部	斜目をもつ隆帯で楕円区画文、集合沈線	V c	
36-7 30	SI137J フタ土	(6.3)	深 破 胴部	横位のRL縷文、貼付隆帯	ⅦB b	
36-8 30	SI137J フタ土	(4.5)	深 破 口縁部	4本単位の棒状工具による縦糸縷文、横位の2本沈線	ⅦD f	
36-9 30	SI137J フタ土	(6.3)	深 破 胴部	縦位のL括糸文、横位の沈線	ⅦE d	
36-10 30	SI137J フタ土	(3.9)	深 破 胴部	隆帯、貼付波状隆帯、竹管による縦糸縷文	Ⅷ	
37-1 31	SI139J フタ土	(38.3) (17.5)	浅 口縁部 胴部	斜目をもつ隆帯、沈線で区画文、集合沈線、斜目文	V c	
37-2 31	SI139J フタ土	(37.5) (12.2)	浅 口縁部 胴部	斜目をもつ隆帯で区画文、半蔵竹管押引文、刺突文	V c	
37-3 31	SI139J フタ土	(2.7)	深 破 口縁部	隆帯で小突起、ヘラ状工具刺突文	V-c	
37-4 31	SI139J フタ土	(3.3)	深 破 口縁部	隆帯、沈線	V-c	
37-5 31	SI139J フタ土	(5.3)	深 破 胴部	縦位のL括糸文、貼付隆帯で区画文、棒状工具押引文	V-c	
37-6 31	SI139J フタ土	(6.8)	深 破 胴部	隆帯・斜目をもつ隆帯で円形文	V-c	
37-7 31	SI141J 罎	(5.3)	深 破 口縁部	縦位のRL縷文、横位の2本沈線	V---	
37-8 31	SI142J フタ土	(5.4)	深 破 把手	蛇行隆帯、斜目をもつ隆帯	ⅦH c	
37-9 31	SI142J フタ土	(4.4)	深 破 口縁部	隆帯、沈線、竹管状工具押引文	V---	
37-10 —	SI143J フタ土	(3.2) 10.5	深 胴下部 底部	貼付隆帯	V---	
37-11 31	SI143J フタ土	(5.5)	深 破 胴部	斜目をもつ隆帯、半蔵起線、龜甲文	V C b	
37-12 31	SI143J フタ土	(3.5)	深 破 胴部	斜目をもつ隆帯、半蔵起線、キャタピラ文	V C b	
37-13 31	SI143J フタ土	(6.3)	深 破 胴部	縷文、斜目をもつ隆帯、半蔵起線、キャタピラ文、三叉文	V C c	
37-14 31	SI143J フタ土	(4.5)	深 破 胴下部	横位のRL縷文	V-c	
37-15 31	SK155J フタ土	(6.5)	深 破 口縁部	5本単位の棒状工具による縦糸縷文、横・縦位の3本沈線	Ⅷ	
37-16 31	SK145J フタ土	(48.9) (13.5)	浅 口縁部 胴部	縷文	V -	
37-17 31	SK145J フタ土	(6.3)	深 破 胴部 把手	斜目をもつ隆帯で耳状把手、隆帯、キャタピラ文、三角押文	V A b	
38-1 31	SK145J フタ土	(19.8)	深 破 口縁部 胴部	隆帯・キャタピラ文・三角押文で区画・括糸文、横位のRL縷文	V B b	

第11表 K2-36・40 土器・土製品一覧表

図 面 版	出 土 位 置	口径 器高 底径 cm	器形の種別・部位	文 様 構 成			分 類	備 考
38-2 31	SK145J フタ土	(13.7)	深 破 胴部	横位のRL縄文、陸帯・キャタピラ文・波状 沈線で区画・描象文			V B b	
38-3 31	SK145J フタ土	(8.9)	深 破 胴部	陸帯・キャタピラ文・三角押文で区画文			V A b	
図 面 版	種 別	出土位置	部 位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	文 様 構 成	分 類
38-4 31	有孔脚付	SI121J フタ土	口縁・胴部	(26.5)	(15.5)	—	陸帯(脚)、沈線で曲線文、 棒状工具刺突により文様描 出	VII-B
38-5 31	有孔脚付	SI128J フタ土	口縁・胴・底部	(16.5)	16.5	(9.0)	陸帯(脚)	VII-1
38-6 —	有孔脚付	SI113・114 J フタ土	胴部	—	(2.5)	—	陸帯(脚)	VII-1
38-7 —	有孔脚付	SI129J フタ土	胴部	—	(2.6)	—	陸帯(脚)	VII-1
38-8 —	有孔脚付	遺構外 包含層	胴部	—	(3.1)	—	陸帯(脚)	VII-1
38-9 —	赤色付着	SI118J フタ土	口縁部	—	(4.6)	—	無文	VII-1
38-10 —	赤色付着	SI124J フタ土	口縁部	—	(3.4)	—	無文	VII-1
38-11 —	赤色付着	SI143J フタ土	口縁部	—	(4.1)	—	陸帯	V-1
38-12 31	白付土器	遺構外 包含層	胴部	—	(2.4)	—	陸帯、沈線	—
図 面 版	種 別	出土位置	口径 cm	器高 cm	底径 cm	文 様 構 成		分 類
39-1 32	ミニチュア	SI117J フタ土	3.5	4.0	1.8	手裡ね板		VII-1
39-2 32	ミニチュア	SI121J フタ土	—	(2.7)	3.7	糸線		VII-1
図 面 版	種 別	出土位置	高さ cm	厚さ cm	幅 cm	重量 g	文 様 構 成	分 類
39-3 32	土 偶	SI108J フタ土	(2.0)	1.5	2.5	4.8	つまみ状突起、沈線	VII-1
図 面 版	種 別	出土位置	長さ cm	最大径 cm	最小径 cm	重量 g	文 様 構 成	分 類
39-4 32	耳 栓	遺構外 包含層	(2.0)	2.0	1.5	5.7	竹串状工具刺突文	VII-1
図 面 版	種 別	出土位置	径 cm	厚さ cm	重量 g	分類	文 様 構 成	
39-5 32	土製円板	SI52J フタ土	5.5	1.3	52.8	II B	無文	
39-6 32	土製円板	SI52J フタ土	4.8	1.4	33.1	II A	L 摺糸文、沈線	
39-7 32	土製円板	SI52J フタ土	3.3	1.2	14.2	I A	RL 縄文	
39-8 32	土製円板	SI108J フタ土	3.0	0.8	7.9	III A	沈線	
39-9 32	土製円板	SI112J フタ土	3.0	0.9	7.5	II B	無文	
39-10 32	土製円板	SI118J フタ土	4.2	1.1	20.7	II B	無文	
39-11 32	土製円板	SI124J フタ土	4.1	1.1	20.7	I A	糸線	
39-12 32	土製円板	SI125J フタ土	2.5	0.9	6.3	II B	RL 縄文	

第12表 K2-36 土製品一覧表

図 番	種 別	出土位置	径 cm	厚さ cm	重量 g	分類	文 様 構 成
39-13 32	土製円板	SI128J フタ上	2.1	1.0	5.5	I A	RL 縄文
39-14 32	土製円板	SI129J フタ上	2.5	0.9	7.9	I A	無文
39-15 32	土製円板	遺構外 包含層	3.0	0.9	8.5	I A	条線
39-16 32	土製円板	SD 5 フタ上	3.1	1.0	10.9	III B	RL 縄文
39-17 32	土製円板	SI113J フタ上	3.9	0.8	15.1	I A	竹管刺突文、弦線
39-18 32	土製円板	遺構外 包含層	4.5	1.2	24.2	III B	条線
39-19 32	土製円板	遺構外 包含層	3.9	1.1	20.1	II A	条線
39-20 32	土製円板	遺構外 包含層	3.6	0.7	10.1	II C	RL 縄文
39-21 32	土製円板	遺構外 包含層	3.0	0.7	7.5	II B	RL 縄文
39-22 32	土製円板	SI123J フタ上	4.4	1.1	20.9	III A	無文

第13表 K2-36石器一覧表

国 産 区 版	種 別	出土位置	石 質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分 類	備 考
42-1 35	打製石斧	Sf52] フク土	砂 岩	9.0	5.4	2.4	127.9	IVa e 1	
42-2 35	打製石斧	SI52] フク土	砂 岩	11.8	4.3	1.2	57.2	IB j 1	
42-3 35	打製石斧	SI52] フク土	頁 岩	13.0	4.9	1.8	147.7	IA b 1	
42-4 35	磨製石斧	SI99] フク土	砂 岩	10.9	4.9	3.7	320.0	IA a 1	
42-5 35	打製石斧	SI99] フク土	頁 岩	11.2	4.2	2.5	136.0	IA c 1	
42-6 35	打製石斧	SI99] フク土	頁 岩	8.3	3.1	1.0	30.5	IA c 1	
42-7 35	打製石斧	SI99] フク土	安山岩	10.3	4.4	1.6	84.3	IIA b 1	
42-8 35	打製石斧	SI99] フク土	砂 岩	10.8	4.3	1.5	77.0	IIA e 1	
42-9 35	打製石斧	SI108] フク土	安山岩	12.9	5.3	1.8	146.4	ID c 1	
42-10 35	打製石斧	SI108] フク土	砂 岩	9.4	5.3	2.3	149.8	IB a 1	
42-11 35	打製石斧	SI108] フク土	砂 岩	9.4	7.2	2.0	133.1	IVB c 1	
43-1 35	打製石斧	SI100] フク土	頁 岩	19.0	6.2	2.5	344.2	IC e 1	
43-2 35	打製石斧	SI100] フク土	礫 岩	16.3	5.1	1.8	159.2	IA g 1	
43-3 35	甲 き 石	SI100] フク土	頁 岩	9.9	6.3	4.6	450.0	IC	
43-4 35	石 皿	SI100] フク土	花崗岩	11.3	7.2	3.9	450.0	II	
43-5 35	石 鏃	SI109] フク土	黒曜石	1.8	1.2	0.4	0.7	I a 1	
43-6 35	打製石斧	SI112] フク土	礫 岩	13.7	4.8	2.8	187.0	II C f 1	
43-7 35	打製石斧	SI112] フク土	頁 岩	11.6	5.7	2.4	147.0	III C e 1	
43-8 35	甲 き 石	SI112] フク土	チャート	6.7	6.1	3.6	230.0	IC	
44-1 35	打製石斧	SI113] フク土	砂 岩	9.6	5.4	1.3	70.3	IVC d 1	
44-2 35	打製石斧	SI113] フク土	砂 岩	9.9	4.4	1.7	78.5	IB j 1	
44-3 35	打製石斧	SI113] フク土	チャート	10.1	4.7	1.4	66.4	IA b 1	
44-4 35	打製石斧	SI113] フク土	粘板岩	9.4	5.8	1.9	90.5	IVB b 1	
44-5 36	磨製石斧	SI113] フク土	蛇紋岩	4.7	1.3	0.7	8.0	III B a 1	
44-6 36	石 皿	SI113] フク土	安山岩	19.8	13.3	3.2	1130.0	II	
44-7 36	石 鏃	SI114] フク土	黒曜石	1.6	1.6	0.3	0.4	I a 1	
44-8 36	打製石斧	SI114] フク土	砂 岩	12.1	4.9	1.9	115.6	IIA d 1	
44-9 36	打製石斧	SI114] フク土	安山岩	11.3	5.6	2.2	152.6	II B d 1	
44-10 36	打製石斧	SI116] フク土	砂 岩	6.4	4.0	1.0	31.0	IV-2	
45-1 36	石 鏃	SI117] 小 穴	黒曜石	2.6	1.5	0.7	2.0	IVA	
45-2 36	打製石斧	SI117] フク土	礫 岩	8.2	6.0	2.3	105.4	IVB c 1	

第14表 K2-36石器一覽表

図面 図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
45-3 36	打製石斧	S118J フク土	頁岩	9.2	5.1	1.4	70.9	IVAc1	
45-4 36	打製石斧	S118J フク土	頁岩	9.8	4.1	1.6	81.0	IAAd1	
45-5 36	打製石斧	S118J フク土	頁岩	11.1	4.5	1.9	116.5	IIAd1	
45-6 36	打製石斧	S118J フク土	頁岩	12.0	4.1	2.1	112.6	IIcc1	
45-7 36	石鏃	S118J フク土	緑泥片岩	25.4	16.8	4.3	2100.0	I	
46-1 36	石鏃	S119J フク土	黒曜石	3.3	1.3	0.7	2.0	V	
46-2 36	打製石斧	S119J フク土	礫岩	13.1	6.4	3.2	309.5	IDe1	
46-3 36	打製石斧	S119J フク土	粘板岩	10.7	5.0	2.2	130.4	IAc1	
46-4 36	叩き石	S119J フク土	礫岩	12.6	5.0	3.0	210.0	IIc	
46-5 36	叩き石	S119J フク土	凝灰岩	10.6	3.3	2.4	138.7	IIb	
46-6 36	磨製石斧	S119J フク土	礫岩	9.7	5.9	4.3	455.0	I--4	叩き石として 再利用
46-7 36	石鏃	S119J フク土	頁岩	9.3	3.3	0.8	29.6	IIb	
46-8 36	石鏃	S120J フク土	チャート	2.0	1.6	0.4	1.0	Ia1	
46-9 36	石鏃	S121J フク土	黒曜石	1.6	1.5	0.4	0.6	Ia1	
46-10 36	石鏃	S121J フク土	黒曜石	1.7	1.5	0.3	0.5	Ib1	
46-11 37	打製石斧	S121J フク土	砂岩	11.8	5.2	2.7	182.5	IIAa1	
46-12 37	打製石斧	S121J フク土	砂岩	11.0	4.6	1.9	110.0	IBa1	
46-13 37	打製石斧	S121J フク土	凝灰質砂岩	10.1	4.2	1.5	75.2	IAc1	
47-1 37	打製石斧	S121J フク土	安山岩	9.7	5.0	2.5	142.0	ICa1	
47-2 37	石鏃	S123J フク土	黒曜石	2.1	1.5	0.5	0.9	I d1	
47-3 37	石鏃	S123J フク土	チャート	4.4	2.1	1.3	8.2	IVA	
47-4 37	磨製石斧	S123J フク土	安山岩	8.7	2.2	1.2	30.6	III--2	
47-5 37	打製石斧	S123J フク土	頁岩	9.2	6.4	1.5	107.1	IVBx1	
47-6 37	打製石斧	S123J フク土	頁岩	6.0	5.9	1.3	70.0	IVBd1	
47-7 37	打製石斧	S123J フク土	頁岩	10.8	5.6	1.8	100.6	IVBx1	
47-8 37	打製石斧	S123J フク土	礫岩	9.2	7.1	2.5	168.7	IVCc1	
47-9 37	打製石斧	S123J フク土	粘板岩	11.9	4.0	2.1	110.0	IIAd1	
47-10 37	石鏃	S123J フク土	チャート	2.2	4.2	0.5	4.0	IAa1	
47-11 37	磨石	S123J フク土	砂岩	8.2	8.4	4.3	482.0	I n	
48-1 37	石鏃	S127J フク土	チャート	3.8	1.7	1.0	6.1	IVA	
48-2 37	石鏃	S124J フク土	黒曜石	1.6	1.7	0.5	0.9	I b4	

第15表 K2-36・40石器一覧表

国 産 図 版	種 別	出土位置	石 質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分 類	備 考
48-3 37	打製石斧	SI124J フク土	砂 岩	12.7	5.7	2.9	174.0	IAe1	
48-4 37	打製石斧	SI124J フク土	安山岩	11.8	4.7	2.0	120.2	IAg1	
48-5 37	打製石斧	SI124J フク土	頁 岩	11.8	6.8	2.1	211.2	ICc1	
48-6 37	打製石斧	SI124J フク土	砂 岩	14.0	6.5	2.1	202.1	IBb1	
48-7 37	石 皿	SI124J フク土	花崗岩	18.0	12.4	5.8	1720.0	I	
49-1 37	石 鏃	SI125J フク土	チャート	2.8	1.6	0.4	1.4	IIB1	
49-2 37	打製石斧	SI125J フク土	頁 岩	9.2	4.0	1.4	50.6	IIAc1	
49-3 37	打製石斧	SI125J フク土	頁 岩	10.8	6.6	2.2	140.7	IVAi1	
49-4 38	打製石斧	SI125J フク土	チャート	13.0	4.7	2.0	142.0	IIBb1	
49-5 38	打製石斧	SI126J フク土	砂 岩	9.5	4.4	1.6	74.7	IICh1	
49-6 38	打製石斧	SI126J フク土	安山岩	9.8	5.0	1.7	77.1	IVAc1	
49-7 38	打製石斧	SI128J フク土	砂 岩	9.5	4.8	1.4	70.7	IVAb1	
49-8 38	打製石斧	SI129J フク土	砂 岩	10.1	6.3	2.1	130.5	IVAb1	
49-9 38	打製石斧	SI130J フク土	砂 岩	11.2	4.1	1.5	94.6	IAh1	
49-10 38	打製石斧	SI130J フク土	安山岩	19.2	7.3	2.4	370.3	IIAc1	
50-1 38	打製石斧	SI135J フク土	砂 岩	6.7	4.7	1.0	33.3	IVBd1	
50-2 38	石 鏃	SI131J フク土	黒曜石	1.8	1.7	0.3	0.9	Ia1	
50-3 38	打製石斧	SI131J フク土	頁 岩	10.7	4.2	2.0	114.1	ICd1	
50-4 38	打製石斧	SI131J フク土	頁 岩	10.1	4.6	1.4	82.8	IIDc1	
50-5 38	石 皿	SI131J フク土	安山岩	17.7	12.1	4.8	1650.0	II	
50-6 38	打製石斧	SI137J フク土	安山岩	9.2	4.3	1.4	69.7	IVAh1	
50-7 38	打製石斧	SK145J フク土	礫 岩	9.3	6.2	2.1	127.0	IVBc1	
50-8 38	打製石斧	SK145J フク土	砂 岩	10.3	4.8	1.7	84.2	IAj1	
50-9 38	打製石斧	SK145J フク土	頁 岩	11.2	4.9	2.5	170.4	IIAd1	
50-10 38	打製石斧	SK154J フク土	凝灰質砂岩	10.0	5.8	1.1	62.4	IVCc1	
50-11 38	石 鏃	遠隔外 包含層	黒曜石	1.7	1.3	0.3	0.4	Ib1	
51-1 38	打製石斧	SK156 フク土	礫 岩	8.4	5.5	2.1	90.0	IVCc1	
51-2 38	石 匙	SK156 フク土	安山岩	7.9	7.6	1.4	80.0	IB	

(3) 小 結

壱ヶ窪遺跡には縄文時代中期前半から後半にかけての集落が築かれている。各々の調査地点で検出されている遺構の分布状況により、A、住居跡が密集して検出される地域、B、住居跡がまばらに検出されている地域、C、住居跡は殆ど検出されず土坑が多数検出されている地域、D、小穴以外の遺構が認められない地域に分けることが出来る。これらは集落の中で次のように捉えられている。A、集落居住域、B、集落居住域の限界、C、集落の墓域、D、集落居住域外。そしてAの居住域が長軸約300m、短軸約200mの楕円状に廻りその内側にCの墓域が存在する大規模集落特有の環状又は馬蹄形状の集落形態(註1)であることがつかめるようになってきた。

今回の集落居住域北西地域での発掘調査で検出されている住居跡・土坑・集石跡・小穴は、A、集落居住域→B、集落居住域の限界を構成している遺構である。それらの遺構の中で特に住居跡について検討し、集落の広がりについて考えてみたい。

これまでの調査成果から本遺跡における縄文時代中期住居跡の分布範囲は、東側の日立中央研究所構内(註2)から西側のK2-15次調査地(註3)、南はK2-27次調査地(註4)で設定していた。北側については立会い調査で発見された住居跡をもとに範囲を設定していたが、今回の調査で北側地域の住居跡群を調査記録することができた。報告のSI104~107J住居跡が最も北側に位置する住居跡である。これらの住居跡をつなぎ範囲を計ると長軸約270m、短軸約170mで今まで考えられていた範囲よりやや小さいことが明らかとなった。

次に、各々住居跡の時期毎に居住域の範囲について検討する。IV-1-①に記述してあるが、大半の出土遺物が住居跡覆土中からで時期を明確に限定できる住居跡はあまりないのが現状である。従ってここでは大きく勝坂式期と加曾利E式期に分け、集落居住域の範囲を考えてみることにする。

調査地西側の道路で検出されている① SI132・139・141・142・143J住居跡は覆土中から勝坂式土器片が出土しており、周辺地域の発掘調査でも加曾利E式期の住居跡がないことから勝坂式期の住居跡と考えられる一群である。北側地域の道路では② SI104~108・112・119・120・121J住居跡が検出され、このうちSI112・119J住居跡が勝坂式期であるが他は加曾利E式期の住居跡と考えられる。この2地域における住居跡のありかたは、本遺跡における両時期の居住域の限界を表わすものと考えられる。

①の分布状況は前述した東側の日立中央研究所構内の分布状況(註5)と酷似しており、構内で検出されている住居跡も勝坂式期だけで、加曾利E式期は存在しないことが判明している。従って、西側の勝坂式期居住域の範囲はこのあたりにラインが引けそうである。②の分布状況は勝坂式期の住居跡もわずかに含まれるものの主体が加曾利E式期の住居跡である。これらの住居跡群より北側については遺構もなく広がり限界がこのあたりであることが推測される。同

様に南側地域の K2-27次調査地における SI63・64・65・98J 住居跡も加曾利 E 式期で、南側についても加曾利 E 式期の住居跡が主体に分布している状況である。さらに南北両地域とも西側には住居跡は発見されていないことも明らかになっている。このことから、西側の勝坂式期の内側に加曾利 E 式期居住域の限界がありラインが設定できそうである。両時期の分布状況は大局では楕円の形に分布するが細かく観察すると、勝坂式期は楕円形でもやや南北が縮小した範囲に分布し、加曾利 E 式期は西側が縮小した形で円形に分布するものと推測される。

ここで C. 集落の墓域について再度触れることとする。K2-27次調査地報告(註6)において集落内の土坑の分析を行い、勝坂式期は居住域の中央に楕円状に墓域が分布していること、加曾利 E 式期は円形状に墓域が分布していることが明らかになっている。この状況が集落の範囲に影響を与えているとは断言できないものの何らかの規制をもち範囲が定められた可能性が考えられる。

恋ヶ窪遺跡の発掘調査状況は、広範囲を調査しその遺構全体について把握できるケースはまれで、大半が部分的な調査の積み重ねによるところが多い。今回の報告でも遺構全体を把握し集落の居住域の範囲を限定したのではなく現在得られているデータによるものである。特に公共下水道管埋設に伴う調査は、遺構の一部が道路で検出され主体部が宅地部分に存在するケースや、遺構の主要部分がすでに既設の埋設管により破壊されているケースが多い。そのため今後の周辺地域調査の積み重ねにより、遺構の広がりや内容について再度吟味し補足していく必要がある。

次に本遺跡の西側地域を南北に通る歴史時代の S F I 道路状遺構(推定東山道武蔵路)について考察を行う。本遺構は東西に溝を持ち、その両側溝の範囲内が道路状の遺構として捉えられている。恋ヶ窪遺跡では東西両側の溝発見は古く K2-8次調査(註7)で検出され報告が行われているが、当初は調査の基準線が明確でなかったため時期不詳の遺構として捉えられていた。東西の溝跡が道路状遺構の両側溝として認識されるのは、国家座標第 9 系を発掘調査の基準線として用いるようになった K2-27次調査(註8)からである。

平成 7 年度に本遺跡の南側にある旧国鉄中央鉄道学園跡地で「東山道武蔵路」と推定される道路遺構が全長約 340m にわたって検出された。東西両側溝の状況や側溝に並ぶ溝跡、路面に残された硬化面などから道路跡には 4 時期の変遷があることが確認されている。以下、各時期について記述する。

- 1 時期目の道路跡 心々距離約 12m の東西両側溝を伴う構築時の東山道。
- 2 時期目の道路跡 両側溝が埋没し上層で検出された硬化面を道路として使用。
- 3 時期目の道路跡 心々距離約 9 m の東西両側溝を伴う道路。
- 4 時期目の道路跡 心々距離約 12m の東西両側溝内側にある切り通し状の硬化面。

これら道路跡の変遷と恋ヶ窪遺跡での道路状遺構の状況を比較すると次のようになる。

1 時期目の東西両側溝は SD2・5 溝跡で登録されており、台地上の遺跡範囲内全域で確認される。

2 時期目は 1 時期目の上層に、SD2・5 溝跡の覆土より締まりがよい茶褐色上の堆積が認められる。

3 時期目は心々距離約 12m の東西両側溝が検出されるが、その内側には溝跡は確認されていない。東西両側溝の堆積土層を観察すると、覆土の中位で溝として機能していた部分があることからこれがこの期に該当する遺構の可能性がある。

4 時期目は遺跡内の切り通し状の硬化面で K2-27 次調査の SD 4 溝跡(註9)に該当するものと考えられる。この溝跡の延長は K2-57 次調査地(註10)までであり、台地上で約 40m が確認され北側には延びていない。

このように比較してみたが地域により 3 時期目に違った状況を示すようである。しかし、1 時期目はほぼ直線上に位置し本遺跡より更に北へ延びていることが明らかになっている(註11)。また、鉄道学園と恋ヶ窪遺跡の間には野川の開析谷である「恋ヶ窪谷」が存在しており、道路状遺構はこの谷部を直行している。この部分の状況がどのようにになっているかは今後の調査に期待がもたれる。

(註 1) 「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅳ」 1988年 国分寺市遺跡調査団

(註 2) 「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅵ」 1992年 国分寺市遺跡調査団

(註 3) 註 1 と同じ。

(註 4) 「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅶ」 1996年 国分寺市遺跡調査団

(註 5) K2-39 次日立中央研究所研究棟の調査において恋ヶ窪遺跡の集落の東限が明らかとなった。

「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅵ」 1992年 国分寺市遺跡調査団

(註 6) K2-27 次公共下水道面整備工事に伴う調査において焼人骨を伴う土坑の分析とその他の土坑の分析を行い勝瓶式期と加曾利 E 式期の範囲を明らかにした。

「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅶ」 1996年 国分寺市遺跡調査団

(註 7) 「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅱ」 1980年 恋ヶ窪遺跡調査団

(註 8) 国家産産第 9 系を用いて発掘基準線としたのは第 27 次公共下水道面整備に伴う調査からである。

現在は武蔵国分寺跡を除く市内の遺跡はこの基準線を用いて調査を行っている。

(註 9) 東西両側溝である SD 2・5 溝跡の内側にあり底面がやや硬質である。

(註 10) K2-27 次調査地 SF 1 道路状遺構検出地点の北側で実施した公園工事に伴う調査で SD 4 溝跡を検出。(未報告)

(註 11) 恋ヶ窪 4 丁目水道管埋設工事立会い調査において東西側溝を確認している。座標については未計測である。

2. K8-4・6、K28-3、K57-2・3次調査

花沢西遺跡はJR中央線により南北に分断されており、両地域の道路部分に下水道管を埋設するため発掘調査を実施した。遺構は、縄文時代中期初頭の屋外埋壘や集石土坑である。

本町遺跡の調査地は遺跡の中央に位置し、商店街が建ち並ぶ地域での下水道管埋設部分について発掘調査を実施した。遺構は、縄文時代中期後半の竪穴住居跡や屋外埋壘が検出された。

恋ヶ窪東遺跡の調査地は遺跡の中央を南北に通る市道幹6号線沿いに、下水道管埋設部分や立坑の設置箇所において立会い調査を行った。遺構は、縄文時代中期前半の竪穴住居跡や土坑が検出された。

(1) 検出遺構

SU 4 屋外埋壘 K8-4 (図面15 図版15)

〈位置〉本町4丁目3番先 〈形状〉径0.5mで確認面からの掘り込みは30cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で細かいスコリア粒子を含む単一の土層が充填される。〈出土遺物〉埋設土器は五領ヶ台式深鉢形土器(図面40-1) 1個体である。〈時期〉五領ヶ台式期の遺構である。

SS 2 集石 K8-4 (図面15 図版15)

〈位置〉本町4丁目3番先 〈形状〉長径0.8m以上、短径0.6mで厚さ20cmの範囲に礫が集中して出土する。集石下からは土坑等の落ち込みは検出されなかった。〈出土遺物〉大半の礫は被熱し、一部分破碎したのも出土している。〈時期〉時期不詳である。

SS 3 集石 K8-6 (図面15 図版16)

〈位置〉本町4丁目29番先 〈形状〉径1.4mで確認面からの掘り込みが50cmを計る土坑内から検出され、径1.4mで厚さ40cmの範囲に集中して礫が認められる。〈覆土〉黒褐色土で炭化物や焼土粒子が多量に含まれる土層が堆積する。〈出土遺物〉大半の礫は被熱し、一部分破碎したのもある。集石の中から阿玉台式の土器片(図面40-2・3)が出土している。〈時期〉阿玉台式期と並行の勝坂式期の遺構である。

SS 4 集石 K8-6 (図面15 図版16)

〈位置〉本町4丁目29番先 〈形状〉遺構の断面部分しか確認できなかったため規模は推定によるものである。径2.0mで確認面からの掘り込みが100cmを計る土坑内から検出され、径1.6mで厚さ40cmの範囲に集中して礫が認められる。〈覆土〉暗茶褐色土で炭化物が多量に含まれる土層が堆積する。〈出土遺物〉大半の礫は被熱し、一部分破碎したのも出土している。〈時期〉時

期は不詳である。

SI13J 住居跡 K28-3 (図面16 図版16)

〈位置〉本町2丁目2番先 〈形状〉東西3.1m以上、南北1.7m以上で、確認面からの掘り込みは20cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土が主体に堆積している。〈炉〉埋燵炉で加曾利E式第II段階の深鉢形土器(図面41-1)が炉体土器として設置されている。〈柱穴〉径0.3~0.7mで、深さ30~50cmの柱穴が6個確認された。〈出土遺物〉炉体土器の他に加曾利E式の土器片が覆土より出土する。〈時期〉加曾利E式期第II段階の住居跡である。屋外埋燵SU1・2と重複しており本住居跡が古い。

SI14J 住居跡 K28-3 (図面16 図版16)

〈位置〉本町2丁目2番先 〈形状〉東西3.2m、南北0.8m以上で、確認面からの掘り込みは20cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土が主体に堆積する。〈出土遺物〉加曾利E式土器の小破片が出土する。〈時期〉加曾利E式期の住居跡である。

SU 1 屋外埋燵 K28-3 (図面16 図版16)

〈位置〉本町2丁目2番先 〈形状〉径0.3mで確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で単一の土層が充填される。〈出土遺物〉埋設土器は加曾利E式第VI段階の深鉢形土器(図面41-4) 1個体である。〈時期〉加曾利E式期第VI段階の遺構である。

SU 2 屋外埋燵 K28-3 (図面16 図版16)

〈位置〉本町2丁目2番先 〈形状〉径0.4mで確認面からの掘り込みは25cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で単一の土層が充填される。〈出土遺物〉埋設土器は加曾利E式第VI段階の深鉢形土器(図面41-5) 1個体である。〈時期〉加曾利E式期第VI段階の遺構である。

SU 3 屋外埋燵 K28-3 (図面16 図版17)

〈位置〉本町2丁目2番先 〈形状〉径0.2mで確認面からの掘り込みは15cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で単一の土層が充填される。〈出土遺物〉埋設土器は加曾利E式第VI段階の深鉢形土器(図面41-3) 1個体である。〈時期〉加曾利E式期第VI段階の遺構である。

SU 4 屋外埋燵 K28-3 (図面16 図版17)

〈位置〉本町2丁目2番先 〈形状〉径0.5m、確認面からの掘り込みは15cmを計る。〈覆土〉暗茶褐色土で単一の土層が充填される。〈出土遺物〉埋設土器は加曾利E式第IV段階の深鉢形土器

(図面41-2) 1個体である。〈時期〉加曾利E式期第IV段階の遺構である。

SI 2 J住居跡 K57-2 (図面15 図版17)

〈位置〉本町4丁目24番先 〈形状〉東西3.0m、南北2.8mで確認面からの掘り込みは40cmを計る。〈覆土〉茶黒褐色土で炭化物が混じる土層が堆積する。〈炉〉径0.4mで深20cmの地床炉である。〈柱穴〉径0.2mで深さ40cmの柱穴が7個確認された。〈出土遺物〉勝坂Ⅱ式土器の小破片が出土している。〈時期〉勝坂式期の住居跡である。

SK 2 J土坑 K57-3 (図面15 図版17)

〈位置〉本町4丁目17番先 〈形状〉径1.2mで、確認面からの掘り込みは20cmを計る。〈覆土〉茶褐色土が主体に堆積している。〈時期〉時期は不詳である。

K8-6遺構土層説明

SS 4 基石 図面15

1. 暗茶褐色土 スコリア粒子と炭化物を少量含む。
2. 暗茶褐色土 焼け礫を多量に含む炭化物を多く含む。
3. 暗黒褐色土 木炭を多量に含む。
4. 暗黄褐色土 ロームブロックを多く含む炭化物と焼土ブロックが混じる。
5. 暗茶褐色土 ローム・スコリア粒子を含む。
6. 暗黄褐色土 汚れたロームブロックを含む。
7. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを含む。

K57-2遺構土層説明

SI 2 J住居跡 図面15

1. 茶黒褐色土 細かいローム粒子と炭化物を少量含む。
2. 茶黒褐色土 ローム粒子と炭化物を含む。
3. 茶黒褐色土 細かいローム・スコリア粒子を含む。
4. 暗黄褐色土 ロームブロックを含む。
5. 茶暗褐色土 焼土粒子を含む。

(2) 出土遺物

今回の調査によって出土した遺物は縄文時代の土器・石器・礫等で、総量はコンテナ13.5箱ほどである。出土遺物の内、遺構から出土した土器片と石器について図示し、記述は一覧表によった。分類の項目は〔IV-1-(2)〕の基準を用いている。

第16表 K8-4・6、K28-3、K57-2土器・石器一覧表

図面 図版	遺跡No 出土位置	口径 器高 底径cm	器形の種別・部位	文様構成	分類	備考			
40-1 34	K 8 SU 4	(28.4) (18.0)	深 胴部 底部	微隆起の縦位貼付隆帯	IV				
40-2 34	K 8 SS 3	(26.0) (11.2)	深 口縁部 胴部	隆帯で区画文、沈線、棒状工具刺突文、1 列の半截竹管押引文	VI				
40-3 34	K 8 SS 3	(8.5)	深 破 胴部	貼付隆帯	VI				
40-4 34	K57 SI2J フク土	(4.7)	深 破 口縁部	キョクピラ文、波状沈線、隆帯	VB b				
40-5 34	K57 SI2J フク土	(8.6)	深 破 口縁部	キョクピラ文、波状沈線	VB b				
40-6 34	K57 SI2J フク土	(4.8)	深 破 胴部	隆帯、キョクピラ文、波状沈線	VB b				
40-7 34	K57 SI2J フク土	(5.3)	深 破 胴部	隆帯・キョクピラ文・半截竹管押引による 波状文で毛虫状文	VB b				
41-1 33	K28 SI13J カ'	(38.0) (18.0)	深 口縁部 胴部	貼付隆帯で区画・渦巻文、隆帯上に竹管に よる刺突文、縦位のRL縄文、胴部無文部、 横位の2本沈線	VI B b	炉体土器			
41-2 33	K28 SU 4	(40.0) (22.6)	深 口縁部 胴部	斜位のRL縄文、2本沈線の波状文、横位の 2本沈線	VII E d				
41-3 33	K28 SU 3	(28.6) (36.0) 8.4	深 口縁部 胴部 底部	6本単位の櫛状工具による縦糸縄文、横位 の1本沈線	VII D f				
41-4 33	K28 SU 1	32.0 41.0 8.8	深 口縁部 胴部 底部	縦・斜位のRL縄文、横位・縦位の微隆起 隆帯、微隆起隆帯による渦巻文	VII D f				
41-5 33	K28 SU 2	(38.2) 7.2	深 胴部 底部	縦位のLR縄文、微隆起隆帯でH字状文・楕 円文・わらび手文	VII D f				
図面 図版	種別	遺跡No 出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
51-3 38	石 錘	K57 SI2J フク土	黒曜石	4.0	1.9	1.2	4.7	V	
51-4 38	打製石斧	K57 SI2J フク土	頁 岩	8.8	5.9	2.1	106.4	I-5	
51-5 38	甲き石	K57 SI2J フク土	砂 岩	12.4	3.8	3.0	178.5	II C	

(3) 小 結

今回の3遺跡内の調査において住居跡3軒、屋外埋壘5基、集石跡3基、土坑1基が検出された。遺構の数は少ないが、各々遺跡における縄文時代中期の集落の広がりを把握する上で貴重な資料である。

花沢西遺跡はこれまでに10ヶ所の発掘調査が行われている。これらの調査で検出されている遺構は、縄文時代の中期初頭から後半にかけての遺構である。その内訳は住居跡1軒、土坑13基、屋外埋壘5基、集石跡4基である。検出された遺構は、J R中央線を挟んで南側地域に五領ヶ台式期と勝坂式期が北側地域に加曾利E式期が主に分布しており、その範囲は東西約100m、南北約100mである。

今回の報告では北側地域で五領ヶ台式期のSU 4屋外埋壘が発見されている。該期の遺構は主に南側地域に多く検出されているが、広く分布する傾向があることが明らかとなった。また、南側地域の集石跡2基は、大型な土坑内に炭化物と焼礫が多量に堆積する形態である。このような集石跡は本遺跡の西側にある恋ヶ窪南遺跡(註1)で見られている。本遺跡でも周辺域を精査すれば更に多くの集石跡が検出される可能性が高いと考えられる。

本町遺跡はこれまでに8ヶ所の発掘調査が行われている。発見されている遺構は縄文時代中期前半から後半の遺構で、内訳は住居跡19軒、土坑9基、屋外埋壘7基である。分布は東西約110m、南北については南側がJ R中央線により台地が分断されたり削平を受けているため約40mの範囲に広がる。

報告された住居跡は遺構分布範囲の中で北西隅に位置し、更に西側は谷部となり遺構が存在しないことが立会い調査(註2)で明らかとなっている。屋外埋壘は4基検出されているが、北側の店舗建替えの調査(註3)においても3基検出されており、この地域が集落の居住域以外の「墓域」として存在していたものと考えられる。

恋ヶ窪東遺跡はこれまでに12ヶ所の発掘調査が行われている。調査当初は各地点からの遺構数も少なく、近接する恋ヶ窪遺跡と比較すると中規模程度の集落跡と考えられていた。しかし、9・11次の都営住宅建て替えに伴う調査(註4)によって縄文時代中期前半から終末までの住居跡が多数検出され大規模集落跡であることが判明した。

今回報告のSI 2 J住居跡は、本遺跡における勝坂式期の住居跡の分布範囲の中で最も北側に位置するものと考えられる。SI 2 J住居跡北側については、下水道管埋設に伴う立会い調査では住居跡等の遺構は確認されていない。また、SI 2 J住居跡の東側には勝坂II式期のSI 4 J住居跡(註5)があり、それより東側は集石跡や土坑が検出されているだけである。南側については、9次調査地のSI23J住居跡が勝坂式期の住居跡で最も南に位置している。従って、本遺跡における勝坂式期の集落居住域の範囲は東西約100m、南北約200mに分布していることが明らかとなった。

なお、平成8年度より都営住宅建て替えに伴う調査の整理作業が始まっており、本道跡における集落中心部分の様子が明らかになるものと期待がもたれる。

- (註1) 志ヶ窪南道跡で縄文時代中期初頭五領ヶ台式期の住居跡3軒、集石跡11基が検出されている。
「志ヶ窪南道跡発掘調査概報1」 1987年 国分寺市道跡調査団
- (註2) 本町道跡の西側部分についてはビル工事や水道管・ガス管理設工事の立会い調査を実施しており南から北へ向かって谷が入り込むことが判明している。
- (註3) 本町道跡第7次調査において屋外埋戻3基が確認され調査を行っている。(未報告)
- (註4) 本町第4都営住宅建て替え工事に伴う事前発掘調査で縄文時代早期・中期・後期の住居跡群が検出され調査を行う。(未報告)
- (註5) 今回報告のK57-2次調査地東側にて家建設に伴う調査を実施しており、縄文時代中期前半棚板式期住居跡1軒、中期終末加曾利B式期敷石住居跡1軒が検出されている。
「志ヶ窪東道跡発掘調査概報1」 1990年 国分寺市道跡調査団

V 結 語

本報告は、国分寺市西恋ヶ窪1丁目、東恋ヶ窪1丁目、本町2・4丁目ならび南町3丁目に所在する恋ヶ窪遺跡・恋ヶ窪東遺跡・花沢西遺跡・本町遺跡において市下水道課が行った公共下水道面整備工事に伴う発掘調査の成果をまとめたものである。

本報告書の中で主に取り上げられている恋ヶ窪遺跡は、縄文時代中期の集落跡として著名な遺跡である。昭和12年後藤守一博士により「武蔵国分寺村に於ける敷石住居遺跡の発掘」と題した報告が『考古学雑誌』に紹介され、以来何度か発掘調査が実施され貴重な資料が得られている。

昭和22年に堀野半十郎氏により竪穴住居が発掘され、その際に、筆者も手伝って、1軒の住居跡から出土した、加曾利E式の完形に近い土器20数個体について『銅鐸』に発表したことがある。この中で土器群を5類に分類し、一時期内における土器の多様性について考えたことがあった。これらの土器は連弧文土器、曾利系の土器、加曾利E式土器の特徴と曾利式土器の特徴を合わせた土器として現在では捉えられている。

今回の調査では、遺跡の西側地域と北側地域において住居跡が38軒検出され縄文時代中期の継続した大規模集落の一部を発掘することができた。これらの住居跡より出土している土器は勝坂式土器や加曾利E式土器の範疇であり、先にあげた連弧文土器や曾利系の土器も多数含まれている。

これまで本遺跡内における発掘は公共下水道工事関連や住宅の建て替え等による緊急調査が主体で、広い面積を対象にした調査は少ないが、くしくも遺跡内を縦横にトレンチ調査を行った結果となった。このことにより、本遺跡内における住居跡の分布状況が次第に明らかになりつつある。

かつて私が報告したのは1軒の住居跡から出土した土器であったが、それ以来数十年の時を経て多くの資料も蓄積されつつある。今後は各々住居跡より出土した土器を細かく分類することによりさらに遺跡全体の様相が究明されることを期待する。

恋ヶ窪東遺跡は都営第4団地の建て替え工事に際して大規模な発掘調査を行い、縄文時代早期ならび中期の住居跡が多数検出され注目されている。今回の調査で検出された勝坂式期の住居跡は都営住宅建設地の北側に位置し本住居跡より北側に遺構が発見されないことから本遺跡の中で住居跡分布状況を捉える上で貴重な資料と言える。

花沢西遺跡は現状ではJR中央線により南北に分断されている。今回の調査は南側地域と北側地域で調査を行っており、特に注目される遺構としては五領ヶ台式土器を埋設した屋外埋裏で、周囲に該期の住居跡等が存在する可能性が高い。また、市内の遺跡では五領ヶ台式期の住居跡は、恋ヶ窪谷を挟んだ西側の恋ヶ窪南遺跡で行われた第8都営住宅の建て替えの際に発

見され、本遺跡との関連が注目される。

本町遺跡の発見は古く本文のII-1項にも記述しているが明治27年に大野猛太郎氏、鳥居龍蔵氏らによる。所在はJR国分寺駅の北口より東側に位置し、現在ではビルが建ち並ぶ。今回の調査では予想以上に縄文時代中期の住居跡や屋外埋嚢が検出された。恋ヶ窪遺跡ともに古くから注目されている遺跡であり、今後の調査に期待がもたれる。

公共下水道工事の発掘調査は、前に述べたように遺跡の中に網状にトレンチを入れて内容を把握する試掘調査と同じ効果が得られる。それにより遺跡の内容が次第に明らかとなり、反面それらの発見された遺構は順次壊されていく運命にある。都市化が進む市内の遺跡に於いてはこのような調査方法もいたしかたないことであるが、再度、調査により収集され蓄積された資料を吟味し、遺跡の保存や活用という理念に立ち返り研究を願う次第である。

(調査団長 吉田 格)

参 考 文 献

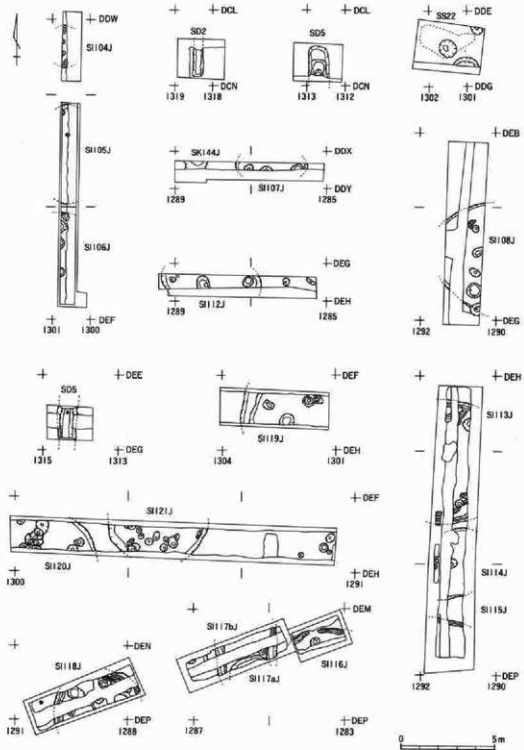
- 秋山道生 1990「野川流域の縄文時代」『多摩のあゆみ61号』
- 安孫子昭二・可见通宏 1971「平尾遺跡調査報告」南多摩郡平尾遺跡調査会
- 安孫子昭二・秋山道生・中西充 1980「東京・埼玉における縄文中期後半の編年試案」『神奈川考古10』
- 大野延太郎・鳥居龍藏 1894「武蔵国北多摩郡国分寺村石器時代遺跡」『東京人類学会雑誌102号』
- 加藤晋平・小林達雄・藤本強 1983「縄文文化の研究5・7・9」雄山閣
- 加藤晋平・鶴丸俊明 1991『石器入門事典 先土器』柏書房
- 木下亀城・小川留太郎 1967『岩石鉱物』保育社
- 小林達雄 1989『縄文土器大観1・4』小学館
- 小林達雄 1988『縄文土器大観2・3』小学館
- 国分寺市 1986『国分寺市史 上巻』
- 佐原真 1977「石斧論—横斧から縦斧へ—」『考古論集』
- (財)古代学協会東京支部 1996「シンポジウム東山道をさぐる」
- 鈴木道之助 1991『石器入門事典 縄文』柏書房
- 滝口宏 1985「武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅷ」武蔵国分寺遺跡調査会
- 滝口宏 1987「恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報Ⅰ」国分寺市遺跡調査会
- 滝口宏 1988「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅳ」国分寺市遺跡調査会
- 滝口宏 1988「武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅷ」国分寺市遺跡調査会
- 滝口宏 1992「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅵ」国分寺市遺跡調査会
- 永峯光一 1979「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ」恋ヶ窪遺跡調査会
- 永峯光一 1980「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅱ」恋ヶ窪遺跡調査会
- 永峯光一 1982「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅲ」恋ヶ窪遺跡調査会
- 広瀬昭弘・秋山道生・砂田佳弘・山崎和巳 1985「縄文時代集落の研究—野川流域の中期を中心として—」『東京考古3』
- 吉田格 1957「東京都国分寺町恋ヶ窪壑穴住居址の土器に就いて」『銅鐸12』
- 吉田格 1962「東京都国分寺町中期縄文式住居址調査概報」『武蔵野41-3・4』
- 吉田格 1992「向郷遺跡」立川市向郷遺跡調査会
- 吉田格 1996「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅶ」国分寺市遺跡調査会

圖 面

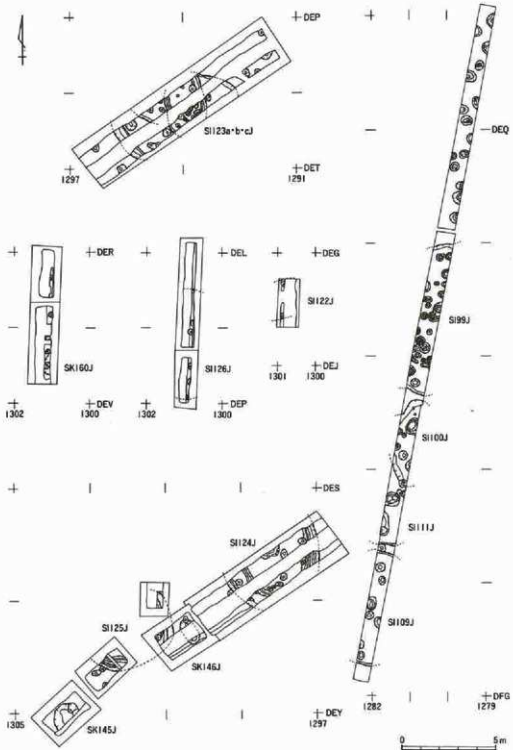
図面1 K2-36・40 調査地全体図



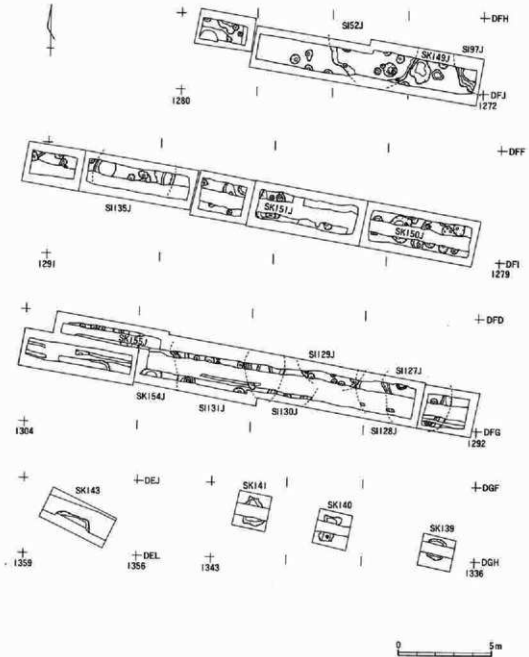
図面 2 K2-36 調査地点全体図 (1)



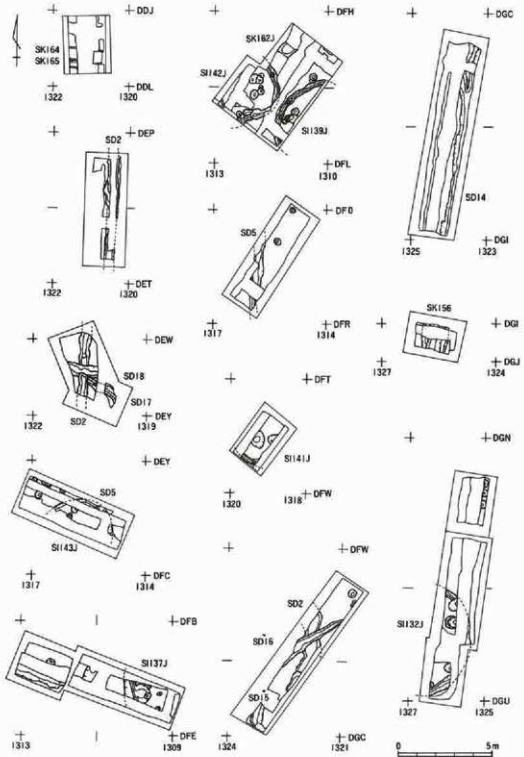
図面3 K2-36 調査地点全体図(2)



図面 4 K2-36 調査地点全体図 (3)



図面 5 K2-40 調査地点全体図 (4)



図面6 K2-36 SI52・97・104~108J住居跡

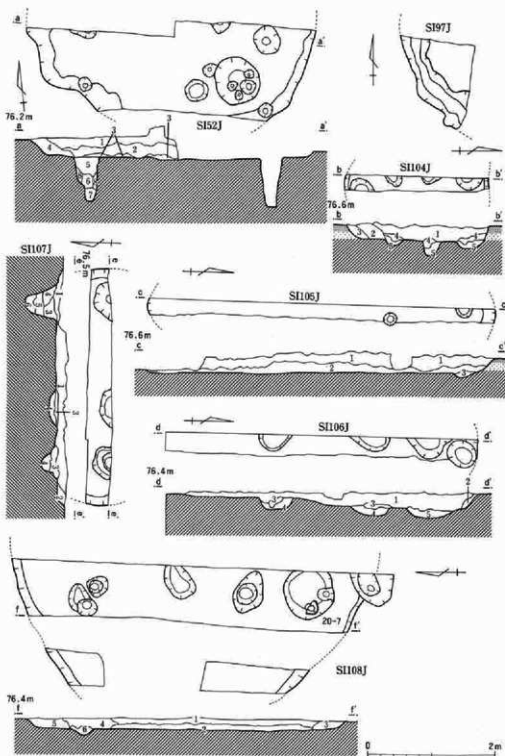
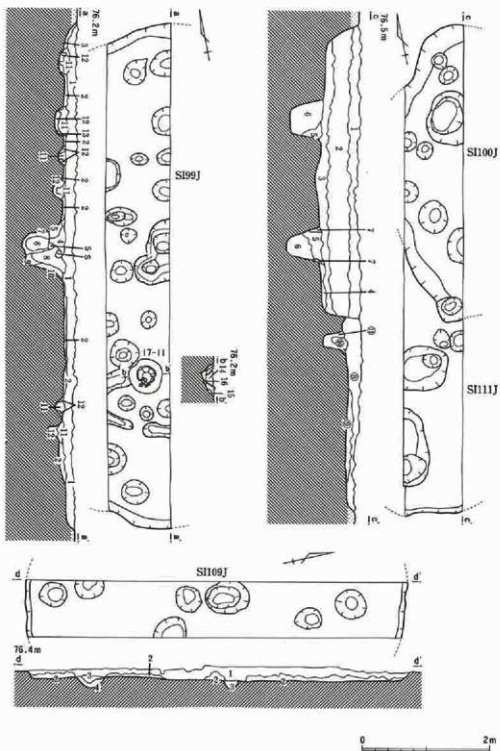
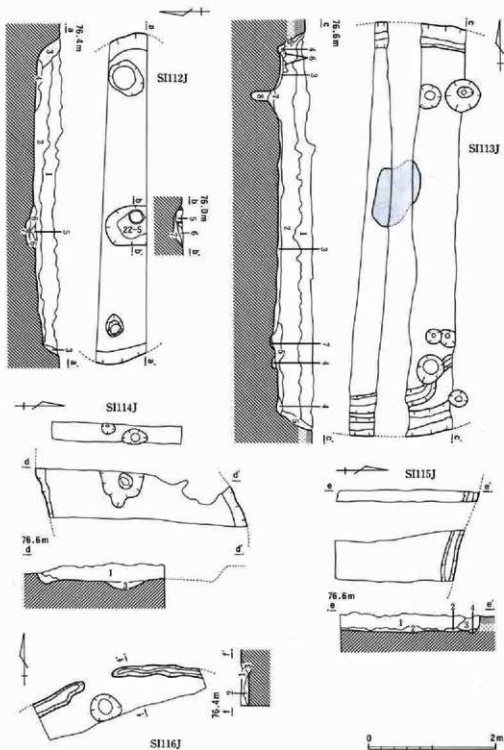


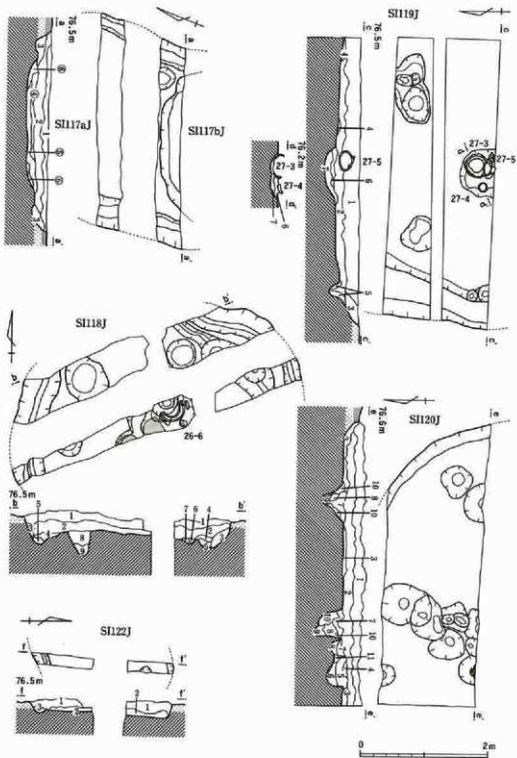
图 7 K2-36 S199 · 100 · 109 · 111J 住居跡



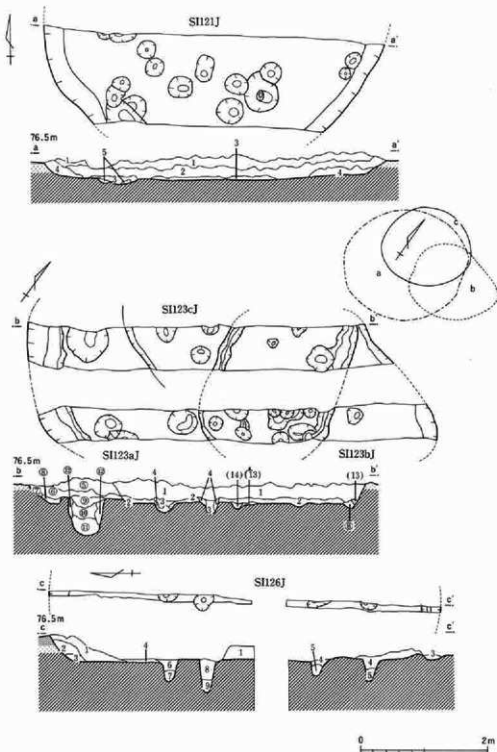
図面 8 K2-36 SI112~116J 住居跡



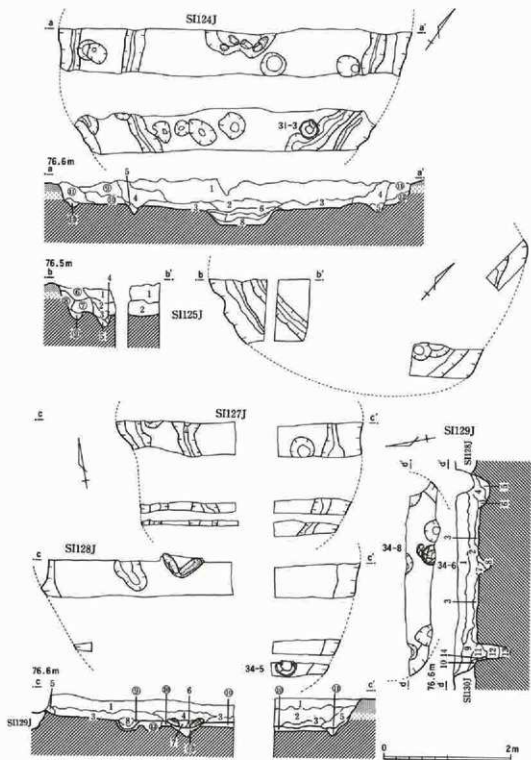
図面9 K2-36 SII17a・117b~120・122J住居跡



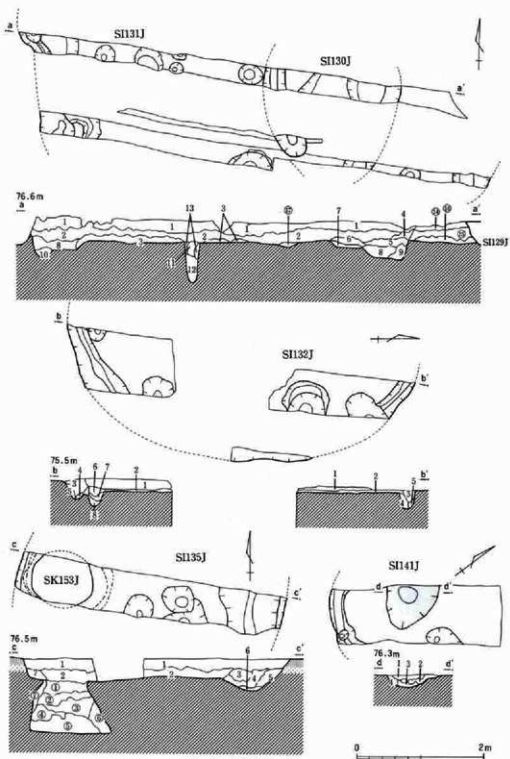
図面10 K2-36 SI121・123a・123b・123c・126J住居跡



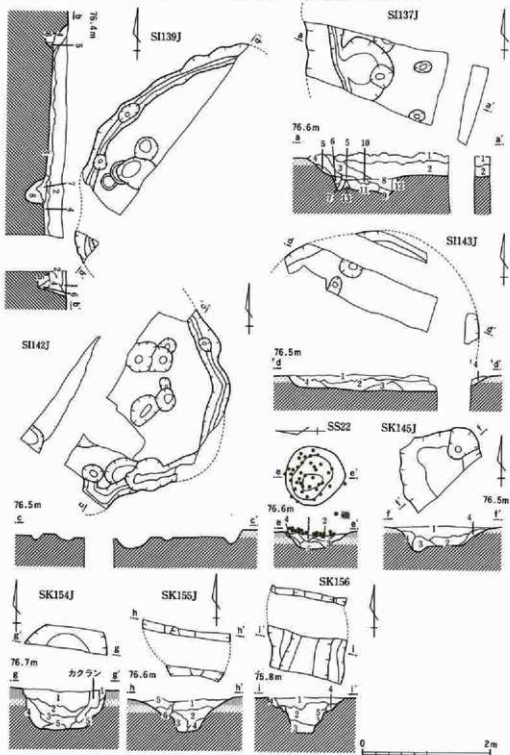
図面11 K2-36 SI124・125・127~129J住居跡



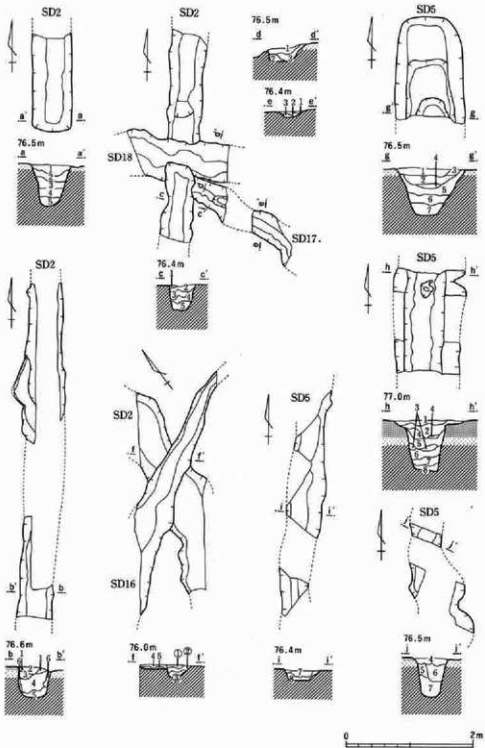
図面12 K2-36・40 SI130~132・135・141J住居跡



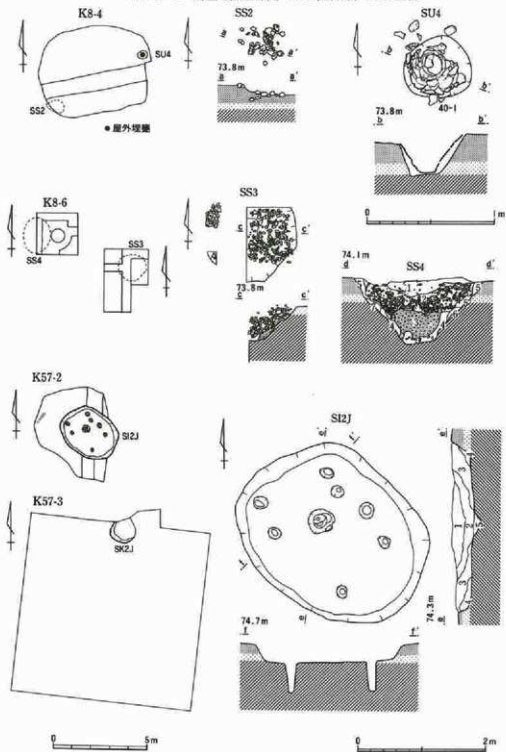
図面13 K2-36 SS22集石、SK145・154・155J土坑
K2-40 SI137・139・142・143J住居跡、SK156土坑



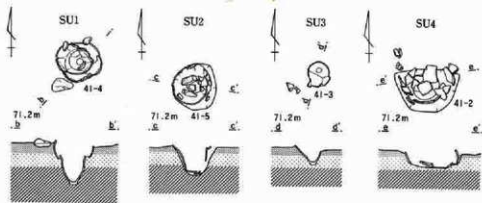
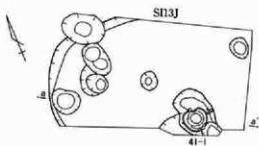
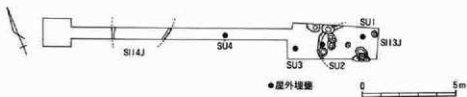
図面14 K2-36・40 SD2・5溝跡



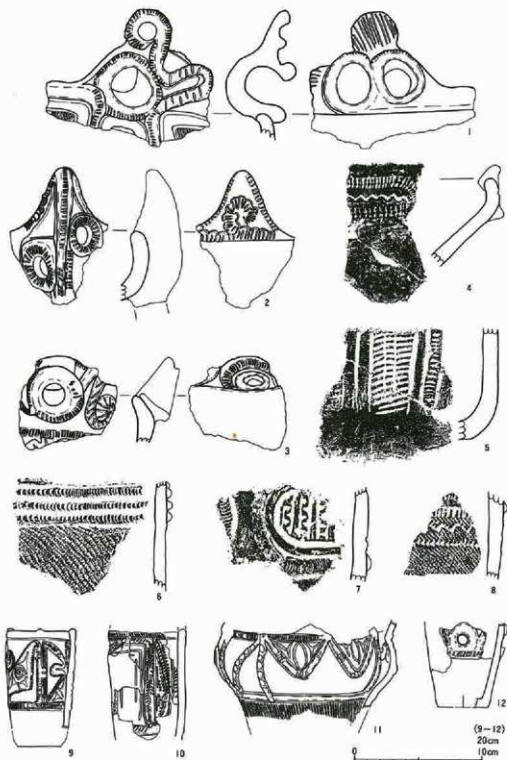
図面15 K8-4・6 調査地点全体図 SU4屋外埋壘、SS2~4集石
 K57-2・3 調査地点全体図 SI2J住居跡、SK2J土坑



図面16 K28-3 調査地点全体図 SI13J住居跡、SU1~4屋外埋施



図面17 K2-36 S152・99J 住居跡出土土器

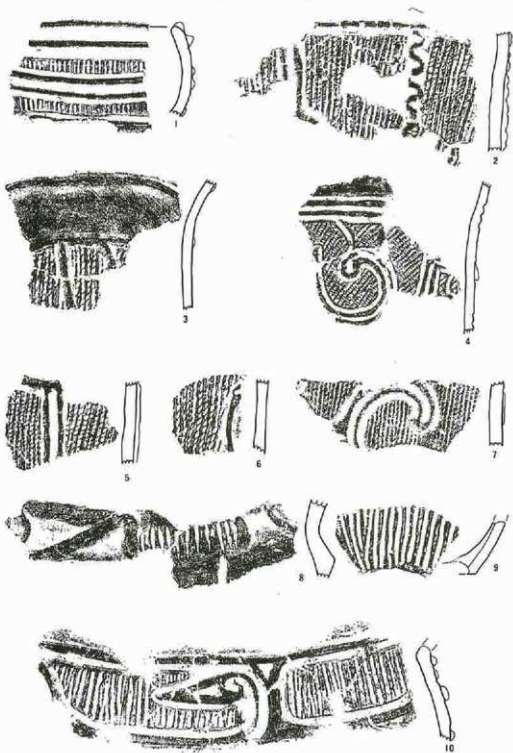


(9-12)
20cm
10cm

図面18 K2-36 SI99J住居跡出土土器

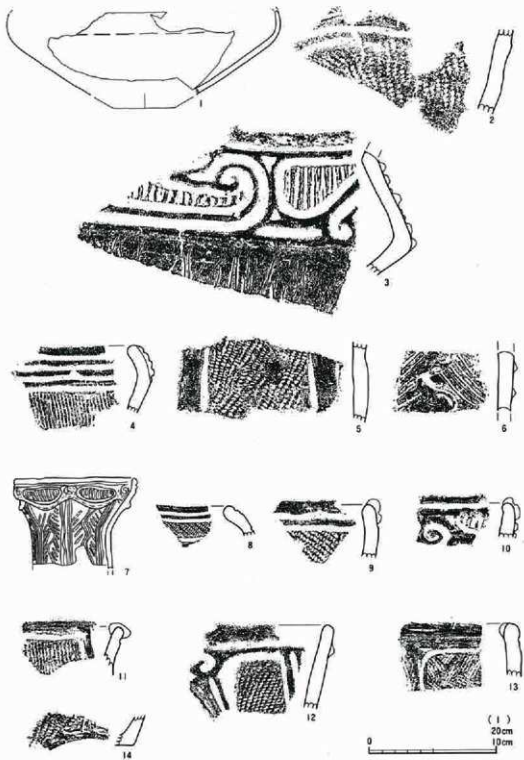


図面19 K2-36 S199J 住居跡出土土器

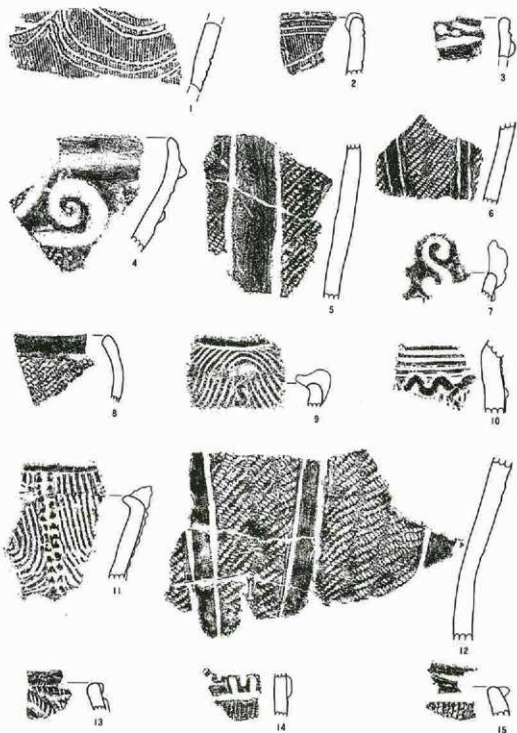


0 10cm

图面20 K2-36 S1100・107・108J住居跡出土土器



图面21 K2-36 S1108・109・111J住居跡出土土器



0 10cm

图面22 K2-36 S112J住居跡出土土器

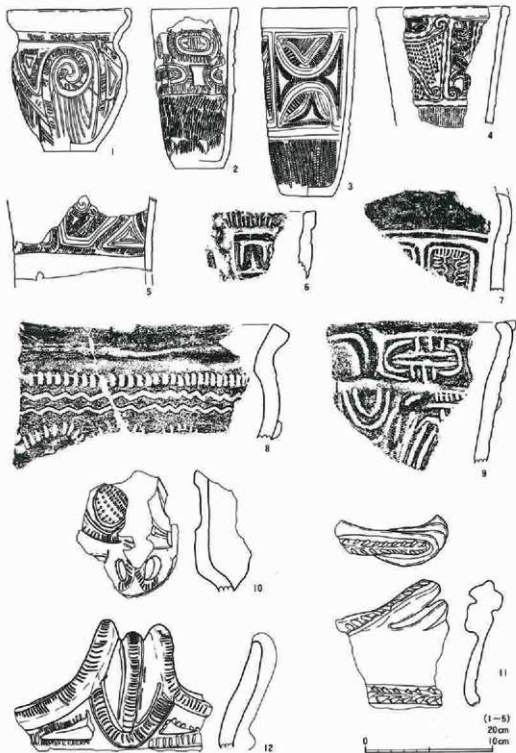
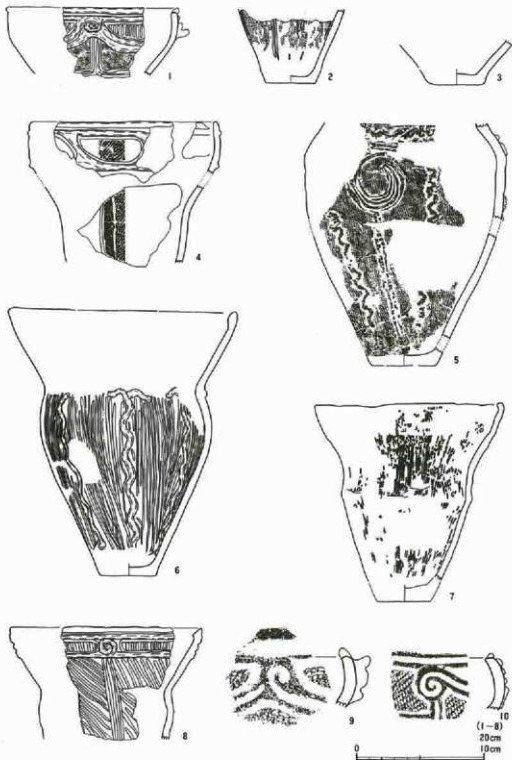
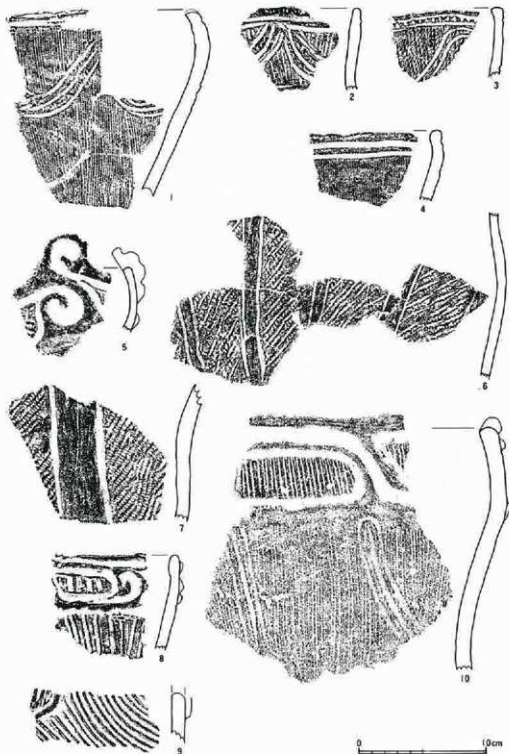


图23 K2-36 S1113J 住居跡出土土器



図面24 K2-36 SII13J 住居跡出土土器



图面25 K2-36 S1113・114J 住居跡出土土器

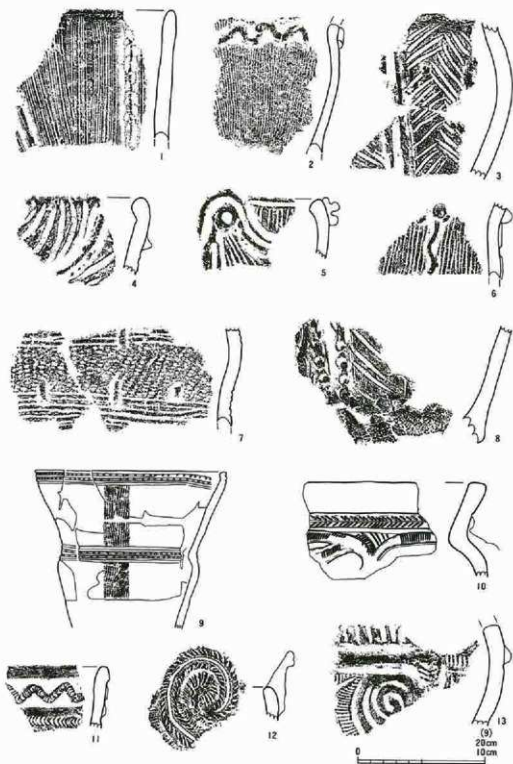
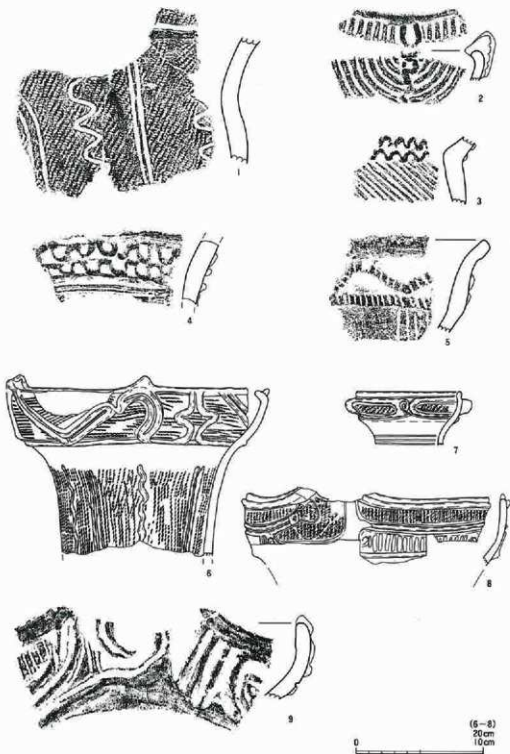
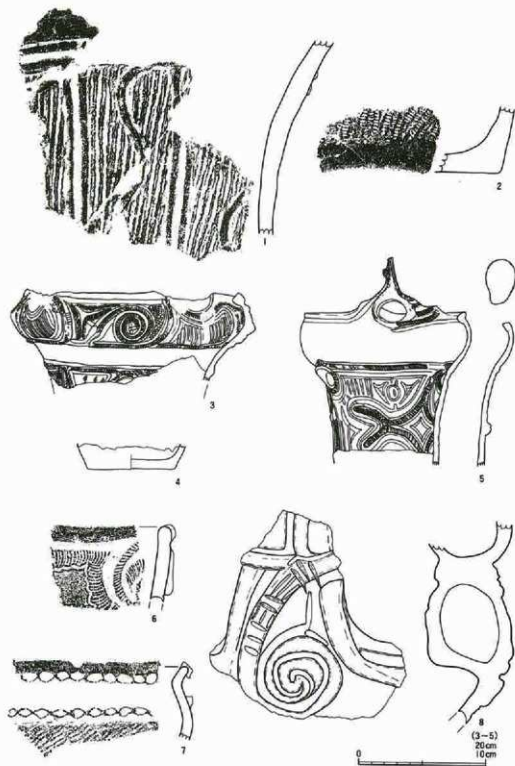


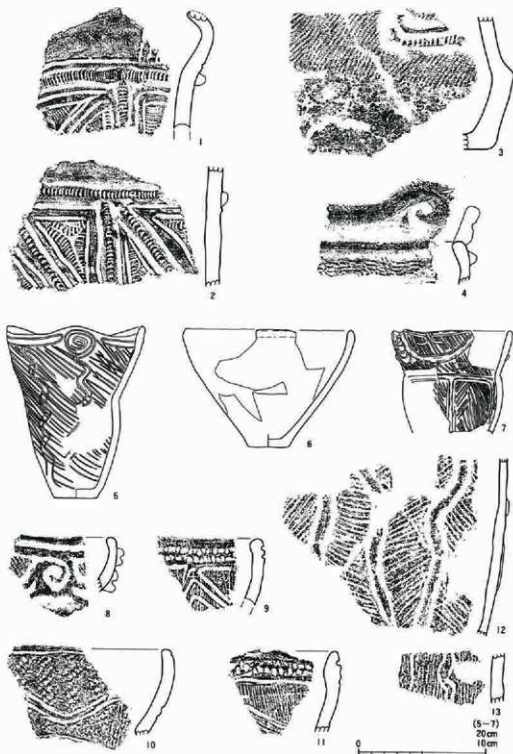
图26 K2-36 S114·115·117·118J 住居跡出土土器



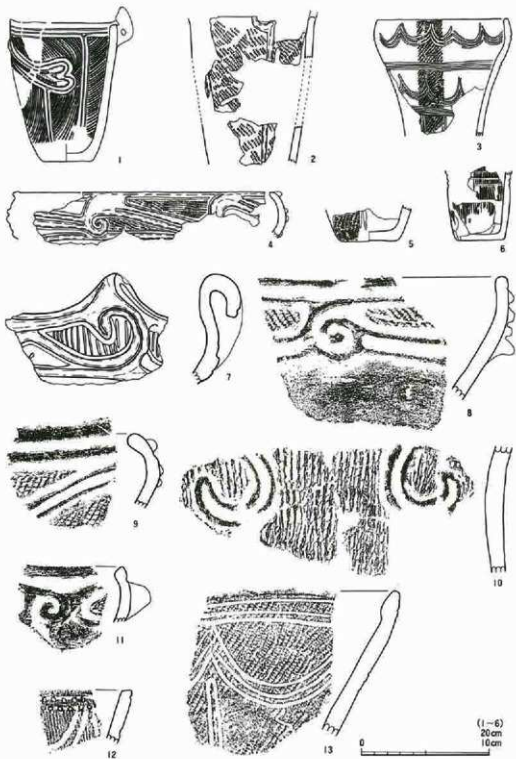
図面27 K2-36 S1118・119J 住居跡出土土器



図面28 K2-36 S119~122J 住居跡出土土器



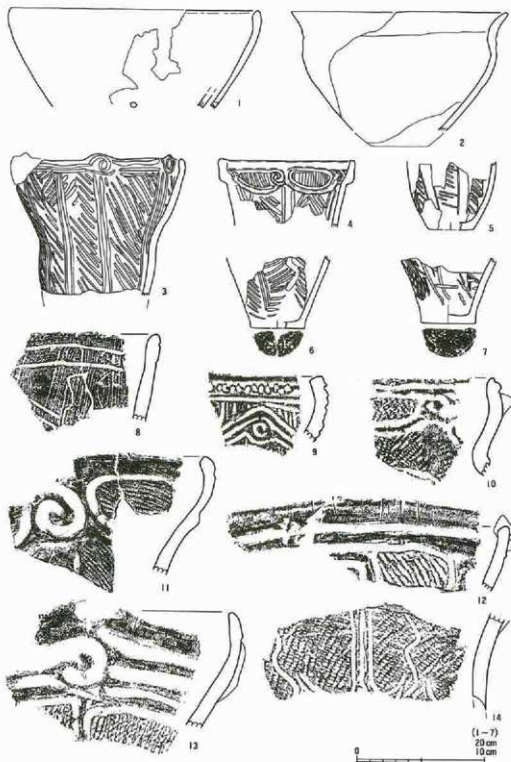
図面29 K2-36 S1123J 住居跡出土土器



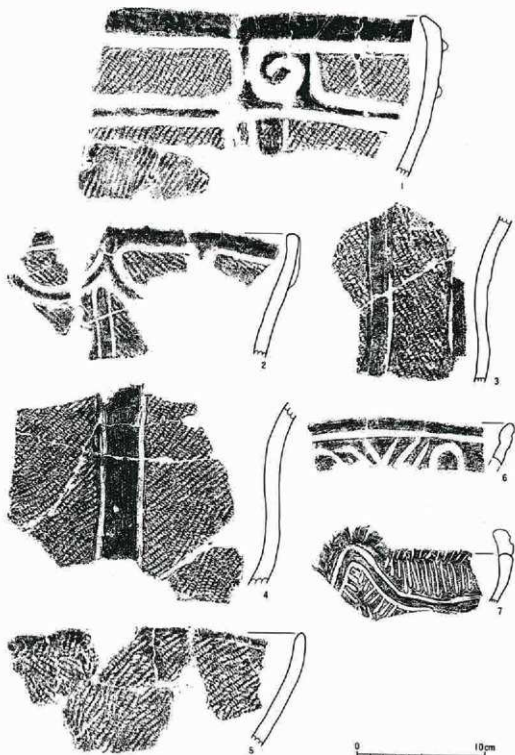
图面30 K2-36 S1123・124J 住居跡出土土器



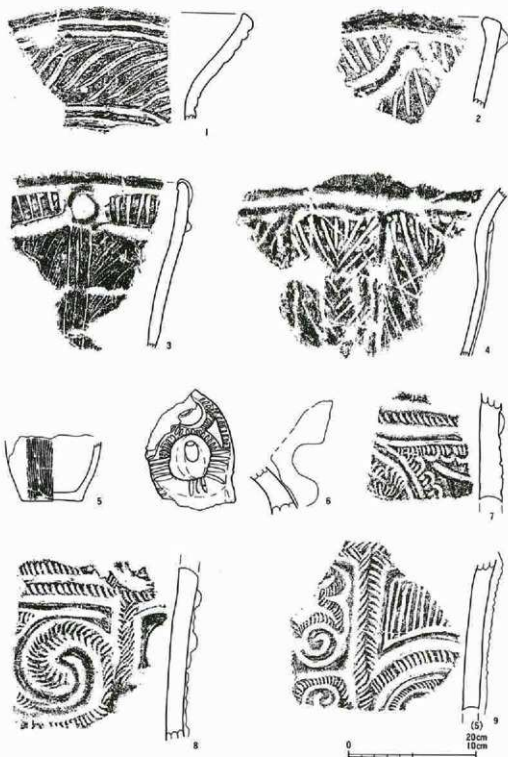
図面31 K2-36 S1124J 住居跡出土土器



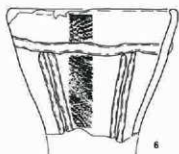
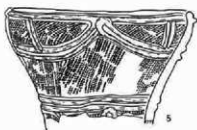
図面32 K2-36 S1124J 住居跡出土土器



图面33 K2-36 S1124・125J 住居跡出土土器



図面34 K2-36 SI125・128・129J 住居跡出土土器

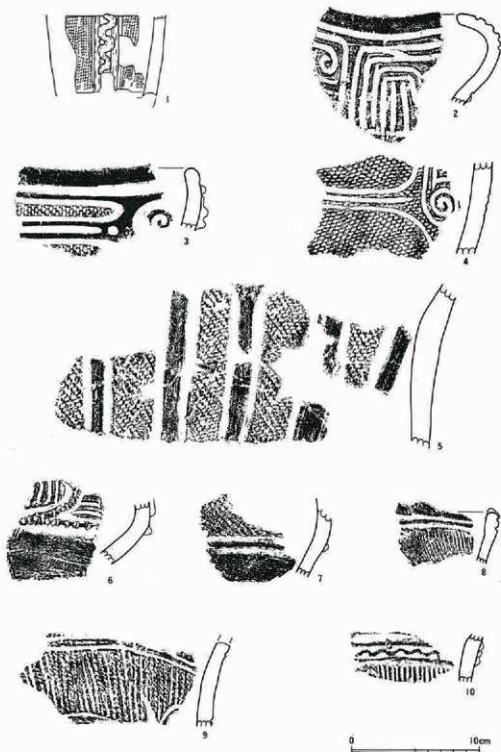


(5-8)
20cm
10cm
0

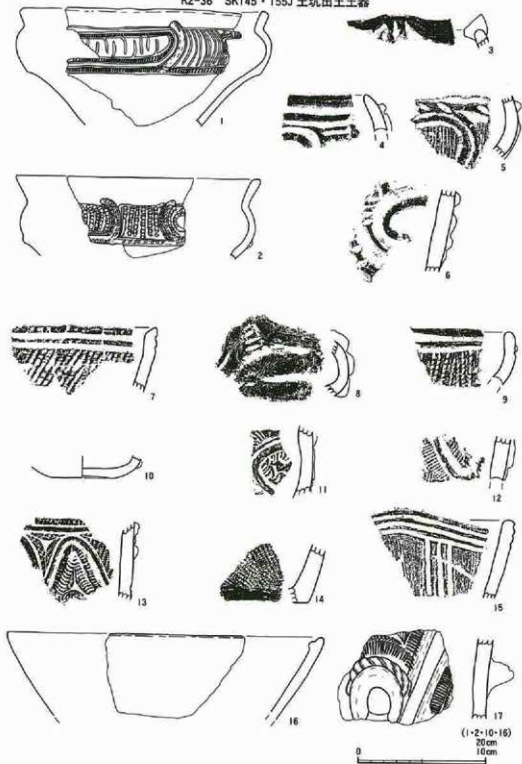
図面35 K2-36 S1130・131J住居跡出土土器



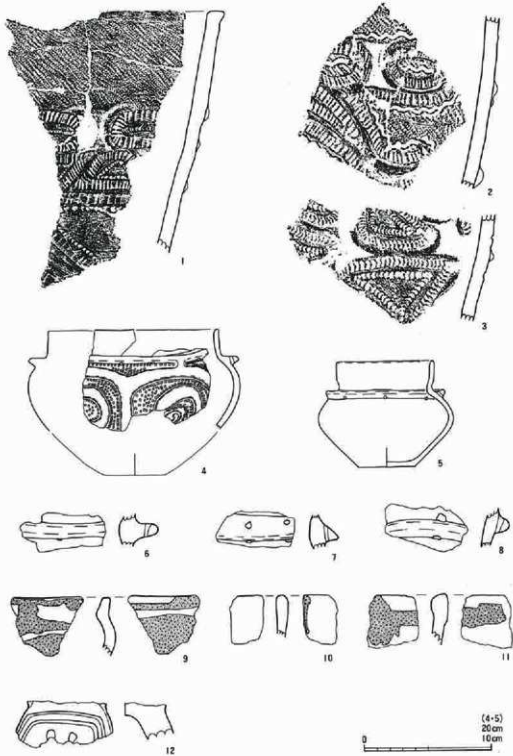
图面36 K2-36·40 S1132·135·137J住居跡出土土器



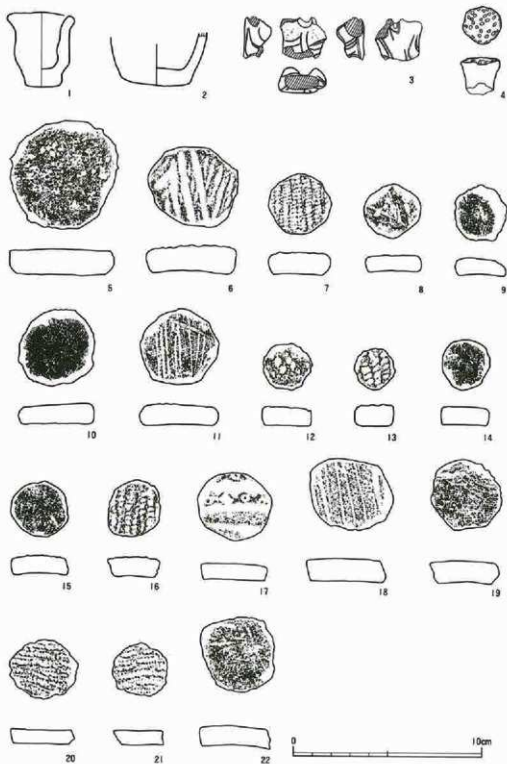
図面37 K2-40 SI139・141~143J 住居跡出土土器
 K2-36 SK145・155J 土坑出土土器



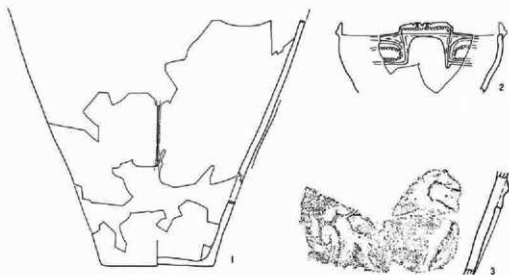
図面38 K2-36・40 SKI45J 土坑出土土器、土製品



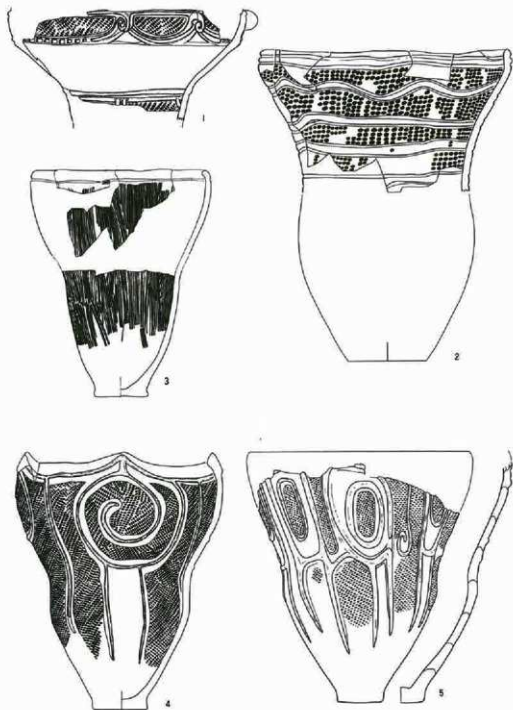
図面39 K2-36 土製品、土製円板



図面40 K8-4・6 SU4屋外埋壙、SS3集石出土土器
K57-2 SI2J 住居跡出土土器

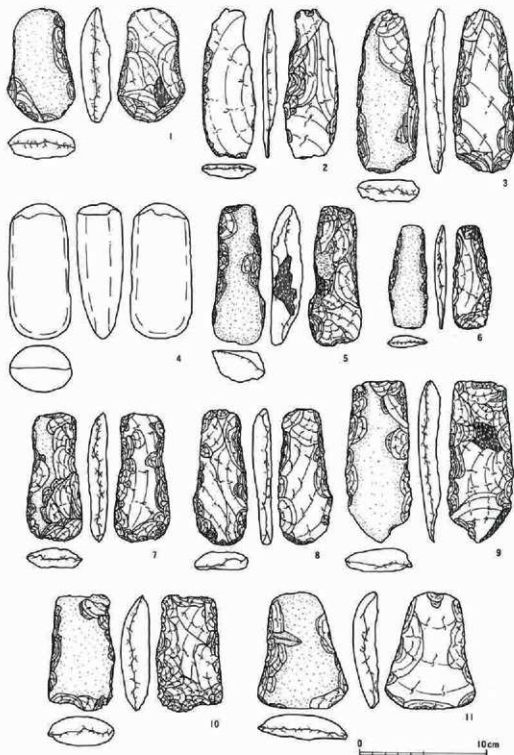


図面41 K28-3 S113J 住居跡、SUI~4屋外埋壺出土石器

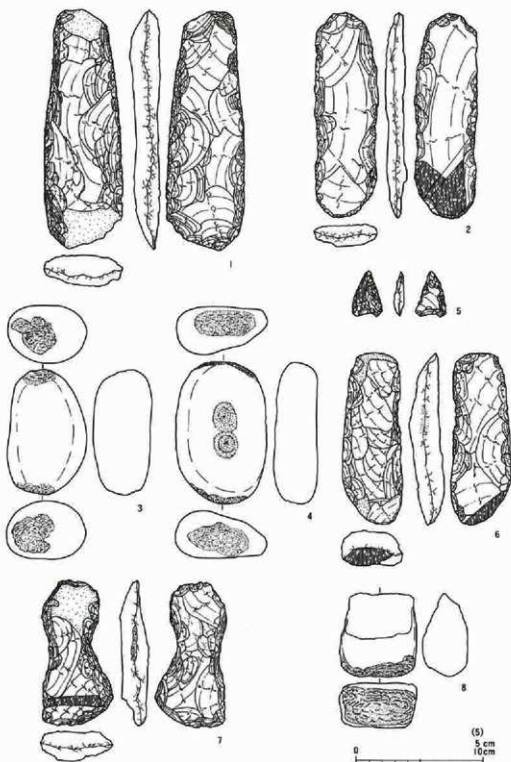


0 20cm

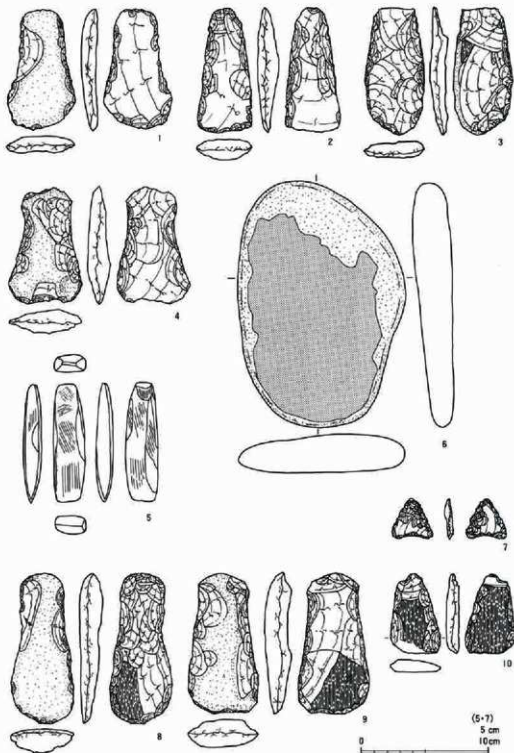
図面42 K2-36 SI52・99・108J 住居跡出土石器



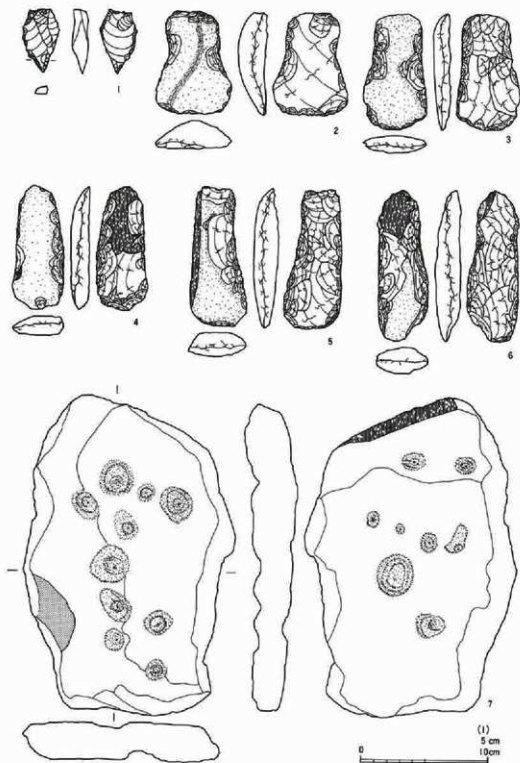
图面43 K2-36 S1100・103・112J 住居跡出土石器



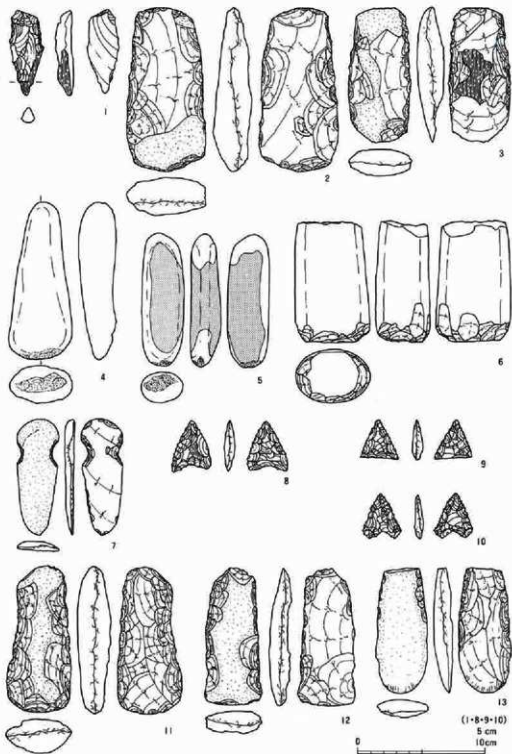
図面44 K2-36 S1113・114・116J 住居跡出土石器



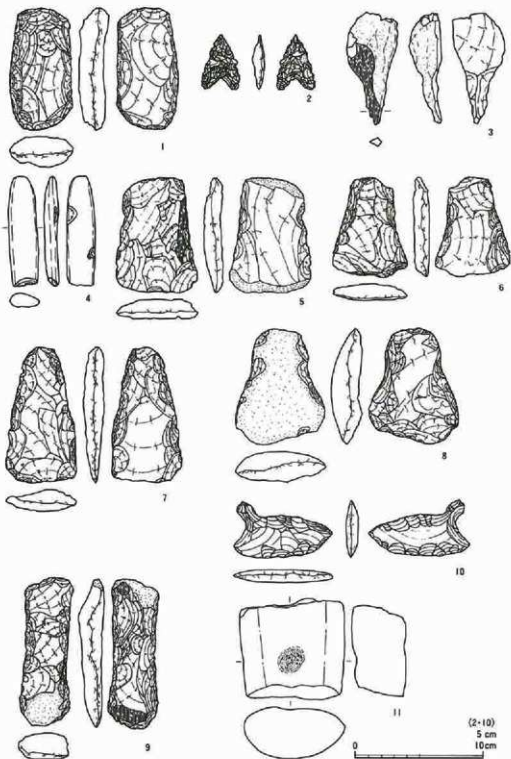
图面45 K2-36 S1117・118J 住居跡出土石器



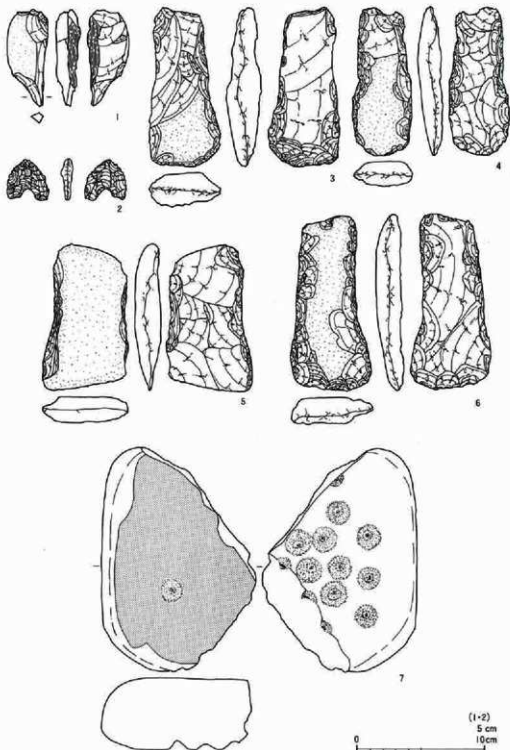
図面46 K2-36 S119~121J住居跡出土石器



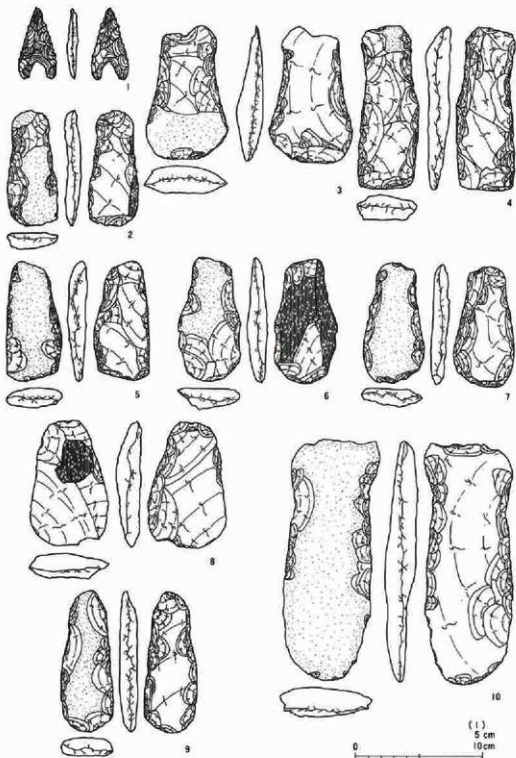
図面47 K2-36 S1121・123J 住居跡出土石器



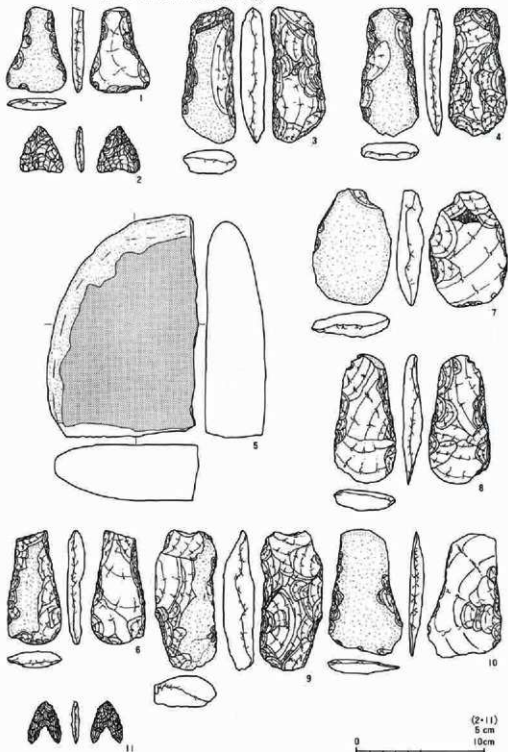
図面48 K2-36 SII24・127J 住居跡出土石器



図面49 K2-36 S1125・126・128～130J 住居跡出土石器



図面50 K2-36 S1131・135J住居跡、SK145・154J土坑、遺構外出土石器
 K2-40 S1137J住居跡出土石器



図面51 K2-40 SK156J 土坑出土石器
K57-2 S12J 住居跡出土石器

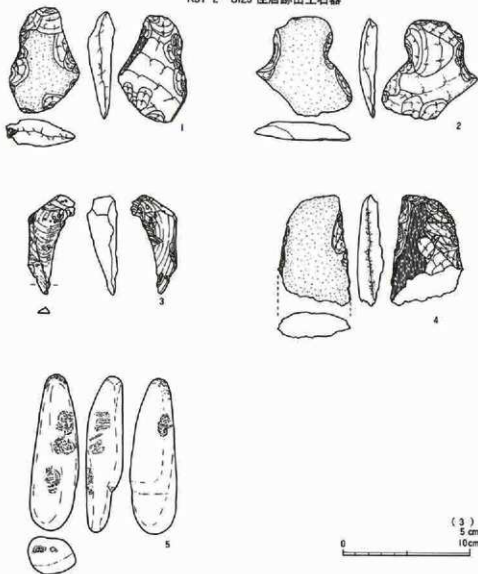


圖 版



1. K2遺跡遠景 (南から)



2. K8遺跡遠景 (西から)



1. K28遺跡遠景（南から）



2. 発掘作業風景 測量



3. 発掘作業風景 遺物取上げ



4. 発掘作業風景 遺構掘削



5. 発掘作業風景 実測



1. SI52J 住居跡全景 (東から)



2. SI52J 住居跡土層断面 (南から)



3. SI99J 住居跡全景 (北から)



4. SI99J 住居跡土層断面 (北西から)



5. SI99J 住居跡埋裏 (南から)



6. SI99J 住居跡炉跡 (西から)



7. SI100J 住居跡全景 (北から)



8. SI100J 住居跡土層断面 (北西から)



1. SI104J 住居跡全景 (東から)



2. SI104J 住居跡土層断面 (東から)



3. SI105J 住居跡全景 (北から)



4. SI105J 住居跡土層断面 (東から)



5. SI106J 住居跡全景 (南から)



6. SI106J 住居跡土層断面 (東から)



7. SI107J 住居跡全景 (東から)



8. SI107J 住居跡土層断面 (北から)



1. SI108J 住居跡全景 (南から)



2. SI108J 住居跡埋裏 (西から)



3. SI108J 住居跡土層断面 (西から)



4. SI108J 住居跡土層断面 (西から)



5. SI109J 住居跡全景 (南から)



6. SI109J 住居跡遺物出土状態 (南から)



7. SI112J 住居跡全景 (東から)



8. SI112J 住居跡炉跡 (西から)



1. SI113J 住居跡全景 (北から)



4. SI114J 住居跡全景 (南から)



6. SI115J 住居跡全景 (北から)



2. SI113J 住居跡炉跡 (北から)



3. SI113J 住居跡遺物出土状態 (東から)



5. SI114J 住居跡炉跡 (西から)



7. SI115J 住居跡土層断面 (東から)



1. SI116J 住居跡全景 (東から)



2. SI116J 住居跡土層断面 (東から)



3. SI117a・bJ 住居跡全景 (東から)



4. SI117bJ 住居跡土層断面 (北から)



5. SI118J 住居跡全景 (西から)



6. SI118J 住居跡炉跡 (北から)



7. SI120J 住居跡全景 (東から)



8. SI120J 住居跡炉跡 (北から)



1. SI119J 住居跡全景 (西から)



2. SI119J 住居跡炉跡 (北から)



3. SI119J 住居跡炉跡完掘 (北から)



4. SI121J 住居跡全景 (西から)



5. SI121J 住居跡土層断面 (南から)



6. SI121J 住居跡土層断面 (南から)



7. SI122J 住居跡全景 (南から)



8. SI122J 住居跡土層断面 (東から)



1. SI123a・b・cJ 住居跡全景 (東北から)



2. SI123a・b・cJ 住居跡土層断面 (東南から)



3. SI124J 住居跡全景 (東から)



4. SI124J 住居跡炉跡 (南から)



5. SI124J 住居跡埋壊出土状態 (北から)



6. SI125J 住居跡全景 (南から)



7. SI126J 住居跡全景 (北から)



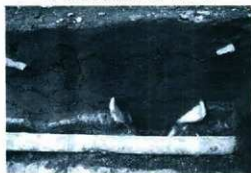
8. SI126J 住居跡土層断面 (西から)



1. SI127J 住居跡全景 (東から)



2. SI127J 住居跡土層断面 (南から)



3. SI128J 住居跡埋裏出土状態 (北から)



4. SI128J 住居跡埋裏 (北から)



5. SI128J 住居跡全景 (東から)



6. SI128J 住居跡土層断面 (南から)



7. SI129J 住居跡全景 (東から)



8. SI129J 住居跡土層断面 (南から)



1. SI130・131J 住居跡全景 (東から)



2. SI131J 住居跡全景 (西から)



3. SI130J 住居跡土層断面 (北から)



4. SI130J 住居跡土層断面 (南から)



5. SI131J 住居跡土層断面 (北から)



6. SI131J 住居跡土層断面 (南から)



7. SI132J 住居跡全景 (北から)



8. SI132J 住居跡土層断面 (東から)



1. SI135J 住居跡全景 (西から)



2. SI135J 住居跡全景 (東から)



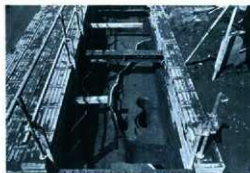
3. SI135J 住居跡土層断面 (南から)



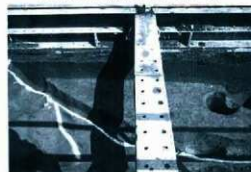
4. SI135J 住居跡土層断面 (南から)



5. SI137J 住居跡全景 (東から)



6. SI139J 住居跡全景 (南から)



7. SI139J 住居跡土層断面 (西から)



8. SI139J 住居跡土層断面 (西から)



1. SI141J 住居跡全景 (北から)



2. SI141J 住居跡炉跡 (南から)



3. SI141J 住居跡炉跡土層断面 (東から)



4. SI142J 住居跡全景 (南から)



5. SI143J 住居跡全景 (東から)



6. SI143J 住居跡土層断面 (南西から)



7. SS22集石全景 (西から)



8. SS22集石土層断面 (西から)



1. SK145J 土坑全景 (西から)



2. SK145J 土坑土層断面 (北から)



3. SI135J 住居跡内 SK153J 土坑全景
(南から)



4. SI135J 住居跡内 SK153J 土坑土層断面
(南から)



5. SK154J 土坑全景 (東から)



6. SK154J 土坑土層断面 (北から)



7. SK155J 土坑全景 (東から)



8. SK155J 土坑土層断面 (南から)



1. SD2溝跡全景 (東から)



2. SD2溝跡土層断面 (南から)



3. SD5溝跡全景 (東から)



4. SD5溝跡土層断面 (北から)



5. SK156土坑全景 (東から)



6. SK156土坑土層断面 (北から)



7. SU4屋外埋礎 (東から)



8. SS2集石全景 (東から)



1. SS3集石全景 (東から)



2. SS4集石全景 (東から)



3. SI13J住居跡全景 (東から)



4. SI13J住居跡炉跡 (北から)



5. SI14J住居跡全景 (西から)



6. SU1屋外埋裏 (東から)



7. SU2屋外埋裏 (東から)



1. SU3屋外埋護 (東から)



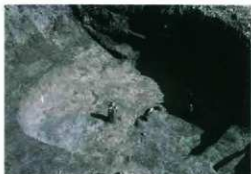
2. SU4屋外埋護 (北から)



3. SK2J土坑全景 (南から)



4. SI2J住居跡全景 (南西から)



5. SI2J住居跡遺物出土状態 (南西から)



6. SI2J住居跡土層断面 (東から)



7. SI2J住居跡炉跡 (北から)



8. SI2J住居跡炉跡土層断面 (北から)

図版18 K2-36 S152・99J住居跡出土土器



17-1



17-4



17-2



17-3



17-5



17-6



17-7



17-8



17-9



17-10



17-11



17-12



18-3



18-4



18-5



18-1



18-2



18-6



18-8



18-7



18-9



18-10



18-11



18-12



19-1



19-2



19-3



19-4



19-5



19-6



19-7



19-8



19-10



19-9



20-2



20-1



20-3



20-4



20-5



20-6



20-7



20-8



20-9



20-10



20-11



20-12



20-13



20-14



21-1



21-2



21-3



21-4



21-5



21-6

図版21 K2-36 S1108・109・111・112J 住居跡出土土器



21-7



21-8



21-9



21-10



21-11



21-12



21-13



21-14



21-15



22-1



22-2



22-3



22-4



22-5



22-6



22-7



22-8



22-9



22-10



22-11



22-12



23-1



23-2



23-3



23-4



23-5



23-6



23-7



23-9



23-10



23-8



24-1



24-2



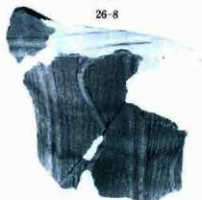
24-3

図版23 K2-36 S1113・114J 住居跡出土土器





26-6



图版25 K2-36 S1119~123J 住居跡出土土器



27-8



28-1



28-2



28-3



28-4



28-5



28-6



28-7



28-8



28-9



28-10



28-11



28-13



28-12



29-1



29-2



29-3



29-4



29-5



29-6



29-7



29-8



29-9



29-10



29-11



29-12



29-13



30-1



30-2



30-3



30-4



30-5



30-6



30-7



30-8



30-9



30-10



30-11



30-12



30-13



31-1



31-2



31-4



31-3



31-5



31-6



31-7



31-8



31-9



31-10



31-12



31-11



31-13



31-14



32-1



32-2



32-3



32-4



32-5



32-7



32-6



33-2



33-1



33-3



33-4



33-5

図版29 K2-36 S1125・128~130J 住居跡出土土器



33-6



33-7



33-8



33-9



34-1



34-2



34-5



34-3



34-4



34-6



34-7



34-9



35-1



35-2



34-8



35-3



35-4



35-5



35-6



35-7



35-8



35-9



35-10



35-11



35-12



36-1



36-2



36-3



36-4



36-5



36-6



36-7



36-8

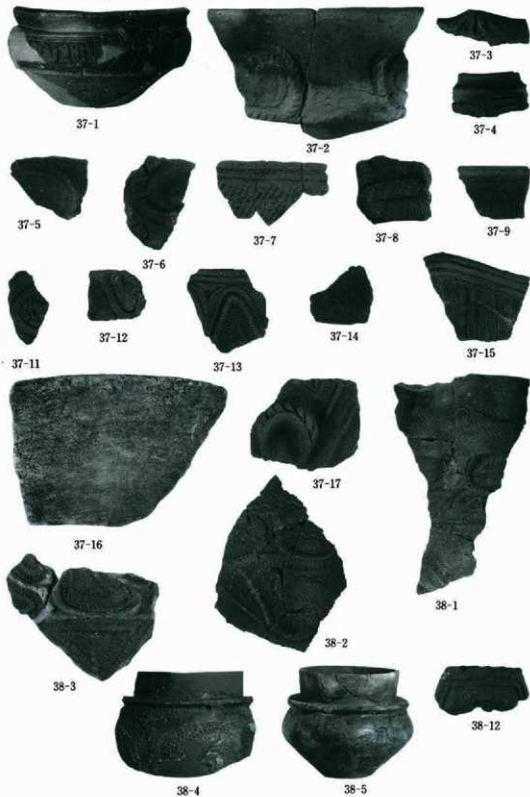


36-9



36-10

図版31 K2-40 SI139・141～143J 住居跡出土土器
 K2-36 SK145・155J 土坑出土土器、土製品



図版32 K2-36 土製品、土製円板



39-1



39-2



39-3



39-4



39-5



39-6



39-7



39-8



39-9



39-10



39-11



39-12



39-13



39-14



39-15



39-16



39-17



39-18



39-19



39-20



39-21



39-22

図版33 K28-3 S113J 住居跡、SUI~4屋外埋藏出土土器



41-1



41-3



41-2



41-4



41-5

図版34 K8-4・6 SU4屋外埋藏、SS3集石出土土器
K57-2 SI2J 住居跡出土土器



40-1



40-2



40-3



40-4



40-5



40-6



40-7

图版35 K2-36 S152·99·100·108·109·112·113J 住居跡出土石器



42-1



42-2



42-3



42-4



42-5



42-6



42-7



42-8



42-9



42-10



42-11



43-1



43-2



43-3



43-5



43-4



43-6



43-7



43-8



44-1



44-2



44-3



44-4

图版36 K2-36 S1113·114·116~121J 住居跡出土石器



44-5



44-6



44-7



44-10



44-8



44-9



45-1



45-2



45-3



45-4



45-5



45-6



45-7



46-1



46-2



46-3



46-4



46-5



46-6



46-7



46-8



46-9



46-10

図版37 K2-36 SII21・123~125・127J住居跡出土石器



46-11



46-12



46-13



47-1



47-2



47-3



47-4



47-5



47-6



47-7



47-8



47-9



47-10



47-11



48-1



48-2



48-3



48-4



48-5



48-6



48-7



49-1

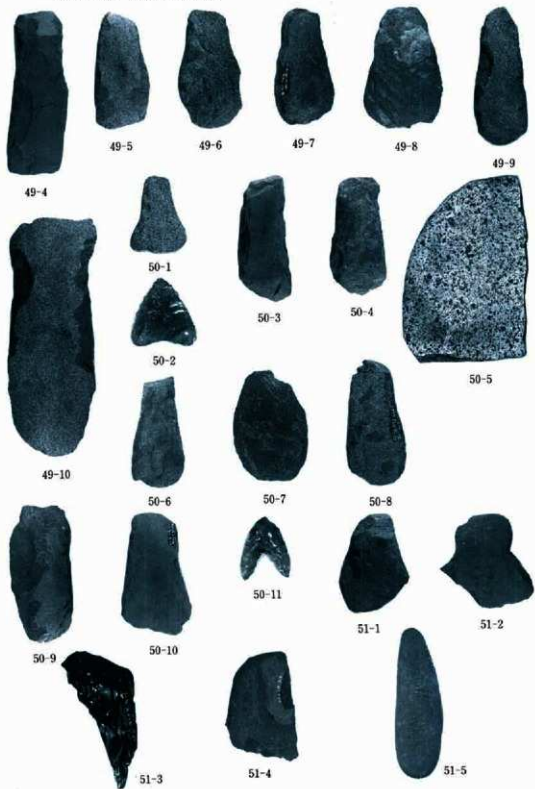


49-2



49-3

图版38 K2-36 S1125・126・128~131・135J 住居跡 SK145・154J 土坑、遺構外出土石器
 K2-40 S1137J 住居跡出土石器
 K57-2 S12J 住居跡出土石器



報告書抄録

ふりがな	こいがくほいせきちょうさほうこく							
書名	恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅷ							
副書名	—国分寺市公共下水道面整備工事に伴う調査—							
編著者名	国分寺市遺跡調査団 (団長 吉田格)、上村昌男							
編集機関	国分寺市遺跡調査会							
所在地	〒185 東京都国分寺市戸倉1-6-1 TEL 0423-25-0111(代表)							
発行年月日	1997年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
	所在地	市町村	道路番号	°				°
恋ヶ窪遺跡 他	東京都 国分寺市 西恋ヶ窪 1丁目他	13-214	No.2	35度 42分 08秒	136度 28分 12秒	1983年11月29日 1993年09月27日	恋ヶ窪遺跡 896.29㎡ 他 578.60㎡	国分寺市公共下 水道面整備工事 に伴う事前調査
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
恋ヶ窪遺跡 他	集落跡	縄文時代	堅穴住居跡 41軒 堀外埋戻 5基 築石跡 4基 土坑 14基 小穴 91個	土器 石器 土製品	恋ヶ窪遺跡 縄文時代中期 の集落に係る遺構を検出 他 市内遺跡における縄文 時代中期の遺構を検出			
		歴史時代	溝跡 9条 土坑 10基	なし	恋ヶ窪遺跡 検出された遺 構の内SD2・5は道路状遺構 の倒壊である			

恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅷ

—国分寺市公共下水道面整備工事に伴う調査—

発行日 平成9年3月25日
 編著者 国分寺市遺跡調査団
 © (団長 吉田 格)
 発行所 国分寺市遺跡調査会
 〒185 国分寺市戸倉1-6-1
 TEL 0423-25-0111 (代表)
 東京都国分寺市教育委員会内
 印刷所 株式会社 碧ほうせい

令和4年(2022)3月9日 デジタル版作成
 底本はB5版。